

平成 21 年度

学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究事業

県立学校における学校評価実践事例集



愛媛県教育委員会

まえがき

21世紀を迎え、我が国では、新しい時代に即応し世界の発展に貢献できるたくましい日本人を育成するため、様々な教育改革が推し進められています。このような中、学校は、自主性・自立性を高め、特色ある学校づくりを進める一方、自校の教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と充実を図るとともに、説明責任を果たし、家庭や地域との連携協力をより一層進めていくことが重要となってきました。そのため、国においては、平成19年6月に学校教育法の改正を、同年10月に、学校教育法施行規則の一部改正を行い、すべての学校において、

- ① 自己評価の実施・公表を行うこと。
- ② 学校関係者による評価の実施・公表に努めること。
- ③ 自己評価結果・学校関係者評価結果を設置者に報告すること。

を義務付ける規定を新たに設け、学校評価の更なる推進を図ることとしました。

本県県立高校等においては、従前から、マニフェストの作成や児童生徒・保護者等へのアンケートの実施、学校公開授業日の設定・実施、ホームページへの学校情報の掲載等を行い、学校評価とその結果の公表に取り組んできましたが、今回の学校教育法等の法律の改正を受けて、本県では、平成20年4月に愛媛県県立学校管理規則を改正し、すべての県立学校で、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を公表するとともに、評価結果の報告を行うこととしました。

さらに、県教育委員会では、今年度、学校の自己評価や学校関係者評価の推進、学校による情報提供等の充実・改善に資するため、文部科学省の委託事業である「平成21年度学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究事業」を実施し、高等学校8校、中等教育学校1校、特別支援学校1校を実践校として指定して、適切な学校評価システムについての実践研究に取り組みました。

本実践事例集は、各実践校が学校の特性や実態を踏まえ、創意・工夫して研究を行った今年度の取組のまとめとして、多様な実践の一部を掲載したものであります。高等学校、中等教育学校、特別支援学校はもとより県内各市町教育委員会並びに小学校・中学校において、この実践事例集が十分に活用され、学校・家庭・地域の連携協力による開かれた学校づくり、学校運営の組織的・継続的な改善が一層進められることを期待しています。

最後に、本事業の実施及び本事例集の作成に当たり御指導御助言いただいた愛媛大学教育学部露口健司准教授をはじめ運営委員会委員の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成22年2月

愛媛県教育委員会

目 次

1 事業報告		
	愛媛県教育委員会	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 研究成果発表会講演要旨		
「高等学校における学校評価・情報提供等の充実・改善について」		
	愛媛大学教育学部准教授 露口 健司	・ ・ ・ ・ ・ 5
3 実践校事例報告		
(1) 効果的な評価で学校を改善する取組		
	愛媛県立三島高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 10
(2) 総合学科における学校関係者評価の改善と充実		
～情報提供を活用して日々成長を実感できる学校づくりを目指して～		
	愛媛県立新居浜南高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 18
(3) 客観性の高い学校関係者評価を目指して		
	愛媛県立松山東高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 25
(4) 高等学校における学校関係者評価の実施に係る研究		
～自分らしく、たくましく、美しく輝く大洲高校にするための学校評価の在り方～		
	愛媛県立大洲高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 31
(5) 実践研究の具体的な取組		
～学校マニフェスト、学校評価アンケートの改善、情報提供の改善～		
	愛媛県立大洲農業高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 39
(6) 学校関係者評価の実施と改善		
～地域に支えられた実践的技術者の養成を目指した学校づくり～		
	愛媛県立八幡浜工業高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 45
(7) 学校関係者評価の実施に係わる研究		
	愛媛県立宇和島東高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 53
(8) 学校関係者評価の実施に係る研究		
～地域社会と一体となった特色ある学校づくりを目指して～		
	愛媛県立津島高等学校	・ ・ ・ ・ ・ 59
(9) 学習・生活習慣向上プロジェクト  プラン		
	愛媛県立今治東中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・ 65
(10) 聴覚障害特別支援学校における学校評価の充実		
～聴覚障害特別支援学校としてのPDCAサイクルの構築を目指して～		
	愛媛県立松山聾学校	・ ・ ・ ・ ・ 72
(参考)		
運営委員会委員及び実践校一覧		・ ・ ・ ・ ・ 80
県立学校における学校評価の実施状況等調査（平成20年度間）		・ ・ ・ ・ ・ 81
県立学校における学校評価実施要領		・ ・ ・ ・ ・ 83

【事業報告】

「平成21年度 学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究事業」

愛媛県教育委員会

愛媛県教育委員会は、平成21年度文部科学省委託事業「学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究事業」（委託期間：平成21年6月1日～平成22年2月26日）の指定を受け、県立学校10校を実践校として、実践研究に取り組んだ。

1 研究課題

- (1) 主たる研究課題： 高等学校及び特別支援学校における学校関係者評価の実施に係る研究
- (2) 補助的な研究課題： 学校評価の実施を念頭においた高等学校（特別支援学校）による情報提供に係る研究

2 取組の概要

- (1) 高等学校8校、中等教育学校1校、特別支援学校1校を実践校に指定し事業を実施した。実践校では、平成21年度の学校評価委員会、学校関係者評価委員会を設置し、学校の自己評価及び学校関係者評価の充実・改善に取り組んだ。

＜実践校＞

学校名	学科名等	児童・生徒数（名）	地区
三 島 高 等 学 校	普通科・商業科	931	東予
新 居 浜 南 高 等 学 校	総合学科	332	
松 山 東 高 等 学 校	普通科	1,197	中予
大 洲 高 等 学 校	普通科・商業科	578	
大 洲 農 業 高 等 学 校	農業科	339	
八 幡 浜 工 業 高 等 学 校	工業科	326	南予
宇 和 島 東 高 等 学 校	普通科・理数科・商業科	969	
津 島 高 等 学 校	普通科	288	
今 治 東 中 等 教 育 学 校	普通科	864	東予
松 山 聾 学 校	幼稚部・小学部・中学部・高等部	44	中予

- (2) 実践校における学校評価の取組について、実践研究の内容及び進捗状況を把握するとともに、専門的見地から指導・助言を行い、学校評価・情報提供の充実・改善に資するため、「学校評価事業運営委員会」を設置し、協議を行った。

① 学校評価事業運営委員会の構成員

学識経験者 大学教員、元高等学校長
 保護者 県高等学校PTA連合会長、同副会長
 地域住民 公民館長
 その他 企業人事担当者、中学校長 計7名

② 第1回学校評価事業運営委員会

期 日 平成21年7月8日（水）10:30～12:30
 会 場 にぎたつ会館「鳳凰の間」
 参加者 学校評価事業運営委員（7名）
 実践校校長（10名）
 教育委員会事務局職員（6名）
 主な内容 運営委員紹介
 本事業について
 学校評価について（松山南高校教頭）
 研究協議・情報交換・指導助言

〈運営委員からの主な指導助言〉

- ・ 評価は、学校が元気になる評価でなければならない。
- ・ 評価は、教員の負担にならないものにすべきである。SQS システムは効果的である。
- ・ 生徒のプラスになる、生徒を認める視点をもってほしい。
- ・ 数値目標だけにとらわれないでほしい。
- ・ それぞれの学校の特徴を明確にし、よいことも悪いことも正直にオープンにしてほしい。
- ・ 学校評価を学校改善に生かして学校が元気になった、信頼関係が強くなったという学校の共通点として、「多くの人に理解してもらう一つの方法として、図や表をうまく活用する。」「全教職員に参画意識をもたせる。」「目標を絞り込む。」等があげられる。
- ・ 情報提供の方法としては、ホームページよりも学校通信の方が有効である場合がある。
- ・ 何のための評価かが原点である。
- ・ よい評価は大いに活用すべきである。

③ 第 2 回学校評価事業運営委員会

期 日 平成 21 年 10 月 28 日（水） 9:30 ～11:30
 会 場 にぎたつ会館「椿の間」
 参加者 学校評価事業運営委員（7 名）
 実践校校長及び事業担当者（20 名）
 教育委員会事務局職員（5 名）
 主な内容 実践校における取組について
 研究協議・指導助言

〈運営委員からの主な指導助言〉

- ・ マニフェストの実現に向けた心構え等の指導をしているか。
- ・ 学校の決めた目標を生徒は納得しているのか。教職員は共有できているのか。
- ・ 数値目標は、到達目標ではなく、目標に向かうプロセスである。
- ・ 人間力向上のための、量では計れない部分を大事にすること。
- ・ 数値目標に縛られたり、事業をこなすための評価になることのないようにしてほしい。
- ・ 実践校は県下のモデル校である。それぞれの学校の特徴が見えにくい。成果を計る項目の更なる研究が必要である。
- ・ 組織の目標を個人にどう伝えていくか、どう広めていくかが大切である。
- ・ 目標や評価項目は絞り込まないと、生徒に理解させることは困難である。
- ・ 評価結果がよくなったことに一喜一憂する姿勢が管理職には必要である。
- ・ 改善の取組を学校の活性化につなげてほしい。
- ・ 教職員が自由に語れる場をもつことも効果的である。
- ・ 結果の公表については、学校がよくなるために、だれに対し何を伝えるかを検討する。
- ・ 長続きする学校評価であってほしい。

④ 運営委員会開催後の実践校の改善例

- ・ 改善項目の焦点化を図った。
- ・ 分かりやすい資料の作成、分析方法について再検討した。
- ・ アンケート項目・発問方法の検討を行った。
- ・ 即解決できる課題については随時対応することにした。
- ・ 学校関係者へ事前に情報提供するようにした。
- ・ 担当者の負担が大きくなりすぎないように、評価項目の担当割り当てを決め、責任の明確化を図った。
- ・ ホームページの毎日の更新に取り組んだ。
- ・ 保護者あての配付文書は色付き用紙に印刷することにした。
- ・ P T A 各種委員会活動を活用した情報提供の在り方について検討した。

(3) 研究成果発表会の開催と、実践事例集の作成（平成 22 年 2 月末発行）・配付により、研究成果の普及・定着を図った。

① 研究成果発表会

期 日 平成 22 年 1 月 20 日（水）10:15 ～15:30
会 場 メルパルク松山「瑞雲・鳳凰の間」「松の間」
参加者 県立学校各 2 ～ 3 名（校長及び事業担当者等の教諭）
学校評価事業運営委員（3 名）
教育委員会事務局職員（7 名） 計 145 名

主な内容

講演「高等学校における学校評価・情報提供等の充実・改善について」

（講師：愛媛大学教育学部 准教授 露口健司氏）

実践校による発表「学校評価の取組について」

分科会及び研究協議

（助言者：運営委員 栗田正己氏、新尾智子氏）

〈助言者からの主な指導助言〉

- ・ 学校評価とは、学校の体質改善を図るための人間ドックのようなものである。
- ・ 保護者や地域住民、学校関係者に学校のことを知ってもらうこと自体に情報提供の意味がある。きちんとした評価を受けるために、確かな情報提供が必要である。最大の情報は、「生徒」である。
- ・ 学校・教職員は、「裸の王様」の傾向がある。ときには、外からどう見られているかということを意識することも大事である。一方で、外からの評価に流されない頑固さが必要な場合もある。
- ・ 教員同士の話し合いの場を設けることも効果的である。
- ・ 長いスパン、短いスパンのビジョンが必要である。
- ・ 各学校のアイデンティティは何かを考慮した評価にすることも大切である。
- ・ 目的地に向かう方法・手段はいろいろである。自分の学校に似た学校の実践例を参考にし、各校独自の開発をしてほしい。
- ・ はじめはエネルギーが必要だが、研究を重ねて持続性のあるものにしてほしい。
- ・ 学校評価の目的を本質から理解・共有する。学校評価の目的を全教職員が認識することができれば、「学校を変える」「学校の価値を上げる」「選ばれる学校になる」ことへつながる。「教育」という職務を担っているという責任感を強くもつことも必要である。
- ・ 学校長のリーダーシップ（マネジメント力）が大切である。目指す方向を明確に示しながら、強力なリーダーシップを発揮し、組織をマネジメントする力をはぐくむことや、日ごろから、教職員と双方向コミュニケーションを大切にする姿勢をもつことが重要である。
- ・ 外部の目を重視すること。外部からの厳しい意見を受容し、受け止める気持ちをもつこと。
- ・ P D C A サイクルをくるくる回すこと。永続的に何回転もさせることが重要である。改善を図ってよい結果を出せたとしても、もっと改善できないかを注視し続けることが大切であり、それが、独自性につながっていく。

② 実践事例集の作成及び配付

＜配布先＞県立学校、教育事務所（市町教育委員会、小・中学校）、総合教育センター、運営委員会委員、教育委員会事務局、文部科学省

(4) 2 月中旬に、各校の管理職を対象としたヒアリングを実施し、平成 21 年度の自己評価表及び学校関係者評価報告書の間接まとめを基に、各校の実施状況、学校運営の改善への取組、次年度への改善点等を把握するとともに、実施に係る助言及び可能な支援の検討を行った。

3 成果と課題

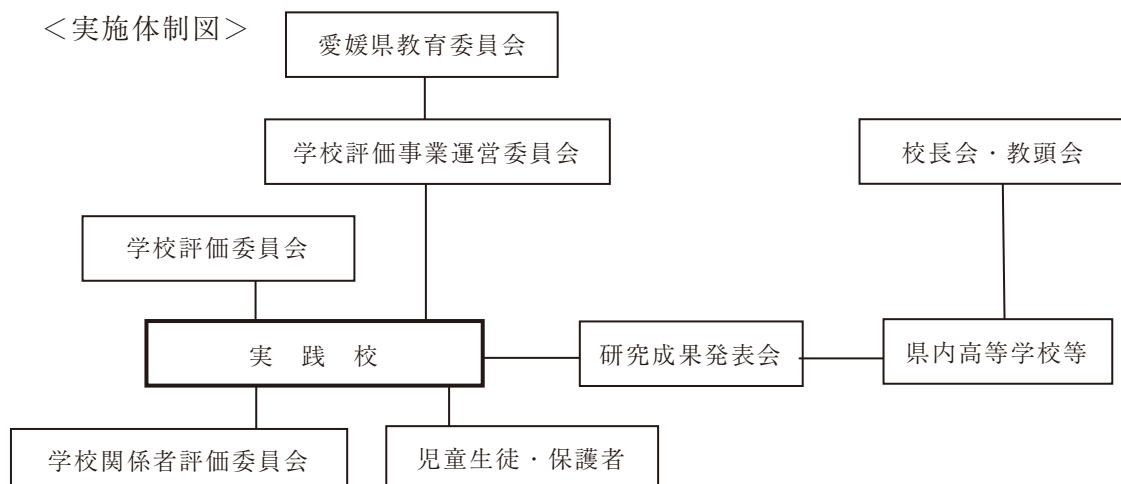
(1) 成果

- 各校では、職員研修等を通じて、学校評価についての理解が進み、教職員の意識向上を図るとともに、学校評価のシステムを構築することができ、学校改善に結びついている。
- 学校長が学校評価についての理解を深め、学校長のビジョンや目指す重点目標を明確に示すことによって、学校として進むべき方向が明らかになった。
- 学校関係者評価の研究を進める中で、学校関係者との双方向の関係が構築された。
- 教員の授業力が向上した。
- 情報提供に係る研究を通して、ホームページや学校通信等の見直しが進んだ。
- 各校の学校評価の実施や公表状況についての現状と課題等に気付くことができた。
- これまで各校で実施してきた、マニフェストの設定、生徒・保護者等による外部アンケートの実施、公開授業日の実施、授業評価の実施、学校関係者評価委員会の開催などについて、改めて検証することにより、各校の学校評価の在り方について整理することができた。
- 学校評価事業運営委員会及び研究成果発表会を開催し、様々な立場から貴重な助言をいただくことができ、多角的に研究を進めることができた。実践校での様々な試みは、他の県立学校の参考となった。

(2) 課題

- 学校によっては、学校の特徴をとらえた学校評価となっていない場合がある。
- 学校間、教職員間の学校評価に関する理解の程度や実施状況にばらつきがある。
- 今まで実施してきた指標やアンケート項目にこだわるあまり、評価指標やアンケート項目の絞り込みができていない学校がある。
- 学校評価の実施が、評価のための評価になっている場合があり、学校改善に結び付いていない場合がある。教職員にとって負担の少ない学校評価についての更なる研究が必要である。
- 自己評価をいかに学校関係者等に伝えるかという技術面の研究が更に必要である。
- 各校の実施や公表について適切な助言をするシステムの研究を進めたい。また、研究成果の普及・定着に努めたい。
- 学校評価の結果を基にした、各校への予算配分や条件整備等の支援について検討を進めたい。

<実施体制図>

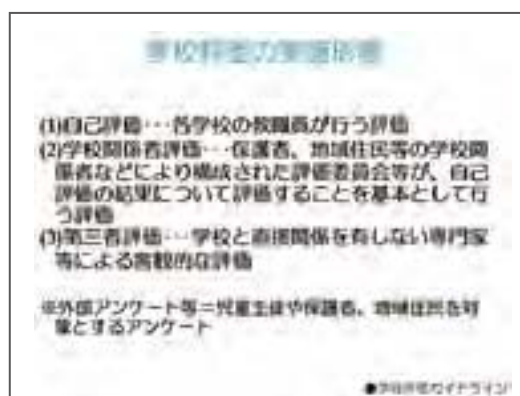
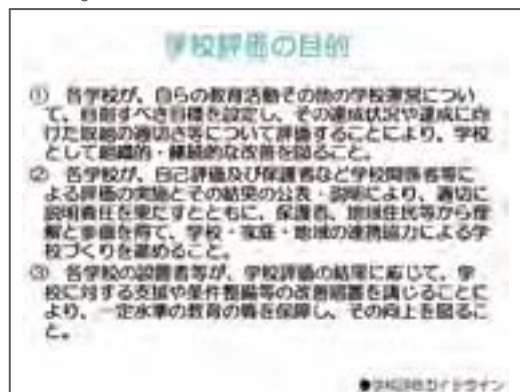


【研究成果発表会講演要旨】

「高等学校における学校評価・情報提供等の充実・改善について」

愛媛大学教育学部准教授 露口健司

今回の事業の主題は、「学校関係者評価」であると思われるが、「学校関係者評価」とは、結局は「自己評価」を学校関係者評価委員にいかにも説明し、学校評価の正当性を理解していただくかというシステムだと考えている。学校が行う「自己評価」の部分がしっかりしていないと、「学校関係者評価」もうまくいかないということである。「学校関係者評価」については、午後からの実践事例発表でいろいろな取組が紹介されると思うので、この時間は、その前提となる「自己評価」について、もう一度確認していきたい。



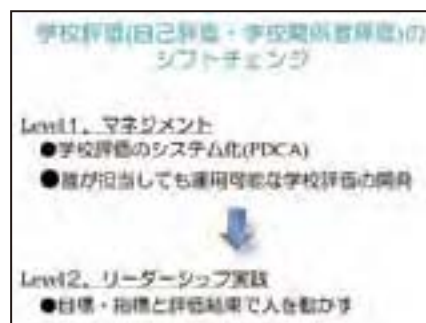
御承知のとおり、学校評価の目的は、学校評価ガイドラインに示されている三点である。それぞれ、おおよそであるが、「自己評価」「学校関係者評価」（情報開示を含む）「第三者評価」に関する目的として整理することができる。本日は、児童生徒や保護者、地域住民を対象とした外部アンケートを、いかにうまく使うかというところに重点をおいて説明する。アンケートの結果をいかに説得力のある形に整理し、それを提示して先生や保護者、地域住民を動かして意識や行動を変容させていくかということである。

学校評価には、規模の大きい組織に適しているマニフェスト型と規模の小さい組織に適している重点目標型がある。愛媛県の高等学校は、マニフェスト型の学校が多い。マニフェスト型は、各部門の契約履行状況や課題を詳細に把握することができるが、評価項目が多いため、組織全体としての動向が理解しにくいという課題がある。重点目標型は、目標が焦点化されてお

り、組織全体の目標達成状況や課題を把握することができるが、部門ごとの達成状況や動向がよく見えないという課題がある。マニフェスト型は、分かりにくい、評価項目が多すぎる、拡散しているというような批判がなされることがあるが、規模の大きい学校の場合は、仕方がないのかもしれない。これら双方のよさを生かしていくためには、各部門が目標を重点化していくことが有用である。

今、各学校では、いつ何をどのように実践していくかという学校評価のシステム化（PDCA）と次年度誰が担当しても運用可能な学校評価の開発といった研究が行われている。これらのシステムを作った後が、非常に大事であり、各校ではマネジメン

ト（システム化）ができると、次はリーダーシップを発揮する人材の育成となる。学校評価の仕組みの中で、目標や指標、評価の結果等で人を動かしていくということである。人というのは、教員や生徒であり、さらに保護者や地域の方々のことである。そして、自己評価で得たものをベースにして、学校関係者を動かしていくことが必要となる。今回は、特にレベル2である「リーダーシップ実践」にポイントをおいた話をさせていただく。



まず、「リーダーシップ実践」としての学校評価は、学校長のビジョン及び学校長が思い描く重点目標の設定から始まる。その後に、成果の指標（何をもって目標が達成できたといえるのか）づくりとその測定、目標に向けて実践する人たちのモチベーションを維持する組織的な支援、最後に、人を動かす評価結果（評価結果により、誰が、何が変わったのかが重要）という流れとなる。

人を動かすツールとして「学校評価」をとらえた場合、「plan」と「check」のところが大事である。目標が魅力的であれば、人はその達成に向けて努力するだろうし、評価の結果が非常に興味深く、刺激のあるものであれば、改善に向けて行動するのである。それでは、それぞれについて、具体的に説明する。



(1) 人を動かすビジョン（校長が示すビジョン）

神戸大学の金井壽宏先生（企業の経営学の第一人者）は、「トップリーダーは、ビジョンとともにミッションを語らなければならない。」と言っている。そのためには、なぜその方向に進まなければならないかという使命感（ミッション）と、それを達成するぞという情熱（パッション）が不可欠である。金井先生によると、自発的な組織にはビジョンがあり、進むべき方向が分かっているのので、どうすればいいかを考えることができ、さらに、仕事の優先順位をつけやすい。このような組織（学校）では、自発的裁量行動が促進される。ビジョンがなければ、何からやらなければならないのかが分からないまま時間が過ぎてしまう。多忙な仕事に追われている学校は、ビジョンが明確に示されていない場合が多い。

(2) 人を動かす重点目標

- 「上位目標（ビジョン）との連鎖関係がある」
上からの押しつけではなく、各部門の中で納得された目標の方が長続きする。
- 「ぜひとも達成したいと思える魅力的な目標」
魅力的な目標であれば、一年間頑張ろうという気持ちになる。
- 「一定の努力を要する困難な目標」
ちょっとした努力で成し遂げられる目標より、やや高めめの目標を設定する。
- 「メンバーが目標設定に主体的に関与している」

実践するメンバーの課題意識と、設定される目標がある程度一致していること。そのためには、目標設定に主体的に関与しているかどうかが大切である。

○「メンバーが目標を受容している」

これを目指して頑張ろうという気持ちになる。

○「目標の視点から日常的な振り返りができる」

目標というのは、あまり多すぎると無理が生じる。日常的な振り返りをするためには、各部門での目標は三つ程度が望ましい。

以上の六つの項目を念頭におき、重点目標を設定する。

教科部、進路部、研修部、生徒指導部、外部連携部等の各分掌で、それぞれにプロジェクト目標を掲げることは、それぞれが方法を考えて実践することになり、創造性・主体性の喚起、チーム意識の形成、成果への関心が高まるなど、学校にとってたいへん効果的である。



(3) 人を動かす評価（成果）指標

「評価指標」は「成果指標」として認識される。成果指標の設定においては、次の点に配慮する必要がある。

○ 努力指標ではなく、結果指標であること

○ 明確で客観的な指標であること（何がどれだけできているかを皆が共有できるものがよい。到達ポイントを数値で表現する。）

また、数値目標と並んでよく使われる

ものに、スケジュール目標がある。何を何回いつまでにという内容（例えば、「何々の会を年間2回以上実施する」）を示す指標は、見やすく分かりやすい。

指標を設定するときには、「妥当性」（目標の達成状況を図る方法として妥当であるか）や、「信頼性」（指標相互は、内的一貫性をもつか）についても検討する必要がある。



(4) 人を動かす実践支援

○ モノを活用したリーダーシップ実践

リーダーが手紙やメモを利用し、ほめ言葉やメッセージを伝えることで、やる気を出させる。授業参観後に観察者が授業感想シートを必ず授業者に手渡すことなども、モノを活用したやる気を出させるための一つの方法であり、授業に関するコミュニケーションを大幅に増加させる。

○ 授業改善のためのリーダーシップ実践

公開授業前後の指導や教室巡視後の指導（リーダーが巡視後、授業者とコミュニケーションをもつ。）や学年会や研修会等に参加し、監視・監督ではなく、ともに協議することが効果的である。



○ 協働性を高めるリーダーシップ実践

「冗長コミュニケーション」(必要以上の対話)も効果的であり、リーダー自身が進んでコミュニケーションをとり、日ごろからコミュニケーションできる環境づくりが大切である。

その他、「目標についての語り」(ビジョン等について、ともに語り合うこと)、「議題を文書化し共有すること」(課題は口で言うだけでは共有が難しい。文字として残して共有することが大切である。),「相互支援と困難さの共有」(し

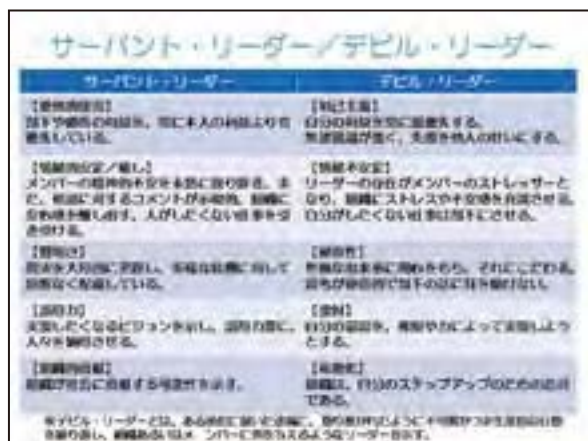
んどい時にしんどいと言える関係づくり)、「チーム効力感の形成」(我々はやればできるという信念)等があげられる。

○ 教員のエンパワーメント

元気な教員の特徴として、「承認」(職場において、専門職として認識されており、同僚に支援され、個人として尊重されている)、「自己効力感」(生徒の学習を支援するスキルと能力を有しており、生徒の学習を効果的に変容させることができる。),「自律性」(仕事の内容・範囲・ペース等を自分でコントロールできる。),「影響力」(生徒、保護者、同僚等に対して正の影響を及

ぼしている。),「意志決定」(自分の考えや意見が組織の決定事項として取り上げられ、組織が動いている。),「職能成長」(職能成長のための研修、継続的学習の機会が用意されており、それが活用できる。)の六つがある。

また、人を動かす実践支援の方法として、部下や顧客に奉仕・貢献しようとし、部下や顧客のために何ができるかを常に考え行動する「サーバント・リーダー」としての実践が注目されている。(2006



年ごろから、ビジネス界を中心にブームになっている。)

サーバント・リーダーのいる学校では、チームワーク等の高まりが見られる。

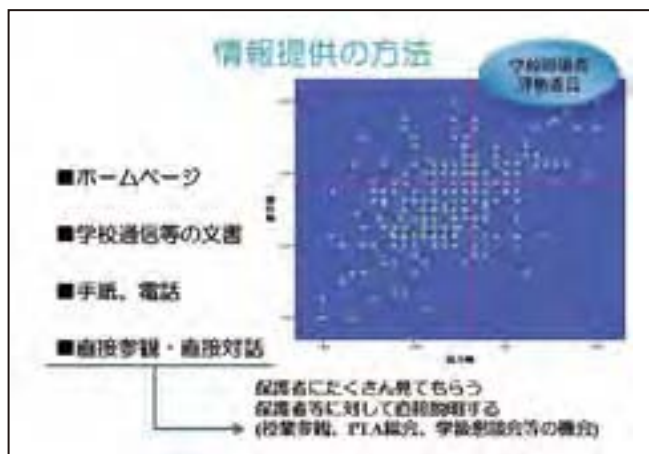
(5) 人を動かす評価結果

評価結果の生成は、人を動かすリーダーシップ実践である。「自己評価表」だけでは、人はなかなか動かない。成果指標に基づくデータを収集・分析し、それを

効果的に表現して報告する。分析結果が人を動かし、その結果、意識や行動が変革していく。学校評価ガイドラインではほとんど言及されていない部分でもある。

データの収集・分析については、目標を絞っていいデータをとる、何ができいて何ができいていないのかを見る、データ化された結果の厳しさを直視する、データ化された結果から達成感を共有す



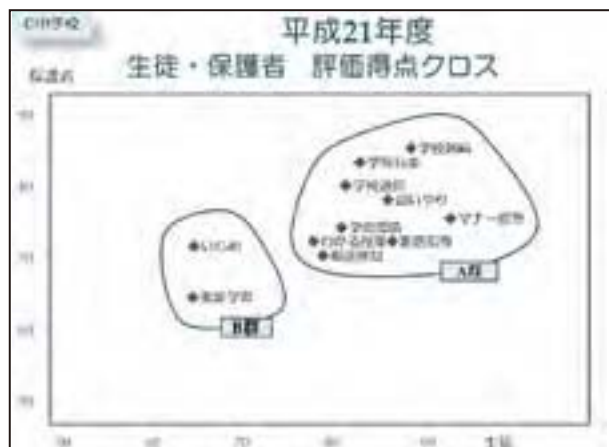
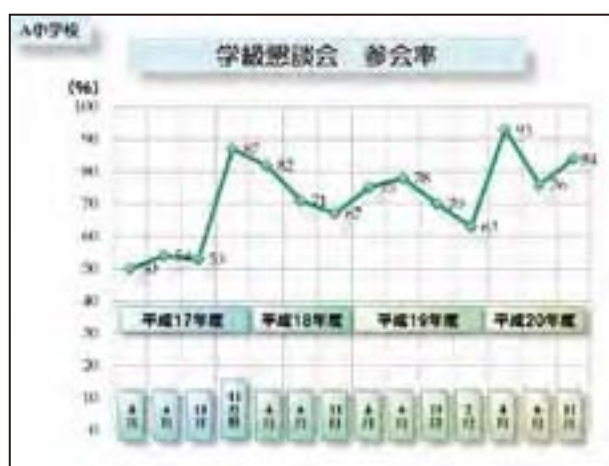


る、データ化された数字に一喜一憂する、保護者啓発は粘り強さが必要である（一度の資料提示だけでは、保護者の意識・行動は変わらない。）等に留意する。

つまり、データを分析し、整理することは、情報をいかに保護者や学校関係者評価委員に伝えるかということである。そして、誰に伝える情報なのかを明確にし、その方法を選び、活用することが大切である。

各学校の学校評価の在り方を検討する中で、ぜひ、活用していただきたい。

《データの分析・表現例》



主要参考文献

- ・ 渡辺謙司(2004)「公立学校における保護者セグメントの解明」『日本教育研究学会誌』49, 47-62.
- ・ 渡辺謙司(2007b)「公立学校における保護者セグメントの決定要因としての子どもの達成状況」『九州教育研究学会誌』53, 37-44.
- ・ 藤政文雄(2007)『教師の指導力学校経営力高める』学事出版
- ・ 酒田信男・金井高広(2007)『サーバントリーダーシップ入門』かんき出版
- ・ 渡辺謙司(2008)『学校組織のリーダーシップ』入学教育出版
- ・ 金井高広(2008)『サーバントリーダーシップ』学事出版
- ・ 渡辺謙司(2008)『活動的構築する保護者関係マネジメントの研究』(文部科学省・新教育システム開発プロジェクト報告書)
- ・ 渡辺謙司(2009a)「学校組織におけるチームリーダーシップと教師の役割の再考」『日本教育研究学会誌』53, 73-87.
- ・ 渡辺謙司(2009b)「学校組織における授業改善のためのリーダーシップ実践—分散型リーダーシップ・アプローチ—」日本教育行政学会44年大会発表資料
- ・ Blanchard, J.S. et al.(1986) "Teacher empowerment and principal leadership" *Educational Administration Quarterly*, 34, 630-649.
- ・ Spillane, J.P. & Diamond, J.B.(2007) *Distributed leadership in practice*, Teachers College Press.

効果的な評価で学校を改善する取組

愛媛県立三島高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒799- 0405 四国中央市三島中央5 丁目11番30号			
設置する課程	全 日 制		教員数	6 6 名
生徒数 （H.21. 5.1 現在）				
学 科 名	1 年	2 年	3 年	計
普 通 科	2 3 9	2 2 9	2 3 0	6 9 8
商 業 科	4 0	4 0	4 0	1 2 0
情報デザイン科	3 9	3 9	3 5	1 1 3
計	3 1 8	3 0 8	3 0 5	9 3 1

2 実施概況

実施日	内 容	
4月 3日	第1回学校評価委員会	目標・年間計画の作成
8日	現場評価①	入学式
5月10日	現場評価②	授業参観
〃	授業アンケート（保護者）	P T A 総会日の授業参観
18日	訪問研修①	先進校・伊予市立港南中学校
20日	第2回学校評価委員会	自己評価表（計画）の作成
25日	職員研修①	「学校評価の在り方」 総合教育センター 西村 久仁夫 氏
〃	第1回学校関係者評価委員会	目標・年間計画の説明と意見聴取
6月10日	学校評価中間報告書の作成	学校訪問研修において
24日	職員研修②	先進校訪問の報告
7月 8日 7月中旬	第1回学校評価事業運営委員会 自己評価・外部アンケート・ 授業アンケートの実施	（中間評価）
22日	第1回学校評議員会	教育方針の説明と提言聴取
27日	ブロック研修会	京都
8月中旬	学校評価に関する書籍コーナ ーを設置	職員室内
9月 6日	現場評価③	運動会
9日	第3回学校評価委員会	中間評価の分析と改善策Ⅰ
16日	職員研修③	ブロック研修会の報告、中間評価の結果と改善について
24日	現場評価④	開校記念日
25日	現場評価⑤	文化祭
10月13日	訪問研修②	中間評価と改善策について指導・助言 総合教育センター 西村 久仁夫 氏

実施日	内 容	
1 5 日	第 2 回学校関係者評価委員会	中間評価について意見聴取
1 9 日	第 4 回学校評価委員会	中間評価の分析と改善策Ⅱ
2 8 日	第 2 回学校評価事業運営委員会	中間報告（松山）
1 1 月 1 9 日	現場評価⑥	授業参観
〃	第 2 回学校評議員会	現況報告と提言聴取
下旬	授業アンケート実施 （最終評価）	
1 2 月上旬	自己評価・外部アンケートの 実施（最終評価）	
1 日	訪問研修③	先進校・兵庫県立神戸商業高等学校 〃 御影高等学校
1 7 日	職員研修④	最終評価結果の分析
〃	第 5 回学校評価委員会	最終評価結果の分析・先進地訪問の報告他
1 月 7 日	第 6 回学校評価委員会	成果発表について
2 0 日	研究成果発表会	研究成果を発表（松山）



全教職員参加による研修会（H 2 1 . 5）

3 各種アンケート実施状況

対 象		人 数	実施時期
保護者授業アンケート		1 8 1	5 月 P T A 総会時
中 間	自己評価	5 5	7 月
	生徒アンケート	9 1 8	
	生徒授業アンケート	1, 8 8 6	
	保護者アンケート	5 3 8	7 月三者面談時
最 終	自己評価	5 4	1 2 月
	生徒アンケート	8 8 5	
	生徒授業アンケート	1, 9 3 5	
	保護者アンケート	5 5 5	1 2 月三者面談時
現場評価	学校関係者評価委員	延べ 1 6	主な学校行事毎

4 現場評価の取組

学校関係者評価委員が学校行事に参加し、活動の現場を直接見て評価する。受付で評価用紙を渡し、「できていること」「できていないこと」について評価を記述していただいた。

＜実施日＞

入学式	4 月 8 日 (水)	4 名
P T A 総会	5 月 1 0 日 (日)	4 名
運動会	9 月 6 日 (日)	3 名
三島高校開校記念日の講演会	9 月 2 4 日 (木)	1 名
文化祭	9 月 2 5 日 (金)	2 名
公開授業参観日	1 1 月 1 9 日 (木)	2 名



PTA 総会日の授業参観における現場評価 (H 2 1 . 5)

＜現場評価の一部抜粋＞

行 事	できていること	できていないこと	提 言
入学式	新入生や保護者の、式に臨む態度が立派だった。		来賓名簿の裏にでも、式次第があればよい。
P T A 総会 (授業参観)	地域の方と話をしている時、三島高校は文武両道で頑張っており、素晴らしい成果を上げていると話していた。地域の方々の期待の大きさを実感するとともに、その期待に応える教育ができていることを私も感じる。	生徒は質問に答えられていたが、全体的に全員声が小さいので、活気が感じられない。答える時、声が小さい。	恥ずかしい年頃でしょうが、もう少し大きい元気な声を促して欲しい。
運動会	朝一番に近所の方への配慮の放送に感心した。	保護者が、ビデオやカメラで撮影をしているためか、全体的に拍手のないのが寂しい。	
文化祭	それぞれの企画は、よく考えて練られていた。	休みの間の私語が多い。	P T A 保護者の参加を促す。

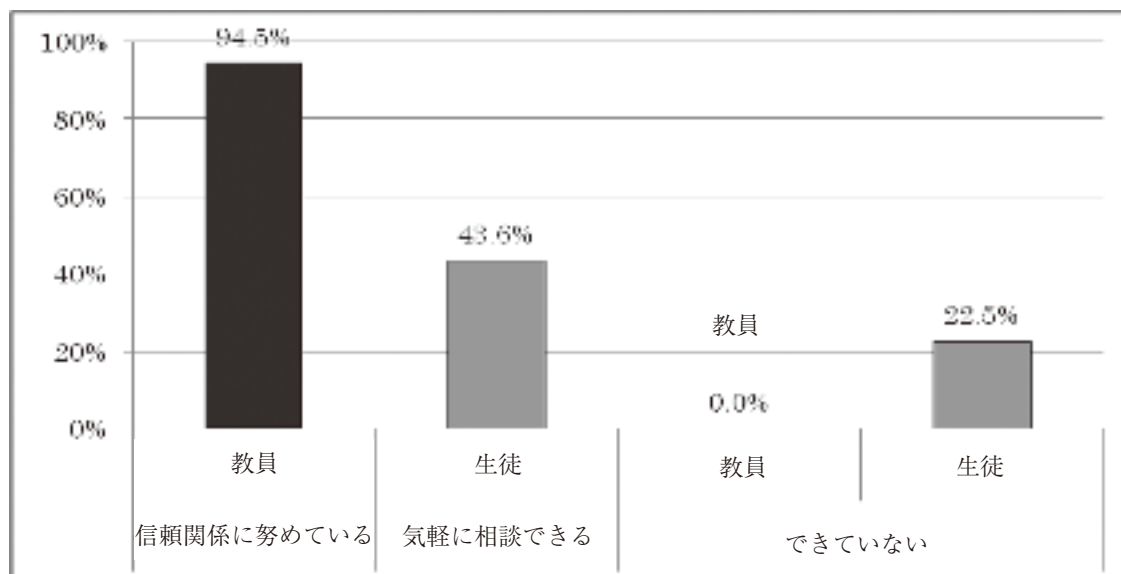
5 中間評価の実施と分析

- (1) 自己評価で、数値が高く増加率も大きいのは、「常日頃から生徒との人間的な触れあいを大切にするなど、生徒との信頼関係を築くように努めている」94.5 % (前年比 +7.8 P)、である。

だが、外部アンケート(生徒)では、「自分が困っていることや悩みについて、気軽に相談できる先生がいる」が、できている 43.6 % (+2.3 P)、できていない 22.5 % (-2.6 P) である。また、同(保護者)では、「学校は、生徒の心身の健康について相談しやすい環境づくりをしている」が、できている 69.1 % (+9.1 P)、できていない 2.2 % (-5.0 P) である。＜資料 1＞

以上の結果から、「気軽に相談できる先生」の項目については、教師の認識と生徒の評価に大きな差が認められた。

＜資料 1＞



(2) 生徒による授業アンケートの「指名されたとき、返事・起立・大きな声での回答ができていますか」は、できている 64.0 % (前年比 -4.2 P)、できていない 6.7 % (-1.5 P) である。アンケート全体のできているという評価の平均が 80.8 % であるので、64.0 % はかなり低い数値であり、生徒も十分でないとの認識をもっている。さらに、学校関係者評価委員からも、授業参観の際に指摘を受けている。

(3) 進路指導に関しては、高い数値を示している。自己評価の「生徒の進路に関する適切な情報を提供したり、進路相談に応じる等、生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいる」は、できている 88.7 % (前年比 +2.2)。「生徒一人一人の適性や希望・関心を積極的に理解し、進路目標実現に向けた学力が定着するよう努めている」が、できている 84.6 % (+1.9) である。

外部アンケート(生徒)の「先生は、生徒の進路実現に向けて、積極的に進路相談や指導をしてくれる」は、できている 69.3 % (+1.5)。同(保護者)「学校では、三者面談などを通じて適切な情報を提供したり、進路相談に応じる等、保護者との連携がきめ細かく行われている」が、できている 87.1 % (+2.7 %) とほぼ満足できる数値が出ている。

6 改善の取組

(1) 3項目に焦点化

ア 生徒による評価「自分が困っていることや悩みについて、気軽に相談できる先生がいる」について改善に取り組む。

教員は生徒との触れ合いを大切にし、信頼関係を築く努力をしていると認識しているが、生徒の意識との間に大きなギャップがある。このギャップを埋めるよう改善する。教育相談の分野に限らず、全職員で生徒一人一人に声をかけ、コミュニケーションを密にすることに努め、真の信頼関係を築く。

イ 生徒が自信や誇りを持ち、積極的に行動するようになるための指導を充実させる。

生徒による授業評価「指名されたとき、返事、起立、大きな声での回答ができていますか」の数値が低い。さらに、現場評価からも「授業での回答の声が小さい」と指摘があるので改善に取り組む。授業だけでなく、あらゆる場面で

- 生徒が積極的に活動できるよう全職員で指導を充実させる。
- ウ 進路実現に向けて、更に指導を充実させる。
- 評価の数値は良好であるが、本校の大きな目標であり更に重点的に取り組む。

(2) 学校改善策（スローガン）

- ① 生徒をしっかりと見て、
機会を逃さずに教員から声をかけ、
教師とつながっているという生徒の意識を強いものにする。
- ② 生徒が発表する機会をできるだけ作り、
叱る以上に小さなことをしっかりと褒めて自信を持たせ、
間違いを気にしないではっきり発言する力を育てる。

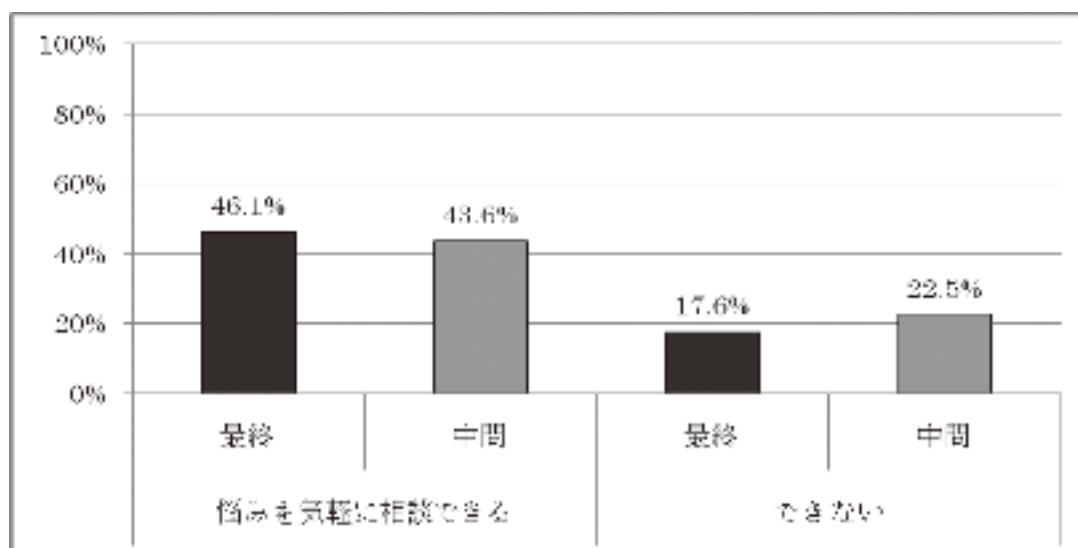
7 最終評価による改善の検証

(1) 改善策①について

外部アンケート（生徒）の「自分が困っていることや悩みについて、気軽に相談できる先生がいる」は、できている 46.1 %（中間より 2.5 P 増加）、できていない 17.6 %（中間より 4.9 P 減少）となった。生徒数に換算すると約 65 名が良い評価に転じている。＜資料 2＞

すべての項目のできているという評価の平均が 61.6 %（中間より 2.9 P 減少）。46.1 %は依然として20項目中一番低い数値ではあるが、数値の増加した項目が少ない中で増えており、取組の成果が現れたと考える。

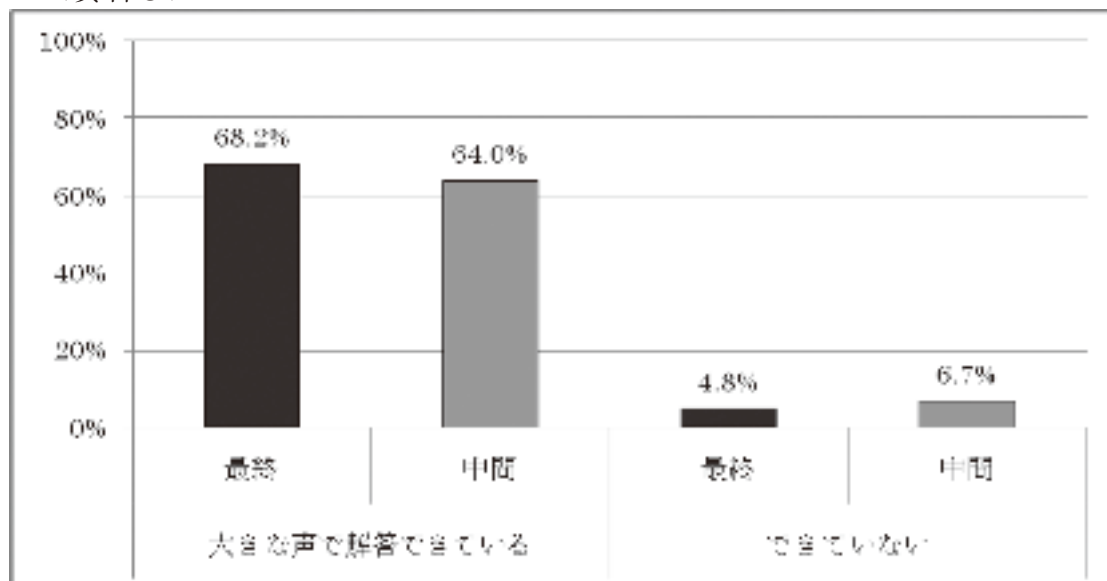
＜資料 2＞



(2) 改善策②について

生徒授業アンケートの「指名されたとき、返事・起立・大きな声での回答ができていますか」が、できている 68.2 %（中間より 4.2 P 増加）、できていない 4.8 %（中間より 1.9 P 減少）となった。生徒数に換算すると約 118 名が良い評価に転じている。＜資料 3＞

<資料 3>



8 その他の改善や課題

(1) わかりやすい資料

- ・文字や体裁を統一する。
- ・外部アンケート（生徒）は、学年別・男女別の分析を入れると、資料の種類が多過ぎてかえって煩雑になるので、比率を使った全体のまとめと実人数の2種類に簡素化する。実人数の資料はデータを加工した際の間違いをチェックするためにも必要である。
- ・質問項目を、「できている」の数値の高い順に並べ替えている。資料を理解しやすいが、年度比較を入れたグラフ化で間違いが発生したので、チェックを確実に行う。

(2) 分析の仕方

- ・従来は2年間の比較グラフであったが、在籍する生徒の変化が把握できるので3年間の比較に変更した。
- ・保護者や生徒への授業アンケートは、感想などの記述欄があるので課題を具体的に把握しやすい。記述の集計は手間がかかるが、欄を省かない方がよい。
- ・S Q S（共有型質問紙調査支援システム）を利用してアンケートを集計したが、手作業で補正しなくて済むように改良していく。

(3) 評価の在り方

- ・評価方法が日常の活動の中ででき、教員にとって負担の軽いものであるか。
- ・評価内容が実用的で学校改善に役立つものであるか。
- ・評価内容と学校の教育目標との関連性が明確であるか。

(4) アンケート分析

- ・自己評価・外部アンケートともに、「できている」という評価の平均数値は、最近3年間で大きく上昇している。特に大きな問題点はなく、学校運営が順調であるといえる。
- ・評価項目を個別に見ると、中間評価から数値が減少している項目があり、「できている」が40%台のものもある。まず、すべての項目が60%以上になるよう改善目標を定める。

9 成果及び課題等

- (1) 学校評価を生かして教育活動を改善していく具体的取組ができた。中間評価を受けて設定した課題について改善に取り組み、最終評価で良好な数値の増加が認められた。改善の取組が結果につながったことが検証され、学校評価の意義を実感することができた。P－D－C－Aサイクルの小さな1回転であったが、校内の学校評価委員会がリーダーシップを発揮し、組織力を生かして実践できたことは大きな成果である。こまめに委員会を開いて検討するためにも、他の会議の後に会を設定するなど時間の負担を小さくする工夫が必要である。
- (2) 学校関係者評価委員の現場評価を試みた。具体的で時宜を得た評価を細かく収集することができ、有効であった。あらかじめ送付している資料の上に参観したことが加わって、委員の教育活動への認識や理解がより確かなものになったと思われる。さらに、口頭でも評価を受けることがあるので、コミュニケーションがより親密になった。人とのつながりは、連携・協力を強めるためにはとても大切である。だが、委員の負担が重くならない配慮が必要である。
- (3) S Q S（共有型質問紙調査支援システム）の導入で、アンケート実施の負担軽減を図った。更紙では読み取りにミスが生じ、手作業での補完が必要だったが、上質紙に変更しミスは減少した。実施は簡便にし、分析・実践に力点を置くようにすべきである。
- (4) 学校関係者評価委員会と学校評議員会の役割の明確化はまだ不十分である。学校評議員会の提言は教育活動の評価が入り込むことが多く、学校関係者評価委員会の内容と重なるものが多かった。それぞれの会の本来の役割を、学校改善にどう役立てるかをさらに明確にしていく必要がある。

総合学科における学校関係者評価の改善と充実

～ 情報提供を活用して日々成長を実感できる学校づくりを目指して ～

愛媛県立新居浜南高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒792-0836 新居浜市篠場町1番32号			
設置する課程	全日制		教員数	49名
生徒数（H21.5.1 現在）				
学 科 名	1年	2年	3年	計
総合学科	109	116	107	332

本校は昭和39年11月1日に創立され、今年度45周年を迎えた。平成8年に普通科高校から総合学科に移行してからは14年目になる。東予地区唯一の総合学科高校として個性と自主性を重んじ、「好きなことを学びたい、自分らしく生きたい」をキャッチフレーズとして、生徒の主体的学習や体験学習を重視し、「基礎学力」と「豊かな人間性」を培うことを目指して人材育成に努めてきた。生徒は大方素朴で真面目で、地域に出かけて奉仕活動に積極的に取り組むので、地域からは「ボランティアの南高」として親しまれ、生徒の自発的な活動が高く評価されている。

しかし、一方では中学校以来学力不振、不登校傾向、問題行動などを抱えたままで入学してくる生徒も多く、学校生活への適応や、基礎学力の習得、基本的生活習慣の確立が大きな課題として存在している。それを踏まえて、本校では昨年度より、教育目標を具体化した重点努力目標を刷新し、その目標をマニフェストとして具体化して学校経営に取り組んでいる。

【重点努力目標】

- 主体的に学び、個性を磨き、自己実現に努力する態度を育成する。（知）
- あいさつ等の礼儀や身だしなみを整え、基本的な生活習慣を育成する。（徳）
- 学校行事や部活動、奉仕活動の活性化により、心身を練磨し、社会性を育成する。（体）

2 研究の取組及び方法

（1）学校評価についての取組の経緯

自己評価はこれまで校務分掌としての図書研修課が中心となって、「授業アンケート」や、学校運営、教育全般に関する「学校評価アンケート」を行い、その内容について学校関係者評価委員会から提言をいただいていた。しかし、自己評価は、全教職員が参加して組織的に取り組むことが重要であり、中心となって学校評価を実施するための組織を校内に設ける必要があると考えて校内学校評価委員会を設置した。そして、効果的な評価の在り方を研究し、本校の教育活動の活性化・質の向上に役立つ評価システムの構築と、本校の教育活動を公開する場を拡大して、保護者や地域の声を教育活動により積極的に生かすための情報提供及び収集の在り方について研究した。

（2）研究方法

- ア 先進校視察を行い実施状況や研究方法を学ぶ。
- イ 外部講師による研修を行い、学校評価に対する教職員の意識の高揚と共通理解を図る。
- ウ 本校の教育活動を保護者や地域、学校関係者評価委員の方へ発信し、周知を図り、理解を求める情報提供の在り方を研究する。
- エ 授業アンケート、学校評価アンケート等の内容を検討し、学校運営や教育全般の改善に有効で具体的な情報を収集、活用できる工夫をする。

3 学校評価システムの構築

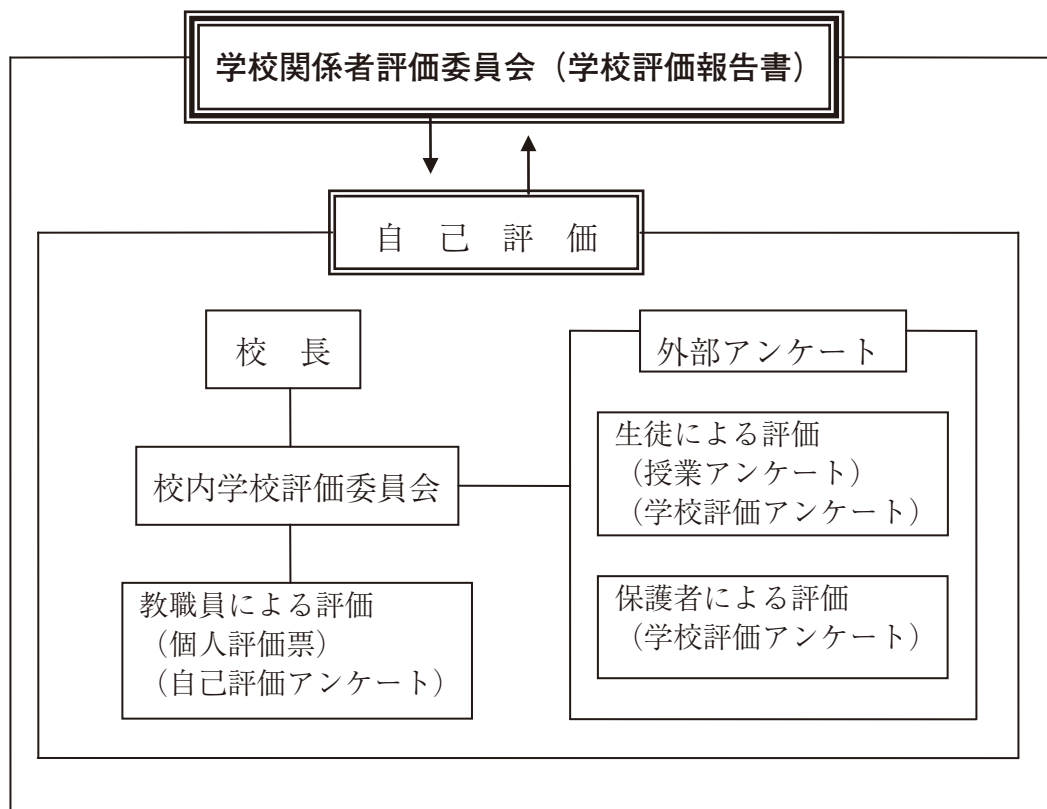
(1) 学校関係者評価委員会（10名）

学校の取組について適切に評価してもらうために、学校の教育活動に理解があり、建設的な意見を述べてもらえる方に委員を委嘱した。また、様々な職種、年齢、多様な立場の方々と組織されるよう工夫した。

学校評議員 5名 地域中学校職員 1名 P T A関係者 4名

(2) 校内学校評価委員会（16名）

校内の組織を煩雑にしないために運営委員会と同じメンバーで構成し、評価領域を校務分掌ごととした。本会の主な取組として自己評価表や学校評価アンケートの評価項目を見直し、生徒や保護者にとって理解しやすい表現にし、項目の精選を行った。



4 取組実施日程

実施 時期	実 施 事 項		備 考
	校 内 評 価	学校関係者評価委員	
4 月	・校内学校評価委員会①（年間計画） ・教職員個人評価票計画		学校評価 HP更新
5 月	・授業参観、P T A・総育会総会 （H20年度自己評価結果報告） ・校内学校評価委員会②（自己評価表作成）		
6 月	・公開授業参観	・公開授業参観	
7 月	・学校評価事業運営委員会① ・授業評価アンケート ・文部科学省学校評価推進協議会（京都） ・先進校視察（神戸～淡路）		
8 月	・P T A研修旅行	・学校関係者評価委員会① （学校経営説明）	

9 月	・学校評価訪問研修（学校評価の進め方）	・学校行事参観（運動会）	
10 月	・学校評価事業運営委員会②（中間報告） ・校内学校評価委員会③ （学校評価アンケート案）		
11 月	・公開授業 ・校内学校評価委員会④ （アンケート集計方法の検討） ・授業評価アンケート	・学校行事参観（文化祭） ・学校関係者評価委員会② （授業参観・施設説明・ 関係者アンケート）	・公開授業 案内を地 域紙へ掲 載
12 月	・学校評価アンケート （生徒・保護者・教職員） ・校内学校評価委員会⑤ （アンケート分析）		
1 月	・校内学校評価委員会⑥ （自己評価表まとめ） ・研究成果発表会 ・研究成果物提出	・自己評価表送付・検討 ・学校関係者評価委員会③ （学校評価報告書）	
2 月	・平成 21 年度学校評価事業実践事例集		
3 月			学校評価 HP更新

5 取組の内容

(1) 公開授業

総合学科の特色を保護者や市内中高の教職員や地域の方々に理解していただくために、年間 2 回の公開授業を実施している。少人数講座や実習、体験学習を多く取り入れた授業内容、選択科目の多様化など生徒の個性を生かす教育内容を情報提供している。また、実際に多くの方から授業を参観した率直な意見や感想をいただき、授業改善に役立った。

ア 第 1 回（6 月）

保護者や市内中学校、市内 5 高校の教職員に参観していただき、アンケートを実施した。特に今回は 1 年次の「産業社会と人間」の時間に企業訪問をした学習の発表会を公開し、中学校の先生方に卒業生の成長した姿を見ていただいた。

参加者は高校（6 人）、中学校（3 人）、保護者（2 人）の 11 名である。

イ 第 2 回（11 月）

公開授業実施の案内を地域紙「角野公民館だより」に掲載した。保護者の参観を呼びかけているが、残念ながらその効果はあまり出ていない。

参加者は学校関係者評価委員（9 人）、保護者（3 人）の 12 名である。



「企業訪問発表会」



「角野公民館だより」

ウ 授業参観評価（第1回）

「発表会を参観した感想より」

- ・ 単なる職場体験でなく、勤労観・環境・経済にまで視点を深める学習になっていることに感心した。学習の記録がきちんとファイルされていた。
- ・ 生徒全員が真剣に発表を聞いていて、先生方がよく指導されていたと思う。
- ・ 子どもが企業訪問をしたのは知っていましたが聞けてよかった。不景気な時なので就職希望者が一人でも多く入社できたら助かる。
- ・ 知らなかった事ばかりで、参加してよかった。
- ・ 発表するために、よく聞き調べ、写真・イラストなどを使って頑張っていた。
- ・ パワーポイントがデザイン・構成などよく工夫され、興味をもってみる事ができた。

(2) 情報提供

本校は校内の学校行事をはじめ、校外での体験学習や地域との交流活動も多く、それらの情報発信方法として、リアルタイムで提供できるホームページを活用している。また、電子媒体だけでなく、紙媒体として「南高通信」を保護者を対象として月1回発行し、情報提供を心がけている。

ア ホームページの充実

(ア) 「今日の南高」をトップページに、写真入りで随時、学校行事や生徒の活動を掲載するので学校の様子がすぐに理解できる。

(イ) 更新をまめにし、保護者や地域、関係機関へ発信されている。

(ウ) 修学旅行ではリアルタイムで生徒の様子を掲載し、保護者に情報を提供できた。天気の様子や食事内容など保護者に好評であった。

(エ) 情報科学部の「銅山学習」は地域を越えてアクセスされている。アクセス数は「22,400」である。

(H20.12～H21.11 現在)



「全校生徒の奉仕作業」



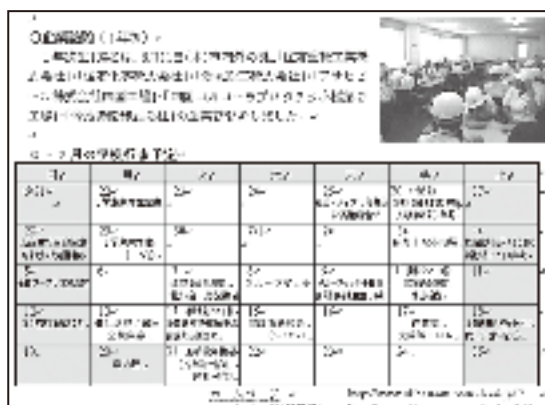
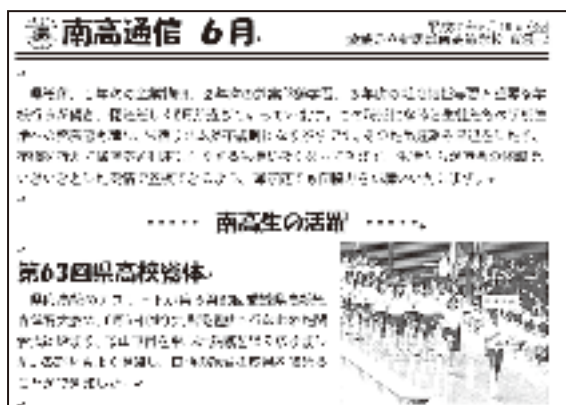
「地域の小学校で朝の読み聞かせ」

イ 「南高通信」

(ア) 月1回保護者向けに発行している紙媒体の学校通信である。

(イ) 毎月、「南高の活躍」と題して、学校行事や生徒の活動を掲載し、学校の様子が保護者に伝わるようにしている。

(ウ) 来月の行事予定を掲載し、保護者にも理解を求めている。



「南高通信 6月号」(一部抜粋)

(3) 学校関係者評価委員会(学校関係者評価委員10名、学校職員3名)

ア 第1回

- (ア) 学校説明(運営基本方針、マニフェスト等について)
- (イ) 特色ある教育課程や活動についてプレゼンテーションと評価資料の提示
- (ウ) 学校運営改善につながる意見交換

イ 第2回

- (ア) 授業参観と施設案内
- (イ) 授業参観や施設についてのアンケート

- ・自分たちが選択していることもあり、興味深く授業を受けていたと思う。
- ・総合学科として十分展開できていた。
- ・実習等の授業は熱心に受けている。介護実習では目的意識を持ち、疑問があればまた学校で検討、見直し、実習していくので効果がある授業だと思う。
- ・少人数で講座が設けられ、本校の生徒は幸せだと思う。
- ・空き教室があり、もったいないと思う。活用できればよい。
- ・1年次生から3年次生の各授業を参観したが、それぞれ特色ある内容の授業が行われているのに感心した。特にコンピュータを活用した授業や実習の成果が見られる福祉の科目がよかった。
- ・介護のクラスでは、具体的に各施設で実習を経験し、授業で実技を通して「移乗」での問題点をそれぞれの生徒の立場で考えさせているので、とてもよい勉強になると思う授業展開であった。
- ・落ち着いた態度で、生き生きと授業に取り組んでいた。卒業生の頑張っている姿に安心するとともに、感謝の気持ちでいっぱいである。(中学校教頭)
- ・全体的に清掃がよくなされていて気持ちがよかった。校内は整理整頓されている。
- ・就職率が70%くらいとの話を聞き、今年度の成果が心配されるが、生徒の学習状況から見て、よい結果が出るものと思われる。
- ・色々な勉強ができ、生徒は幸せである。これからも個性ある教育をして欲しい。先生方の教育に対する熱心さもよかった。諸先生方の生徒の資質向上に対する熱意が十分感じられた。

ウ 学校行事参観

第1回学校関係者評価委員会では、学校行事の内容や生徒の実態等を説明していたが、実際に生徒の活動を見ていただくことで、学校の取組やその成果を実感していただけると考え参加をお願いした。

- (7) 運動会では、全校生徒による「入場ラン」や「パネル」を採点していただき、「体育」の授業での日頃の指導や部活動の成果を披露した。

特に、ウエイト部の活躍が目覚しい本校独自の種目である「マッスルパワー」に大歓声が上がった。

地域の保育園児が参加して、演技披露や交流会なども行った。



「マッスルパワー」



「ピアノ演奏会」

- (4) 文化祭では本校が長年継続実施している合唱コンクールや音楽部の発表会や「芸術家派遣事業」のピアノ演奏会を鑑賞し、好評を得た。午後からは文化部を中心とした展示やバザーなどの催し物を楽しんでいた。バザーには、PTAも出店し、学校行事に参加しながら日頃の生徒の様子を知っていただく機会を得ることができた。

6 成果及び課題

(1) 成果

- ア 学校評価システムの構築や訪問研修によって、全教職員で学校評価に取り組む体制ができ、学校運営の方針が教職員に共通理解できた。
- イ 公開授業や研究授業の実施によって授業改善の取組がなされ、教科指導力の向上が図られ、生徒の授業への取組が積極的になった。 【資料1】
- ウ 授業参観者のアンケート結果などの感想から、取組に対するよい評価を得られていることを実感でき、生徒・教職員共に励みになった。
- エ 学校関係者の方々との交流の場が広がり、相互に活動を支援しながら情報発信ができています。
- オ ホームページや「南高通信」などを通して、地域の方々から励ましの声かけや地域の行事への参加依頼など、生徒の活躍の場が多くなった。「ボランティアの南高」として本校の認知度が上がっていることが実感できた。 【資料2】

(2) 課題

- ア 学校目標の具体的な取組が評価できるように、自己評価表の評価項目を精選する。前年度の反省を踏まえて目標を絞っていくことも大切である。
- イ 生徒や保護者に対する学校評価アンケートの評価項目が生徒や保護者により理解しやすく評価しやすくなるよう発問を研究する。
- ウ 公開授業の実施時期や評価方法、参観者の増員について工夫する。
- エ 学校関係者評価委員の選出について工夫し、より多くの方に本校を理解していただく機会を設ける。
- オ ホームページ（電子媒体）の画面上の工夫や学校通信（紙媒体）の情報提供の研究及び地域に向けた情報提供方法を研究する。
- カ 学校評価で教職員のモチベーションを高め、学校改善につなげていく工夫をする。

【資料１】

平成２１年度 生徒の「授業アンケート」 一過年度との比較					
A …… そう思う B …… だいたいそう思う C …… どちらかといえばそうは思わない D …… そうは思わない					
評価（Ａ＋Ｂ）の合計した割合					
	項 目	H 1 9	H 2 0	H 2 1	前年度比
1	先生は分かりやすい言葉で丁寧に説明している。	92%	94%	96%	2% ↑
2	先生の黒板や資料は見やすい。	91%	94%	94%	0%
3	授業の内容や進む速さは自分に合っている。	91%	89%	92%	3% ↑
4	先生は授業に興味・関心をそそる工夫をするなど、熱意が感じられる。	92%	94%	95%	1%
5	先生は生徒の授業態度や服装等を指導し、規律ある雰囲気の中で授業が行われている。	94%	94%	95%	1%
6	先生は生徒の発言や反応を大事にして適切に答えを導いてくれる。	94%	95%	96%	1%
7	先生は課題を出し、きちんと評価してくれている。	96%	96%	97%	1%
8	先生の生徒への評価は公平だと思う。	95%	95%	96%	1%
9	私は毎時間授業を受けるための準備をしている。	93%	94%	97%	3% ↑
10	私は授業に集中しており、私語や居眠りなどをしなかった。	88%	90%	95%	5% ↑
11	私は提出物を期限までに出した。	91%	92%	95%	3% ↑
12	私は授業の内容が分かり、学習した充実感を得た。	89%	90%	94%	4% ↑

【資料２】

自己評価表（一部抜粋）

評価項目	具体的目標	教 員 評価点	生徒表 評価点	保護者 評価点	評価 点	評 価	昨年 比較
の 教育 充 実 課 程	総合学科の特性を生かし、生徒の興味・関心を高める教育課程を編成する。	88	78	77	81	A	78 ↑
情 保 報 護 提 者 供 への	南高通信やPTA通信、HP等を発行し、学校の状況が保護者によく分かるように努める。	86	67	70	74	B	72 ↑
	保護者懇談会・家庭訪問などで、生徒の学校での状況がよく分かるように努める。	85	70	75	77	B	75 ↑
教育 地 活 域 動 と の	地域の行事に積極的に参加したり協力したりして、地域との交流を積極的に行う。	76	66	69	70	B	72 ↓

客観性の高い学校関係者評価を目指して

愛媛県立松山東高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒790-8521 松山市持田町二丁目2番12号			
設置する課程	全 日 制		教員数	7 0 名
生徒数（H21.5.1 現在）				
学 科 名	1 年	2 年	3 年	計
普 通 科	4 0 3	3 9 5	3 9 9	1 1 9 7

教育方針

- 1 高い知性と豊かな創造性を身に付け、新しい文化の発展に貢献する人間を育成する。
- 2 高い道義心と公正な判断力を身に付け、人類の福祉増進に寄与する人間を育成する。
- 3 たくましい気力・体力を身に付け、平和な国家社会の実現に努力する人間を育成する。

重点目標

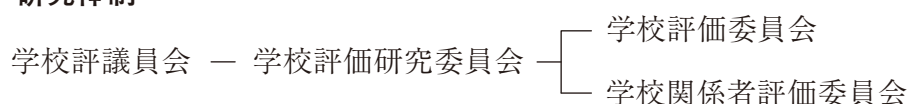
- より高く、より広く、より深く、そしてより豊かに
- 感動ある授業の展開と鍛え育てる個別指導の充実
 - 豊かな個性の伸長と適切な進路指導の推進
 - 気力・体力の充実と良識ある生活態度の育成

2 研究のねらい

学校関係者評価が、学校の自己評価だけに基づいて行われるものではなく、

- 委員が直に教育活動を参観できる機会を増やすとともに、一般教職員や生徒と対話する機会を設ける。
 - 学校の自己評価の結果を保護者がどのように感じているか調査し、評価の参考とする。
 - インターネットを活用し、より積極的に情報発信を行う。
- など創意工夫し、より幅広い視点からなされることを通して、客観性を高め、もって学校運営の改善に向けた取組の充実に資す。

3 研究体制



学校評議員 5名

学校関係者評価委員 7名（保護者、学校評議員、地域住民、中学校及び大学の教職員） そのうち6名が昨年度からの継続者

平成21年度学校評価、授業アンケート

対 象	アンケート調査	実施月
生徒	学校生活に関する自己評価	7月
生徒	授業アンケート・授業評価	7月
教職員	教育業務の自己評価	11月
保護者	学校評価アンケート	12月
PTA理事	授業評価・自己評価に対する意見の調査	12月

4 取組の概要

(1) 学校関係者評価委員会に対する積極的な教育活動の公開・情報提供

ア 委員による施設・設備の視察、学校運営体制の把握

6月に第1回学校関係者評価委員会を学校評議員会と合同開催した。前年度の自己評価・学校関係者評価の結果及びそれらを踏まえた改善に向けた取組について説明した。また、評価項目を検討・整理して重点化した今年度の自己評価表を用いて、教育方針や重点目標、評価項目ごとの具体的目標等について説明した。

さらに、新築完成した校舎を中心に施設・設備を視察していただいた。

イ 委員による公開授業の参観・研究会への参加

6月に公開授業を実施したが、委員にも授業を参観していただくとともに、その後の授業研究会に参加していただいた。授業者が生徒の状況を説明し自己評価を述べ、意見交換した。その際「公開授業アンケート」に答えていただいた。いずれの質問項目も評価基準A及びBの評価をいただいた。なお、11月にも実施予定であったが、新型インフルエンザによる学年閉鎖により、やむをえず中止した。

【公開授業】アンケート調査

どの学年の授業を参観しましたか。

() 学年

評価基準

- A そう思う (良い)
- B だいたいそう思う (だいたい良い)
- C あまりそう思わない (あまり良くない)
- D そう思わない (良くない)

質問

- 1 教員の熱意や意欲が感じられ、指導が適切であると思いますか。
- 2 生徒は授業に集中し、熱心に取り組んでいると思いますか。
- 3 生徒の挨拶や身だしなみ (服装・頭髪等) は、整っていると思いますか。
- 4 教室等は整理され、学習環境は整っていると思いますか。
- 5 公開授業の感想や本校への意見・要望がありましたら、御記入ください。



公開授業 (ホームルーム活動)

ウ 委員による学校行事等の参観・生徒との対話

○ リレーカーニバル (5月) への参加

第1回学校関係者評価委員会を開催する前の行事ではあったが、委員7名中6名が昨年度からの継続者で、評価活動は円滑になされた。その際、「リレーカーニバル」

アンケートに答えていただいた。いずれの質問項目も評価基準A及びBの評価をいただいた。

【リレーカーニバル】 アンケート調査

評価基準 A よかった B まあまあよかった C あまりよくなかった
D よくなかった

- 質問 1 企画は工夫されていたか。
2 運営は円滑になされていたか。
3 競技には盛り上がりがあったか。
4 応援はまとまりがあったか。
5 生徒の活動は活発であったか。
6 教職員は生徒の自主性・自律性を伸ばす指導ができていたか。
7 感想・意見・要望等をお書きください。

○ ボートレース大会（7月）への参加・生徒との対話

校外（梅津寺海岸）でのボートレース大会を参観し、生徒会役員との対話を行った。本行事についての話し合いにとどまらず、外部から見た東高のイメージや伝統校の生徒としての過ごし方等についても話題になり、盛り上がった。



梅津寺海岸



生徒との対話

○ 運動会（9月）への参加



運動会を参観していただくとともに、生徒が作成したアンケート調査に答えてい

ただいた。質問項目のほとんどが評価基準Aの評価であり、どの委員からも「すばらしい運動会を拝見することができました。」「東高運動会に寄せる多くの方々の思いを感じます。良き伝統が引き継がれていくことを願っています。」という感想をいただいた。

【運動会】アンケート調査

評価基準 A よかった B まあまあよかった C あまりよくなかった
D よくなかった

- 質問 1 「空」のテーマ⁽¹⁾の下、一人一人が精一杯に競技、応援に取り組んでいる姿、生き生きと輝いている表情が見られたか。
- 2 1年、2年、3年の縦の絆が生み出す団結力の強さが感じられたか。
- 3 3年生の最後の運動会に懸ける熱き思いが感じられたか。
- 4 今年は創立131周年であり、新たな年を始める私たちの勢いが感じられたか。
- 5 直に学校の様子、取組を御覧になって、学校評価につながる感想・意見・要望等を率直にお書きください。

○ 文化祭（10月）への参加



書道パフォーマンス



【文化祭】アンケートに回答する委員

文化祭を参観していただくとともに、生徒が作成したアンケート調査に答えていただいた。質問項目のほとんどが評価基準A及びBの評価であったが、「クラス単位や有志の発表をもう少し多くしてもよいのではないか。」という意見をいただいた。

【文化祭】アンケート調査

評価基準 A よかった B まあまあよかった C あまりよくなかった
D よくなかった

- 質問 1 「空」というテーマ^(*)にそって、文化部の日頃の活動の成果が表れていたか。
- 2 「東高でエンジョイ！」という雰囲気が感じられたか。
- 3 自主的に参加する生徒が増え、個性ややる気が感じられたか。
- 4 「東高ウォークラリー」等、新たな企画で、学校全体の活力・活気が感じられたか。
- 5 直に学校の様子、取組を御覧になって、学校評価につながる感想・意見・要望等を率直にお書きください。

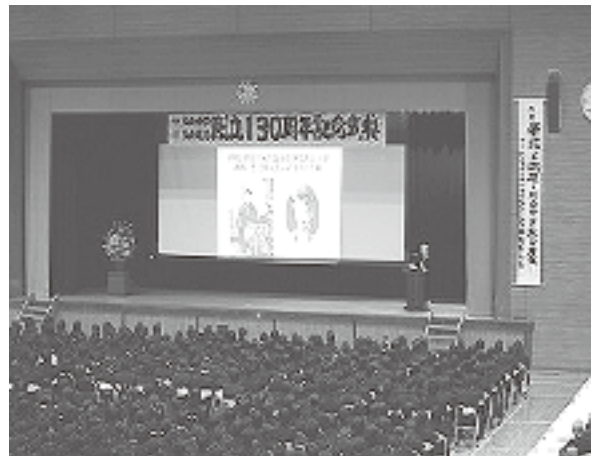
(*)この世界を明るく照らす太陽のように
この世界を静かに見守る月のように
そして、夜空を彩る幾万・幾億の星のように
それぞれの個性をもって輝く東高生
東高という空を、鮮やかな煌めきで染めて

○ 創立 130 周年記念式典（11 月）への参加

式典と記念講演会に参加していただき、本校の歴史や伝統に触れていただくとともに、PTAや同窓会員と交流していただいた。



式典



記念講演会

(2) ホームページの毎日の更新

7 月から、ホームページの作成方法を変更するとともに、生徒の学校生活の様子がわかる写真等を添付して毎日更新している。

(3) 公開授業や学校行事に係る保護者の意見の提供

公開授業や学校評価に係る保護者対象のアンケート調査の結果を委員に提供した。

(4) 授業評価・自己評価に対する保護者の意見の調査

7 月に「生徒対象 学校生活に関する自己評価」「生徒対象 授業アンケート・授業評価」を実施し、その結果を踏まえ、施設・設備や授業改善等に取り組んだ。また、11 月には「教職員対象 教育業務の自己評価」を、12 月には「保護者対象 学校評価アンケート」を実施した。

また、新たな取組として、「生徒による授業評価」の結果について、学校の教育活動の状況を比較的細かく把握している PTA 理事 33 名に、率直な感想や意見等を求めた。「子どもからも不満などを聞いたことがないので、正しく評価されているものと感じた。」「全体的に高い評価で子どもたちは授業に満足しており、先生方の熱意や真剣さが伝わってくる。」「学ぶ側の意識、姿勢が授業の質を上げているのではないかと思います。」「やはり、授業は教える側と学ぶ側の相互で作られるものだということが分かる。」等、好意的な感想が多かった。ただ、「正直何をどのように書けばよいのかわかりません。」といった意見もあった。さらに、教職員による自己評価についても、「1 学校経営 2 学習指導 3 特別活動 4 生徒指導 5 進路指導 6 学校保健・学校安全 7 人権教育 8 図書活動 9 現職教育 10 学年・学級 11 事務

的業務全般」の各業務分野の評価項目ごとに、「A 適正であると思う B どちらとも言えない C 適正でないと思う」を選択していただいた。ほとんどがAであったが、現職教育の項目については状況が十分把握できていないこともあり、Bが多かった。また、各分野について感想・意見・要望等を聞いた。「自由な校風の中でも規律、ルールを理解できるよう指導してください。」など、今後の教育活動の参考になる提言等をたくさんいただいた。

(5) 第2回学校関係者評価委員会

生徒や保護者対象のアンケート調査結果や教職員対象の自己評価等をもとに、校内の学校評価委員会で、目標達成状況や次年度に向けた改善等について審議し、自己評価表を作成した。

この自己評価表とともに、前述(3)・(4)で示した新たな取組で得たデータを資料として加え、協議していただいた。

5 成果と課題

- (1) 学校関係者評価委員に、学校の様子を知ってもらうために、授業参観や学校行事等、気軽に足を運んでもらえる機会を増やした。その際、授業研究会への参加や生徒との対話も実施し、教員や生徒と意見交換することで交流を深め、学校のことをより理解してもらうことができた。
- (2) ホームページを毎日更新して、学校の情報を保護者・地域に積極的に発信することにより、学校への関心を深めていただくことができた。併せて、委員にも教育活動等への理解を深めていただくことができた。毎日平均1200件以上のアクセスがある。
- (3) これまで生徒の学校生活に関する自己評価については、過年度比較や単年度内比較を実施してきたが、学校関係者評価委員会において、同一学年を3年間または2年間比較してみてもどうかという意見が出されたので実行した。例えば、3年生は学習活動や進路指導の分野の自己評価が学年が進むにつれて特に高くなっており、自分の将来について、よく考えていることが分かる。2年生については、進路指導の分野は1年次より高くなっているがそれ以外のほとんどの分野は低下しており、今後最上級生として全体のことを考えて行動できるか、特に、学校行事等でリーダーシップを発揮できるか、少し不安を感じた。このように、同一集団の経年変化を見ることにより課題がより明確になった。
- (4) 学校の自己評価に対する保護者の評価・意見を提供することによって、委員からは、「学校関係者評価を多面的に行うことができ、客観性を担保することができた。」という意見を得た。
- (5) 委員もそれぞれ自分の仕事を持っておられ、かなり無理をして学校に来ていただいている。教育活動に直に触れていただく事は大切であるが、負担軽減のため他の方法、例えば、メール通信等での情報提供も今後考えていきたい。

高等学校における学校関係者評価の実施に係る研究

～自分らしく、たくましく、美しく輝く大洲高校にするための学校評価の在り方～

愛媛県立大洲高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒 795- 8502 大洲市大洲 737			
設置する課程	全 日 制		教員数	4 7 名
生徒数 (H21.5.1 現在)				
学 科 名	1 年	2 年	3 年	計
普 通 科	1 4 5	1 5 5	1 5 8	4 5 8
商 業 科	4 0	4 0	4 0	1 2 0

本校は、「伊予の小京都」と呼ばれる人口約5万人の大洲市にあり、校舎は大洲城から歩いて5分ほどの場所にある。全日制課程の本校（商業科と普通科）と、定時制課程の肱川分校から成っている。明治34年に愛媛県立宇和島中学校大洲分校として設立されて以来、愛媛県立大洲中学校、愛媛県立大洲高等学校と名称を変えた。平成22年度で創立110周年を迎える伝統校であり、肱川分校も昨年度、創立60周年を迎えた。校内には、江戸時代に大洲藩に仕えた陽明学者、中江藤樹ゆかりの「至徳堂」があり、校歌にも「近江聖人の跡とめし」と歌われている。本校は十数年前までは、全校24学級、生徒数1000人を超える大規模校であったが、近年、少子化の影響で学級減が続き、現在は各学年普通科4クラス、商業科1クラスの合計5クラス、全校生徒約600名の中規模校となっている。

(1) 本校の教育方針

- ア 国家社会の有為な形成者たる資質を養うために高等普通教育を施し、商業科においては特に、商業に関する専門技術教育を施す。
- イ 能力・適性・進路に応じた指導により、教育的効果を高め、充実した教育を施す。

(2) 指導目標

中江藤樹邸址校生徒としての自覚を持たせ、藤樹精神の「知行合一」を伝統的教条とし、校風の中心とする。

校 訓

- 自律…自律性を養い、責任を自覚させる。
- 錬磨…心身を錬磨し、不撓不屈の精神を養う。
- 創造…知性を磨き、豊かな創造力を養う。

(3) 平成21年度重点努力目標

「藤花繚乱」 ～ 一人一人よ 花開け ～

(4) 平成21年度マニフェスト(重点課題)

- ア 生命の尊さを学び、生きる力を育む教育を実践します。
 - ・登下校時の完ぺきな安全確保を目標にします。
 - ・人権感覚を高め、いじめ問題の早期発見に努めます。
- イ 優しい心と誠実な人生観を持った生徒の育成を目指します。

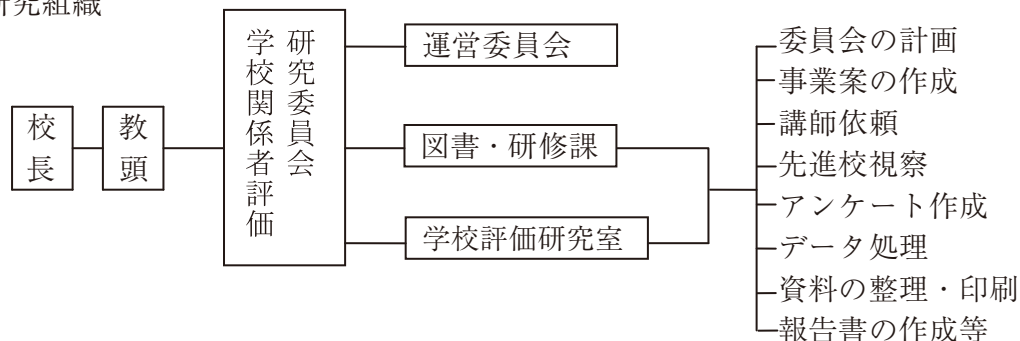
- ・地域の幼稚園や老人施設との交流を推進します。
- ・自律的な学校生活、家庭生活の送れる生徒を育成します。
- ウ 常に向上心を持ち、自ら学ぶ態度を育成する教育の充実に努めます。
 - ・「総合的な学習の時間（良知）」や個別指導を充実させ、進路目標を明確にします。
 - ・進学、就職共に第一志望合格率 100% を目標にします。
 - ・国公立大学合格率 50% 以上、就職内定率 100% を目標にします。
 - ・生徒一人一人がキャリアデザインを明確にし、校外での平均学習時間 4 時間以上を目標にします。
- エ 豊かな情操を持った生徒を育成する読書指導の充実に力を入れます。
 - ・朝読書の実践によって継続的な読書体験に取り組みさせます。
 - ・図書館利用を推進し、年平均一人 4 冊以上の貸し出しを目標にします。
- オ 明るく、躍動感あふれる学校生活の実現を目指します。
 - ・県総体出場者数 150 名を目指します。
 - ・地域と一体となった藤樹祭（文化祭、仮装行列、体育祭）の実現を目指します。
 - ・学校生活の満足度 80% 以上を目指します。

2 学校関係者評価事業の概要

（1）研究のねらい

高等学校が持つ広域性や多様性に着目して、学校関係者評価を円滑に実施するための組織体制の構築方法や評価方法等の研究、学校関係者評価の公表、報告書の設置者への提出など、学校関係者評価の評価プロセスの構築に向けた取組方策について研究する。また、本校の目指すべき学校像の実現に向けて、PDCA サイクルに基づいた学校評価を行い教育活動の組織的・継続的な改善を図ることを本研究のねらいとする。

（2）研究組織



学校関係者評価委員の構成

- ・ 学校評議員 5 名、PTA 役員 3 名、中学校関係者 1 名、スポーツ指導者 1 名
合計 10 名

学校関係者評価研究委員の構成

- ・ 校長、教頭、事務長、総務課長、教務課長、特活課長、生徒課長、人権・同和教育課長、図書・研修課長、各学年主任、事務係長、学校評価研究室（3 名）

合計 16 名

（3）研究の過程

ア PDCA サイクル

Plan

- ・ 本年度のマニフェスト（重点課題）、重点努力目標

Do

- ・ 各学年・教科・課（校務分掌）及び各教員・ホームルームのマニフェストに基づく実践
- ・ 授業公開（学校関係者評価委員の参加）

- ・学校関係者評価委員の各種行事への参加
- ・校内学校関係者評価研究委員会
 - 第1回：年間計画の決定
 - 第2回：授業アンケート及び第1回学校関係者評価委員会について
 - 第3回：県外視察報告及び授業評価について
 - 第4回：中間評価及び授業評価について
 - 第5回：中間アンケート結果の検討及び研究冊子について
 - 第6回：最終評価及び授業評価の結果について
 - 第7回：来年度に向けての対策について
- ・学校関係者評価委員会
 - 第1回：学校関係者評価研究についての説明及び年間計画の説明
 - 第2回：在校生との懇談会及び県外視察報告
 - 第3回：藤樹祭(仮装行列、体育祭、文化祭)の感想及び中間評価について
 - 第4回：最終評価及び次年度の取組について
 - 第5回：学校関係者評価研究のまとめ

C h e c k

- ・授業参観についてのアンケート分析
- ・学校関係者評価委員による藤樹祭(仮装行列、体育祭、文化祭)の参観
- ・教職員、生徒、保護者による自己評価（中間・最終）
- ・学校関係者評価委員による評価（中間・最終）

A c t i o n

- ・教科指導の改善
- ・特別活動の見直し
- ・進路指導の改善
- ・校務分掌における業務内容の見直し

イ 外部への発信

- ・「学校関係者評価委員会だより」の発行
 - 第1号：学校関係者評価についての説明及び校内行事に関する報告
 - 第2号：研修報告及び校内行事に関する報告
 - 第3号：中間評価についての報告
 - 第4号：最終評価についての報告
 - 第5号：学校関係者評価のまとめ及び次年度の計画
- ・学校ホームページへの掲載
- ・PTA総会での報告

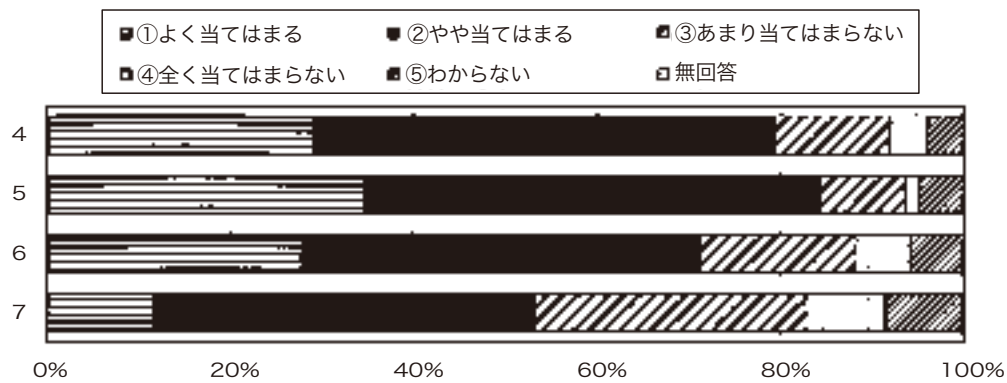
ウ その他

- ・教職員及び生徒と学校関係者評価委員との意見交換
- ・校長と学校関係者評価委員との意見交換

エ 自己評価(抜粋)

(ア) 生徒による評価(11月実施分)

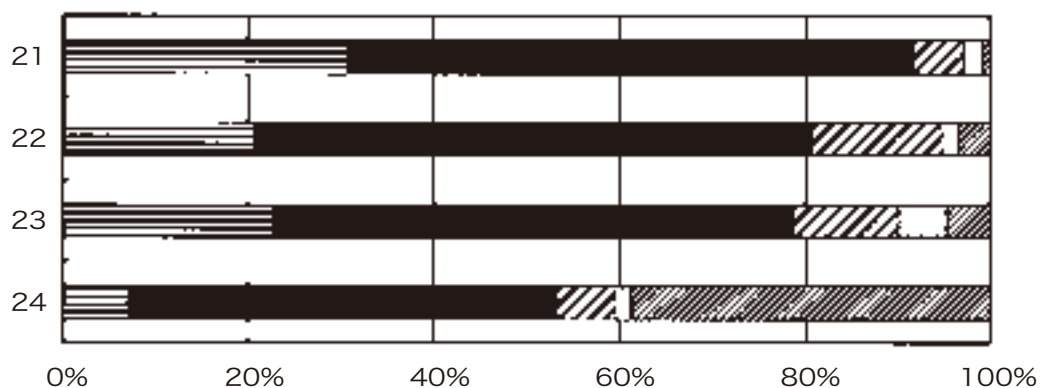
- 4 本校に入学して良かったと思いますか。
- 5 本校での生活は、自分の将来にとって有益だと思いますか。
- 6 本校には、ほかの学校にない特色があると思いますか。
- 7 学校は、生徒の自発的な活動ができるよう配慮していると思いますか。



本校に対する満足度は高い。7「学校は、生徒の自発的な活動ができるよう配慮していると思いますか。」という質問に対する満足度(そう思うとややそう思うを合わせて)が 50%と昨年度よりは向上しているものの、まだ改善の余地が残っている。

(イ) 保護者による評価(11月実施分)

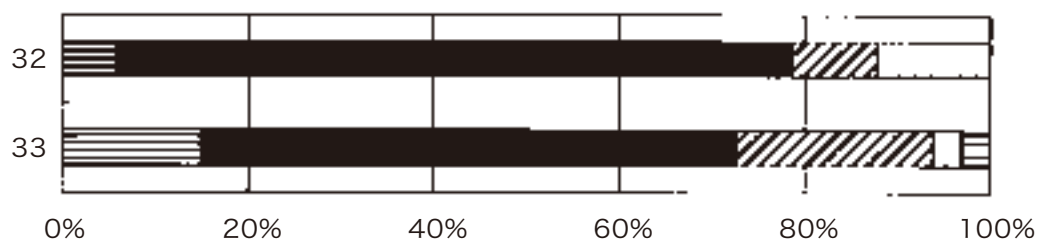
- 21 学校行事(藤樹祭、修学旅行、クラスマッチなど)は、楽しく充実していると思いますか。
 22 学校行事を通して、様々な生活体験ができていると思いますか。
 23 本校の部活動は十分に活動できていると思いますか。
 24 ホームルーム活動はクラス全体で活発に取り組んでいると思いますか。



保護者の回答においても、本校での行事や諸活動に満足している様子がうかがえる。24「ホームルーム活動はクラス全体で活発に取り組んでいると思いますか。」という質問に対する満足度(そう思うとややそう思うを合わせて)は 54%で、半分強しかなく、この点が改善すべきところとなっている。

(ウ) 教職員による評価(11月実施分)

- 32 教職員が健康で働きやすいように、職員室・休憩室等の整備がなされているか。
 33 本校で働くことに充実感や満足感を持っているか。



本校での勤務に対しては、満足感が強い。しかし、各校務分掌の業務内容に多少の違いがあり、課や科によっては教員が多忙感やストレスを感じているところもある。この点を考えると次年度の各課の人数配分や業務内容の見直し等を進める必要がある。

(エ) 学校関係者評価(12月実施分)

年間2回(中間・最終)の自己評価の結果を、教育の専門家ではないが学校に関係しているという立場で評価をしてもらい、本校の教育活動が妥当なものであるかを検証し、以下のような数多くの建設的な意見をいただいた。

＜全体評価及びその成果＞(抜粋)

「教育設備については、おおむね良好。学校全体の清掃及び環境は非常に良く、学舎として落ち着いた雰囲気である。一隅に至徳堂があることも品位を高めている。生徒も明るく、素直で、あいさつもよくできていて、授業態度も良い。服装関係も乱れがなく、清楚な感じである。今後とも、個々の生徒に応じた生徒指導をし、進路指導についても重要な課題として取り組まなければならない。」

＜改善のための提言＞(抜粋)

「保護者が教職員及び教科内容・学習指導について学校から得る情報は、主に生徒からの間接的な情報となる。したがって、教科指導・学習指導の良否は、結果としての成績を見るしかない。(つまりは、分かりやすい授業・良好な学習指導であれば、生徒は授業に興味を持ち、積極的に参加するだろうし、自宅での自学・自習にも熱心になるだろう。ひいては、試験等の成績もアップするであろう。)また、生徒指導・生活指導が良好なら、家庭でも生徒は生き生きしていることであろう。その生徒の出す信号を保護者が適切に受け取るには、親子の対話が不可欠である。言い古されたことながら、家に帰ったら生徒は親に一日の報告をすることが肝要である。子からでも親からでも、どちらから言い始めてもよいのだから、多くのふれあいの場を持ちましょうと呼び掛けることが一番である。親にしても子にしてもそのための架け橋となれたら、大きな喜びを感じることができるだろう。」

(オ) マニフェストの検証(中間評価、抜粋)

- ・「地域の幼稚園や老人施設との交流を推進します。」
→愛媛県指定事業として取組を進めている。
- ・「進学、就職共に第一志望合格率100%を目標にします。」
→就職に関しては、ほぼ100%を達成した。(進学については継続中)
- ・「県総体出場者数150名を目指します。」
→170名出場し、達成率は113%である。

(4) 先進校の取組

兵庫県立御影高等学校と神奈川県立桜陽高等学校を訪問した。両校に共通することは、学校評価が土台となり、努力目標をしっかりと実践することができていた。また、学校評価専属の教員を配置しており、評価の体制がしっかりできあがっていた。本校においても、アンケートの結果から課題を見出し、生徒たちがより充実した生活を送るために全職員が取り組むことができるシステムの構築を目指したい。

(5) 成果と課題等

ア 各課・学年(抜粋)

2回の自己評価(自由記述の意見を含む)を通して、各課・学年とも具体的な課題が浮かび上がってきたので、即対応できるような事柄については随時対応し、中・長期的な展望が必要な事柄については、現在検討している。以下に学年に関する学校評価について掲載する。

(7) アンケート結果から

保護者のアンケート結果からは、都市部の高校と違い、地域の伝統校としての使命と責任を果たすことが強く求められていることが見て取れる。したがって、その意味での叱咤激励の意見が顕著に現われていると言える。数多い提言や意見の中には、真摯に受け止め改善しなければならない点も多いが、一方で普遍化しにくい項目があるのも事実である。これは、生徒のアンケート結果にも言えることである。しかしながら、旧態依然のままでは地域の期待にこたえることができないため、教職員の自覚と認識を新たにしなければならない。

本校が地域の伝統校として存在している以上、学校・保護者・地域が三位一体となり地域に開かれた学校となる必要がある。そして、保護者が気軽に学校を訪れることができ、保護者の建設的な意見が学校運営に反映されるよう、学校からの情報の発信や保護者との活発な交流を促進する必要があるだろう。

(イ) 今後の課題

a 良知(総合的な学習の時間)

「総合的な学習の時間」を利用して将来の進路に対する意識を喚起し、インターシップなどの実践を通して職業観や勤労観を学ばせ、視野を広げさせる必要がある。

b 生徒自身が行事などを企画し運営する実践力の育成

人権集会のように生徒自らが情報を発信する場を提供し、コミュニケーション能力の実践力を高める機会を増やす必要がある。

c 奉仕の心と感謝の気持ちの育成

様々な地域社会との交流を通して、生徒自身が他にいかされている存在であることを実感させ、謙虚に自己を反省する経験を積み重ねさせる必要がある。

d 授業の改善と生徒個々に対する適切な指導

年々、生徒間の学力差が大きくなってきており、生徒の実態や変化に対応するために、学年会や教科会での議論を踏まえた授業の改善と工夫が必要不可欠になっている。また、生徒の学習状態を把握して、やる気を持たせる適切な指導と助言を行い、生徒と教員相互のスムーズな意思の疎通がなされなければならない。さらに、生徒たちの学習状況や悩みなどの情報を学年団で共有し、機動性のあるネットワークを構築する必要もある。

イ 年間計画（PDCAサイクル）

今年度はPDCAサイクルを2回行った。これは、検証を細かくすることを目的としたものであるが、データの集収・分析には手間が掛かるので、このサイクルを1回にして、Actionの前にアクションリサーチの手法を取り入れると効率的である。また、Planは前年度末に行っておき、Checkを次年度の7月に行うと、人事異動によるスタッフの変動にも対応しやすい。

ウ 校内組織

本年度は学校評価事業実践校に指定されていたので、学校評価研究室のような担当室あるいは課が設置できた。次年度以降もデータ処理等の負担を軽減し、日常的に行える、持続可能な学校評価モデルの構築が必要である。

エ 学校評価の位置づけ

これまで「評価のための評価」になりがちで、ともすると「徒(疲)労感」を伴うことがあったことは否めない。先進校の特徴としては、評価に基づいて目標が設定されており、校内体制を充実させるための基礎となっている。継続性を持たせるためにも、「学校評価こそが全ての基本」という感覚が必要である。

オ データ処理の方法

S Q Sを利用したデータ処理が効率的であるが、自動読み取り機能付きスキャナが必須であり、これに関しては費用の問題が出てくる。

カ その他

文部科学省発行の「学校関係者評価をいかしたよりよい学校づくりに向けて（学校関係者評価参照書）」にもあるように、学校現場で学校評価を円滑に進めるために、データ処理の講習会や教職員研修の講演会を行うことができればよい。

(6) 情報提供の充実・改善

各学校が特色ある教育活動を行うためには、学校教育への保護者・地域の方々の参画を促すことが大切になってくる。そのために、各学校は、保護者や地域住民と情報や課題を共有するために、教育活動その他の学校運営の状況について、積極的に情報を提供することが求められる。学校が提供すべき情報としては、例えば下記のようなものが考えられる。

- ・ 教育目標及び教育計画
- ・ 学校の概要
- ・ 学習活動
- ・ 生活指導
- ・ 進路指導
- ・ 安全管理・保健管理
- ・ 保護者や地域住民などとの連携
- ・ 学校評価に関する情報

特に学校評価結果の公表に関しては、それが保護者、地域、卒業生などの学校関係者に理解されなければ意味を持たない。また、理解されるには、公表する結果が信頼されるものでなければならない。学校の公表する評価結果が関係者に信頼を持って受け入れられて初めて、説明責任が果たされたことになる。評価結果が信頼されるものになるためには、「学校が行う自己評価における判断の根拠として適切なデータが提示されていること」及び「評価結果に外部の目で光を当てること」の2点が必要であると思われる。学校評価が学校と学校関係者の間のデータに基づく対話を促進するようになると、学校の教育計画に関する関係者の理解が深まるだけでなく、教育内容や進め方に関する関心を共有できるようになり、教育プロセスに参加・協力する素地ができると思われる。本研究においては、保護者からのアンケート結果の中に、「分からない」という回答が40%を越える項目がある。それらは授業の様子や校内活動に関するもので、実際に来校してみないと分からないものであった。この点を考え、保護者が来校しやすいように公開授業やPTA総会などを土・日などの休日に開催することも検討すべきである。また、個人情報の保護や守秘義務についてよく考え、公表すべきではないことについては公表しないよう、十分に配慮すべきであることは言うまでもないことである。

(7) 平成22年度に向けて

本研究の趣旨を踏まえて、「学校評価をどのように実施すれば学校改善に結びつくか」という観点を中心として、本研究を1年間進めてきた。学校評価の内容は、教職員の授業改善を中心として、学校の経営方針から、施設・設備の改善に至るまでの全般に渡っている。だから、1年間という短期間では、各アンケート調査によって分かった改善点や、外部評価委員から指摘された問題点をすべて解決していくことはできなかった。しかし、本評価の結果が示すように中間評価で浮き彫りとなった問題点の改善は進んでいるのも事実である。そして、本年度の研究で分かった問題点、課題等

を考慮して得た、来年度以降強化すべき項目を挙げてみたい。

- ・ アンケート項目の精選と調査方法の検討
- ・ 学校評価の起点である授業改善の研究
- ・ 学校評価の中核である教育課程評価の研究
- ・ 学校評価結果公表とその充実
- ・ 学校評価そのものの評価と改善

学校に対する評価は、「本校で学んだ生徒一人一人がその成果をどのようにいかし、その後の人生をいかに豊かで充実したものにするか。どれだけの貢献を社会に対してすることができるのか。」という質問の答えによって決まってくるのだと思う。それだけに、学校評価は、生徒一人一人の将来像を見据えた長期的ビジョンを持って継続的に行われるものでなくてはならない。あくまでも学校評価の主体は学校であり、生徒のための学校改善である。学校評価は本校の教育活動を外部にアピールし、理解していただける最大のチャンスであることを常に念頭に置き、次年度以降も、全教職員の協働体制を強化し、組織的・計画的に実践していきたい。

実践研究の具体的な取組
～学校マニフェスト、学校評価アンケートの改善、情報提供の改善～
愛媛県立大洲農業高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒795-8509 大洲市東大洲 15-1			
設置する課程	全日制		教員数	4 4 名
生徒数（H21.5.1 現在）				
学 科 名	1 年	2 年	3 年	計
農 業 科	1 2 0	1 0 8	1 1 1	3 3 9

2 具体的な取組

（1）学校マニフェストについて

① マニフェスト作成に向けての流れ

- ア 昨年度の反省・課題を基に、学校長が本年度の学校運営方針を決定する。
 - ・学校経営方針、教育目標、重点努力目標、具体的実践努力目標など
- イ 学校長が示す学校運営方針に基づき、マニフェストに記載する事項・数値目標について検討する。
 - ・学校評価研究委員会を中心とし、項目・数値目標を設定する。
- ウ 作成・完成
 - ・様式の変更
 - ・印刷数
- エ 配布
- オ 公開

② マニフェストに記載する事項・数値目標の検討

平成20年度	平成21年度
1 明るく活気のある学校を目指します。「夢」 ・個人面談・・・・・・・・年間10回以上 ・元気な挨拶・・・・・・・・100% ・一か年皆勤者率・・・・・・・・50%以上 ・部活動加入率・・・・・・・・70%以上 ・県高校総合体育大会出場者・・・50人以上 ・県高校総合文化祭出場者・・・40人以上 ・進学希望者合格率・・・・・・・・100% ・就職決定率・・・・・・・・100% ・PTA総会出席率・・・・・・・・50%以上	1 明るく活気のある学校を目指します。「夢」 ・個人面談・・・・・・・・年間<u>6回以上</u> ・元気な挨拶・・・・・・・・100% ・一か年皆勤者率・・・・・・・・50%以上 ・部活動加入率・・・・・・・・70%以上 ・県高校総合体育大会出場者・・・50人以上 ・県高校総合文化祭出場者・・・40人以上 ・進学希望者合格率・・・・・・・・100% ・就職決定率・・・・・・・・100% ・PTA総会出席率・・・・・・・・50%以上

2 どこに出しても恥ずかしくない人間づくりをします「ふれあいの心」 ・地域とのふれあい・・・１０００人以上 ・ボランティア活動・・・１人年間３回以上 ・社会人活用・職場理解・・・５０時間以上 ・大農うきわくスクール・参加生徒・１００名以上 ・いきいき大農開放講座・・・年間１０回以上 ・図書利用冊数・・・１人１０冊以上 ・授業公開日数・・・年間１０日以上	2 <u>地域に開かれた学校を目指します。</u> 「ふれあいの心」 ・地域とのふれあい・・・１０００人以上 ・ボランティア活動・・・１人年間３回以上 ・社会人活用・職場理解・・・５０時間以上 ・大農うきわくスクール・参加生徒・１００名以上 ・いきいき大農開放講座・・・年間１０回以上 ・図書利用冊数・・・１人１０冊以上 ・授業公開日数・・・年間１０日以上
3 国家社会の役に立つ人間づくりをします。 「確かな力」「本物」 ・農ク各種発表・競技県大会・・・全部門入賞 ・漢字テスト平均点・・・８０点以上 ・数学計算テスト平均点・・・７０点以上 ・資格取得率・・・１人１資格以上 ・資格取得生徒数・・・延べ７００名以上 ・生産科学科 - 経済情報コース - ワープロ検定３級取得者率・・・５０％以上 - 園芸工学コース - 初級バイオ認定試験取得者率・・・５０％以上 ・食品化学科 - 危険物乙種第４類取得者率・・・５０％以上 ・生活科学科 - 食物１級合格者・・・１０名以上 - 食物２級取得者率・・・１００％ - 被服（洋服・和服）１級合格率・・・１００％ - 被服（洋服・和服）２級合格率・・・１００％	3 <u>確かな力をつける学校をめざします。「本物」</u> ・農ク各種発表・競技県大会・・・全部門入賞 ・漢字テスト平均点・・・８０点以上 ・数学計算テスト平均点・・・７０点以上 ・（削除） ・資格取得生徒数・・・延べ７００名以上 ・生産科学科 - 経済情報コース - ワープロ検定３級取得者率・・・５０％以上 - 園芸工学コース - 初級バイオ認定試験取得者率・・・５０％以上 ・食品化学科 - 危険物乙種取得者率・・・<u>３０％以上</u> ・生活科学科 - 食物１級合格者・・・１０名以上 - 食物２級取得者率・・・１００％ - 被服（洋服・和服）１級合格率・・・１００％ - 被服（洋服・和服）２級合格率・・・１００％
	4 <u>安全・安心な学校を目指します。「健やか」</u> ・登下校交通事故・・・０％ ・清掃活動５分前移動・・・１００％ ・原動機付自転車カード提出率・・・１００％ ・いじめ発生率・・・０％ ・健康診断再検査受診率・・・５０％以上

③ マニフェストの様式

- ア 上表の様に、項目や数値目標を記載したのみの様式から、次ページに示すような視覚的にインパクトもあり、読みやすさも考慮したマニフェストを作成した。
- イ 裏面には写真・校訓・教育目標・学科名・イベントを配し、学校を簡単に紹介できるような内容を入れた。
- ウ 印刷数は、昨年度は保護者・教職員・教室掲示する程度であったが、外部向け配布に耐えうる枚数を用意した。
- エ 配布は行事があるごとに配布した。（生徒・保護者・学校関係者評価委員会・地域住民・中学２、３年生・中学校教員等）
- オ ホームページ上で公開



④ マニフェストの達成状況（中間検証）

年度の中間時点（1学期末）でのマニフェスト達成状況について結果が出せるものについて集計し、目標が達成できつつあるか検証した。結果は全教職員へ伝え、後半の教育活動の参考にしようお願いした。

マニフェスト	1学期末現在の達成率
1 明るく活気のある学校を目指します「夢」 ・個人面談・・・・・・・・・・年間6回以上 ・元気な挨拶・・・・・・・・・・100% ・一か年皆勤者率・・・・・・・・50%以上 ・部活動加入率・・・・・・・・70%以上 ・県高校総合体育大会出場者・・50人以上 ・県高校総合文化祭出場者・・40人以上 ・進学希望者合格率・・・・・・・・100% ・就職決定率・・・・・・・・・・100% ・PTA総会出席率・・・・・・・・50%以上	2回 100% 67.8% 91名 79名 － － － 27%
2 地域に開かれた学校を目指します。 「ふれあいの心」 ・地域とのふれあい・・・・・・・・10000人以上 ・ボランティア活動・・・・・・1人年間3回以上 ・社会人活用・職場理解・・・・50時間以上 ・大農うきわくスクール・参加生徒・100名以上 ・いきいき大農開放講座・・・・年間10回以上 ・図書利用冊数・・・・・・・・1人10冊以上 ・授業公開日数・・・・・・・・年間10日以上	367名 1回 40時間 42名 7回 3.1冊 2日

3 確かな力をつける学校をめざします。「本物」 ・農ク各種発表・競技県大会・・・全部門入賞 100% ・漢字テスト平均点・・・・・・80点以上 90.5点 ・数学計算テスト平均点・・・・・・70点以上 71.9点 ・資格取得生徒数・・・・・・延べ700名以上 - ・生産科学科 - 経済情報コース - ワープロ検定3級取得者率・・・50%以上 - - 園芸工学コース - 初級バイオ認定試験取得者率・50%以上 100% ・食品化学科 - 危険物乙種取得者率・・・・・・30%以上 - ・生活科学科 - 食物1級合格者・・・・・・10名以上 - - 食物2級取得者率・・・・・・100% - - 被服（洋服・和服）1級合格率・・・100% - - 被服（洋服・和服）2級合格率・・・100% -	
4 安全・安心な学校を目指します。「健やか」 ・登下校交通事故・・・・・・・・・0% 0% ・清掃活動5分前移動・・・・・・・・・100% 60% ・原動機付自転車カード提出率・・・・100% 100% ・いじめ発生率・・・・・・・・・0% 0% ・健康診断再検査受診率・・・・・・・・・50%以上 -	

(2) 学校評価アンケートの改善

① アンケートの種類

- ・教職員対象、生徒対象、保護者対象、地域住民、学校関係者評価委員会、生徒による授業評価とした。

② アンケートの見直し

- ・アンケート担当の役割分担

- 教職員担当 …… 総務課、農場長、図書・研修課
- 生徒担当 …… 学年主任
- 保護者担当 …… 学科長
- 地域住民担当 …… 生徒指導課
- 学校関係者担当 …… 総務課、農場長、図書・研修課
- 生徒による授業評価担当… 教務課

6種のアンケートを上記のように分担し、各担当者で設問を検討した上で、学校評価研究員会に諮った。

③ アンケートの実施

- ・担当ごとに、実施期日・要領（実施の方法、回収、集計等）を検討した。
- ・今年度より、1学期末と2学期末の2回アンケートを実施することとした。
（教職員、生徒、保護者、生徒による授業評価のみ）

④ 生徒による授業評価

- ・本校の生徒による授業評価は、教員一人一人の授業を生徒に評価させるものである。

- ・ 1人の教員が自分の担当している2科目について評価を受けるようにし、各クラスにとっては5科目程度の授業について評価するようにした。
- ・ 1学期末の実施においては、科目担当者が集計するところまでとし、各先生方に自分の授業を評価する参考資料としてもらった。また、2学期末の実施においては、集計後教務課へデータを提出していただいた。
- ・ 設問は下表のようにし、科目の特質に応じた設問も設定できるようにした。

1	授業や実技・実習の進め方に無理がなく理解しやすい
2	先生の説明や指示はわかりやすい
3	授業に対する熱意がある
4	生徒への注意も的確に行われている
5	授業の準備が十分なされ、工夫もされている
6	授業時間の始めと終わりは守られている
7	この10問は、各教科で自由に設問できるようにした。 (教員側としては教材や資料準備、課題等について、生徒側としては予習・復習、課題等についての設問)
16	
17	
18	
19	
20	

- ・ 7～16の設問例は、座学中心の科目では、宿題が適量に出されている。板書がわかりやすく適量である。先生の声の大きさが適切である。演習プリントや課題を増やして欲しい。私は、予習・復習をして授業に臨んでいる。私は、宿題や提出物がきちんとできている。私は、ノートやプリントがきちんとできている。などであり、実技、実験・実習中心の科目では、服装・身だしなみ、安全に留意する指導がなされている。授業では、身に付く内容と工夫がなされている。授業の内容が自分たちの実態に合っている。芸術のよさや特徴をうまく伝えることができている。実生活に結びつく授業である。私は、実習で後片付けがしっかりできている。私は、実習で安全に留意して取り組んでいる。私は、授業（実習）でノートや記録をしっかり取っている。私は、授業の道具を忘れずに準備している。私は、感動を味わっている。私は、イメージや感情を創造的に表現している。私は、授業で習ったことを生活の中で生かしている。などである。
- ・ また、上記の設問以外にも、「授業に対しての要望や提案などがあったら具体的に書いてください。」という欄を設け、生徒の意見を聞き出す工夫をした。

(3) ホームページの再編

本校の情報処理教育は、視聴覚（情報）教育委員会が担当している。「農業情報処理」等の情報処理科目や資格取得、機器のメンテナンス、ホームページ（HP）の管理等、全てこの組織が担当している。視聴覚（情報）教育委員会は3名の教員で構成されているが、本委員会は図書・研修課の中に配置されており、この研究を期に学校評価研究委員会の活動と並行してHPの再編を行うことにした。

① 視聴覚（情報）教育委員会の開催

- ・ 第2回学校評価研究委員会を行った際に、視聴覚（情報）教育委員会も開催し、HPの再編について検討した。

ア 検討内容（現在のHPの問題点、全国の農業高校HPの掲載傾向、再編後のHP

に掲載すべき事項、HP 作成の組織作り)

イ 「だれに向けて、どの情報を、どれだけ提供するか」

ウ 知りたい情報にたどり着きやすいメニュー

エ いつまでに再編するか

② 平成20年度学校評価結果の公開

③ 平成21年度マニフェストの公開

④ 階層への工夫

- ・HPを閲覧する際、目的とするページにたどり着くのに手間取ることがまれにある。閲覧者のニーズに応じて目的のページに簡単にたどり着けるような階層の浅いHP作りを目指した。

〔旧HP〕上部



〔旧HP〕下部



- ・旧HPは上図のように、画面上部に学

校名や写真・地図があり、下方にメニューが配置されている。

- ・新HPは右図のように、メニューを画面左側に配置し項目も増やした。また、学校名の下に「中学生へ」「保護者へ」「地域の方へ」ボタンを置き、閲覧者に奥の階層に入りやすくした。

- ・階層図は下図のように、伝えたい情報を整理し、項目を増やした。特に中学生・保護者・地域住民への情報提供に重点を置き、生徒募集、各学科での学習内容、部活動、大農通信など各たより、農場での管理作業や現在販売されている農産物や加工品まで、情報を提供できるように工夫した。

〔新HP〕



学校関係者評価の実施と改善

～地域に支えられた実践的技術者の養成を目指した学校づくり～

愛媛県立八幡浜工業高等学校

1 学校の概要

所在地	〒796-8003 八幡浜市古町二丁目3番1号			
設置する課程	全日制	教職員数	55	名
生徒数（H21.5.1 現在）				
学科名	1年	2年	3年	計
機械科	37	40	36	113
電気技術科	39	38	40	117
土木科	37	29	30	96
計	113	107	106	326

2 実践研究の概要

本校では、平成20年4月に「学校評価ガイドライン」に沿った学校関係者評価委員会を組織した。そして、年3回の学校関係者評価委員会を開催することにより、中間評価、年度末評価を通して学校関係者評価委員の指摘・提言を踏まえた改善に取り組んできた。

本研究では、昨年度の学校関係者評価委員会の結果を踏まえ、より効果的で実効的な学校関係者評価を行い、評価を踏まえた学校改善を推進し、地域に支えられた実践的技術者の養成を目指した学校づくりに取り組むために、次の重点事項を中心に検証した。

- 校内組織の構築
- 学校関係者評価を適切に行うための、適切な自己評価を含む資料づくり
- 学校関係者評価委員に事前情報を提供するためのシステムづくり
- 学校関係者評価委員会の運営方法
- 学校関係者評価を踏まえた改善策を立案・実践するシステムづくり

【資料1】 学校評価年間計画

	学校評価	関係行事等		学校評価	関係行事等
4月	第1回学校評価委員会 学校評価委員会・研究推進委員会組織 主旨説明、マニフェスト・数値・努力目標提示 学校評価年間計画検討（関係者含む） 第2回委員会の県提出自己評価表依頼		9月	第1回学校評価、関係者評価の公表	
			10月		体育祭
			11月	第4回学校評価研究推進委員会	授業公開
	第1回学校評価研究推進委員会			第6回学校評価委員会 第2回校内用自己評価表の検討 第2回学校評価アンケート実施	授業研修 期間 授業評価
5月	第2回学校評価委員会 県提出自己評価表の検討 校内用自己評価表の依頼 第2回学校評価研究推進委員会	バラ展	12月	第7回学校評価委員会 第2回学校評価結果分析・改善策提示	
6月	第1回学校関係者評価委員会 関係者委員による授業・施設参観	授業公開 授業研修 期間 授業評価	1月	第3回学校関係者評価委員会 第5回学校評価研究推進委員会	
	第3回学校評価委員会 第1回校内用自己評価表の検討		2月	第8回学校評価委員会 関係者委員の提言を踏まえた改善検討 各種資料作成依頼 学校関係者評価県報告書依頼 第6回学校評価研究推進委員会	授業公開 授業研修 期間 授業評価
7月	第1回学校評価アンケート実施 第3回学校評価研究推進委員会 県外先進校見学・ブロック研修協議会				
8月	第4回学校評価委員会 第1回学校評価結果分析・改善策提示 第2回学校関係者評価委員会 第5回学校評価委員会 関係者委員の提言を踏まえた改善検討		3月	第9回学校評価委員会 学校評価成果の報告会 平成21年度学校評価、関係者評価の公表	

3 重点研究内容

(1) 校内組織の構築

ア 学校評価委員会

本校では、平成19年に既存の運営委員会を活用した学校評価委員会を立ち上げた。各評価項目ごとに担当主幹を決め【資料3】、個人の役割と責任の明確化を図った。

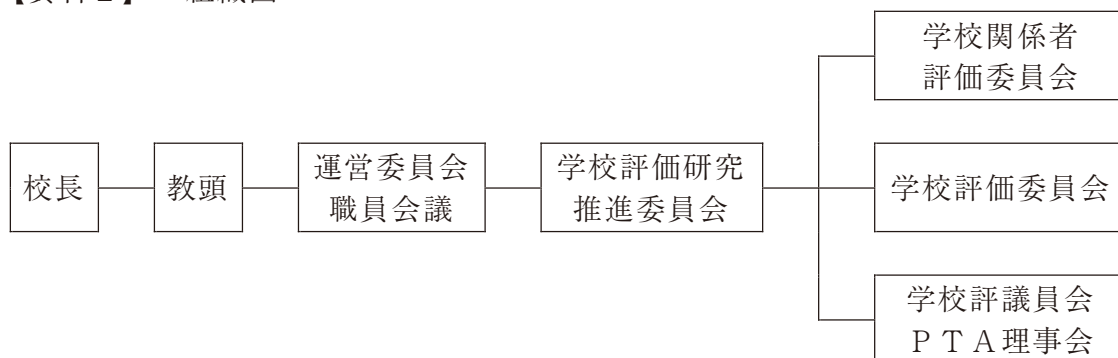
イ 学校関係者評価委員会

昨年度は、保護者・学校評議員・地域住民・中学校教員代表・青少年健全育成団体関係者8名から成る学校関係者評価委員会を組織し、年間3回の委員会を開催した。性別、年齢等のバランスを考慮し、多方面より評価がいただけるように、今年度は八幡浜市教育委員会教育主幹を加え9名の方々に委員を委嘱した。

ウ 学校評価研究推進委員会

本研究のため、今年度は新たに学校評価研究推進委員会を設け、学校評価の組織的な取組を目指した。

【資料2】 組織図



【資料3】 各委員会の構成

委員会名	構 成	
学校評価委員会	学校経営	総務厚生課長、研修・メディア教育課長
	学習指導	教務課長、研修・メディア教育課長
	工業教育	工業教育推進課長、工業科長
	特別活動	特活課長、学年主任
	生徒指導	生徒課長
	人権教育	人権・教育相談課長、人権・同和教育主任
	進路指導	進路指導課長、工業科長
	学校保健	保健スポーツ課長
	学校安全	総務厚生課長
	学校行政	事務課長
学校関係者評価委員会	PTA会長、PTA副会長、学校評議員、地域住民、八幡浜市教育委員会教育主幹、中学校教員、青少年健全育成団体関係者	
	校長、教頭、事務長、総務厚生課長、教務課長、工業教育推進課長 研修・メディア教育課長、研修・メディア教育課員（学校評価担当）	
学校評価研究推進委員会	校長、教頭、事務長、総務厚生課長、教務課長、工業教育推進課長 研修・メディア教育課長、事務課長、研修・メディア教育課員	

(2) 学校関係者評価を適切に行うための、資料づくり

ア 学校評価アンケート

本校では、年2回（1学期末と3学期始め）生徒・保護者・地域住民・教職員に対してアンケートを実施している。アンケートの質問項目については、できるだけ評価の視点を絞り込み、それぞれの立場から回答しやすい表現になるよう努めた。平成17年度から開始した学校評価アンケートであるが、年度間の変化を見るため、項目の大幅な変更は行っていない。回答は「どちらでもない」の中間評価に集中するのを避けるため4段階としたが、分からない場合は空欄でもよいとし、それぞれに自由記入欄も設けた。

地域住民へのアンケートは、交流のある近隣の幼稚園・保育所、インターシップ受入企業、近隣の同窓会役員、校区の住民の方々に行っている。回答は郵送して、返信していただく形を取っているが、校区の住民の方々には回覧板で回覧し、返信用封筒にて返信していただくという形をとっている。

保護者へのアンケートは、兄弟が在籍している場合もそれぞれの生徒について回答していただくようにしている。無記名で封筒に入れて回収することにより、95%前後の高い回収率を保っている。地域住民のアンケートの回収率は40%前後と決して高いとは言えないが、自由記入欄に書かれた提言や意見は、今後の学校改善の指針となるものが多くあり、継続して実施していきたいと考えている。

地域住民へのアンケートには、学校の実情を理解していないと回答しにくい質問項目もあることから、今後は地域住民の方々へのより詳細な情報提供も考えていかなければならない。しかし、地域住民の方々に学校の教育活動を十分理解していただくことは難しいことから、質問項目の見直しを検討し、さらに客観性のあるアンケートにしていきたい。

イ 授業アンケート

本校では、年3回（各学期5日間）ある公開授業期間に、教科の枠を超えた相互授業研修を行っている。1人年間5回以上の授業参観を数値目標とし、参観者は授業者に授業参観記録表を提出するようにしている。また、1学期と3学期の相互授業研修期間には、生徒による授業アンケートを実施している。この生徒による授業評価の集計結果と授業参観者による授業評価を踏まえて、全教員が授業評価の集計・分析を行い、さらに教科会で問題点・改善点を話し合い、授業力向上を図っている。

しかしながら、生徒アンケートの「生徒による授業評価は授業に生かされていますか」という項目のポイントは低く、今後授業評価をいかに活用していくかが大きな課題となっている。

ウ 自己評価表

本校では、「学校評価結果自己評価表」【資料4】を作成している。評価の領域を学校経営、学習指導、工業教育、特別活動、生徒指導、人権教育、進路指導、学校保健・学校安全、学校行政の9領域とし、さらに19の評価項目を設定した。学校教育の中核となる項目は共通項目として付した。「関連するマニフェスト」「数値目標」「アンケート結果」「評価理由」等をそれぞれの領域ごとに一覧にすることで、様々な観点から総合的に評価しやすいものとした。この資料は、学校評価委員会、学校関係者評価委員会で検討する資料となるが、最終的な評価が出たものは全教職員に配布し、共通理解を図っている。

エ 学校だより

アンケート結果及び結果の分析や今後の改善方策は、「八工だより特別号」として、保護者・地域住民に配布している。また、自由記入欄に記入いただいた提言や意見は、回答できる範囲でQ & Aの形式にして回答し、年度末にホームページでも公表している。

今後は、さらに読みやすいものになるよう、アンケート結果のグラフ化や改善方策の表現方法等を検討していきたい。

【資料4】 学校評価結果自己評価表

工業教育

評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	今後の改善方策
実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。 ジュニアマイスターの取得（ゴールド10人・シルバー15人以上）を目指す。	A	昨年度は目標の6.0を達成したので、本年もそれを上回るように指導を継続している。 現時（12月）では、後期試験の結果もまだ出ておらず、目標達成度は評価できないが、昨年以上の取組が見られる。	現在の取組が良い評価を得ているので、現状を維持しつつ、さらに改善できるものは改善し、更には、高度な資格についても挑戦していけるように指導することとする。

【関連するマニフェスト】・各種資格取得・検定試験合格のための指導を充実させます。

【数値目標】

項 目	20年度実績	21年度目標	21年度実績
各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)	6個	6個以上	未定

評価理由

生徒の85%の者が資格・検定取得の指導体制が充実しているとし、保護者の80%が子どもが意欲をもって取り組んでいると評価している。そのため、現在の取組は評価できるものとして、評価をAとした。

【アンケート】

①	評価の観点	工業教育に関する社会人の積極的な活用は出来ているか、その成果はあがっているか。		
	評価の対象	評 価 項 目	第2回	第1回
	教職員用	工業教育に関する社会人を活用した講演や講義は、生徒の学習活動に効果があがっているか？	3.3	3.4
	生徒用	工業科目等での社会人の講演や講義は、自分の将来のことを考えたり、専門的な知識を身に付けるための参考になりましたか？	3.1	3.1
	保護者用	本校は、工業教育に関する社会人の講演や講義を積極的に取り入れていることを知っていますか？	3.0	2.9
	地域住民用	本校が、工業教育に関する社会人の講演や講義を取り入れていることを知っていますか？	3.2	2.7
②	評価の観点	生徒の学習意欲や挑戦意識を向上させるための資格取得・検定合格への取組がなされているか。		
	評価の対象	評 価 項 目	第2回	第1回
	教職員用	各種資格取得・検定試験合格と授業・実習との関連づけや連携が出来ているか？	3.4	3.6
	生徒用	各種資格取得・検定試験合格のための指導体制は充実していますか？	3.1	3.1
	保護者用	お子様は、資格取得や検定合格のために意欲をもって取り組んでいますか？	3.1	3.1
③	評価の観点	インターンシップや職場見学などを通して、生徒の勤務観、職業観の醸成や就業に関わる基礎的な能力が養われているか。		
	評価の対象	評 価 項 目	第2回	第1回
	教職員用	キャリア教育の推進に向け、働くことの意義や、目的、職業生活などについて指導できているか？	3.4	3.3
	生徒用	職場見学やインターンシップを通じて、自分の職業適性や将来設計について考えましたか？	3.1	3.1
	保護者用	本校は、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育が充実していると思いますか？	3.1	3.2
	地域住民用	本校は、将来の職業や進路に関わる啓発的な体験の機会を設けていることを知っていますか？	3.5	3.2

（3）学校関係者評価委員に事前情報を提供するためのシステムづくり

ア 評価資料の提示

学校自己評価結果の適切さを判断していただくためには、学校の教育活動を把握していただく必要がある。そこで、今年度の第1回学校関係者評価委員会では、「本校の概要」として年間行事計画、資格取得・検定合格状況、各種コンテスト・大会の記録、進路状況、部活動の活動成績などを提示した。

また、本校で毎月発行している各種たより（八工だより、図書館だより、保健だより、人権だより）に加え、学校新聞、図書館報、PTA新聞、工業新聞などの刊行物を併せて送付するようにし、学校の取組を多角的に理解してもらうよう努めた。

イ 教育活動の公開

普段の学校の教育活動を参観していただくために、年3回の公開授業期間をはじめ、バラ展、体育祭、工業祭等の学校行事には案内状を送付し、参観を依頼した。しかし、全員の関係者評価委員の方々に、案内したすべての学校行事に出席していただくことは困難である。そこで、本校の授業を参観していただくため、第1回学校関係者評価委員会は公開授業期間中に実施し、情報提供の場としている。また、参観の際には公開授業アンケートを持って参観していただくようにしている。



今後も学校関係者評価委員会の開催を、学校行事と同日開催できるような工夫をしていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の運営方法

本校では、年3回の学校関係者評価委員会を開催している。

【資料5】 学校関係者評価委員会

- 1 第1回学校関係者評価委員会
 - (1) 日 時 平成21年6月4日(木)
 - (2) 協議事項
 - ア 学校関係者評価委員会の趣旨説明
学校評価ガイドラインの概要(文部科学省)
県立学校における学校評価実施要項(愛媛県教育委員会)
 - イ 八幡浜工業高等学校関係者評価委員会規定について
 - ウ 本校教育目標、重点努力目標について
 - エ 評価指標について
 - オ 年間計画について
- 2 第2回学校関係者評価委員会
 - (1) 日 時 平成21年8月19日(水)
 - (2) 協議事項
 - ア 第1回学校評価結果について
 - イ 学校評価に関する評価・提言について
- 3 第3回学校関係者評価委員会
 - (1) 日 時 平成22年1月22日(金)
 - (2) 協議事項
 - ア 第2回学校評価結果について
 - イ 学校評価に関する評価・提言について

9名の方に評価委員を委嘱しているが、年度当初に開催日時を知らせることで、毎回ほぼ全員の出席を得ている。学校関係者評価委員会の当日に評価結果等を提示するのではなく、資料は事前に送付し目標の達成状況の分析は適切かどうか、あるいは今後に向けての改善策は適切かどうかといった提言を送付した用紙に事前に記入してきていただき、会の終了時には提出していただくようにしている。事前に記入していただくことにより限られた時間での会の運営がスムーズに行われるよう工夫している。評価委員の負担を軽減するためにも、評価する項目を分担することも検討していきたい。

(5) 学校関係者評価を踏まえた改善策を立案・実践するシステムづくり

アンケート結果を分析することによって明らかになった課題やその課題に対する今後の改善方策を学校評価委員会で検討し（Check1）、さらに学校関係者評価委員会で学校運営全般についての意見や学校改善に向けた方策についての提言をいただき（Check2）、再度学校評価委員会で今後の改善方策の修正を行い実践する（Action）というPDCAサイクルに取り組み、学校運営改善を図ってきた。

関係者評価委員の提言を受けて改善した主なものを以下に示す。

ア 学校経営

学校経営の評価項目である「教育活動の公開と情報発信」では、正門横掲示板（八工ドットコム）への各種たよりの貼り出しや家庭への持ち帰らせにより教育活動の情報を発信することを具体的目標にしている。

「学校からの情報が『たより』や連絡文書、本校ホームページなどで届いていますか？」というアンケート結果は3.3（昨年度）であった。そこで、「学校からの配布物を確実に持ち帰らせます。」というマニフェスト達成のために、今年度から家庭への持ち帰



り封筒を用意し、毎月始めに各種たよりをまとめて封筒に入れ持ち帰り、保護者の印をもらって封筒を担任に返却するというシステムを作った。その結果、今年度は評価が3.5に向上した。今後も地道な努力を継続していきたい。

また、「保護者の意見反映」では、PTA総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り保護者の意見・要望を改善に生かすことを目標にしているが、PTA総会出席率は17%（昨年度）であった。そこで、今年度は日曜開催とし、同時に保護者向け進路ガイダンスを実施することにより、10ポイント増の27%と出席率を伸ばすことができた。しかし、数値目標の30%以上には届かなかったため、来年度は、他のPTA行事との同日開催等を検討していきたいと考えている。

「図書館環境の整備と充実」では年間一人当たりの図書貸出冊数3冊を目標にしているが、昨年度は1.5冊であった。3年前から始めた朝読書も定着し、図書館利用者数も1日当たり約30人と少なくはなく、生徒が本を読んでいるのではなく、図書館の本を借りていないという状況にあった。そこで、図書委員による全校生徒を対象にした図書購入希望調査を実施した。その結果を反映して、生徒から希望の多かった人気作家の新刊をすぐに購入した。また、通学時に読むことができるということから、JR通学生から希望が多かった文庫本の購入冊数を増やした。学習・部活動に役立つ図書も充実させた。



さらに、全校集会での図書委員会の発表や、「本校図書館の利用状況の分析」

と題した工業祭での活動、校内放送による「図書館だより」を通して、図書の紹介などの広報活動に努めた。その結果、現段階での図書貸出冊数は、昨年同期より約50%増となり、図書館利用者数ともに増加した。今後も図書館環境の整備に努め、貸出冊数の増加を図りたいと考えている。

イ 工業教育

工業教育の評価項目である「実践的技術者としての知識・技術」「ものづくりの推進」では、共に数値目標である各種資格取得・検定試験合格個数6個（3年間）、ものづくりに意欲的に取り組めた生徒83%（昨年度）を達成し、実績を上げてきた。しかしながら、「本校は、工業教育に関する社会人の講演や講義を積極的に取り入れていることを知っていますか？」というアンケート結果は、保護者2.9、地域住民2.7というやや低い数値であった。生徒たちが積極的に活動に取り組んでいるのに対して、保護者や地域住民への広報活動が十分でなかったことが明らかになった。そこで、本校のものづくりの活動を周知させるために、今年度から「工業新聞」の発行を始めた。これは、学期に1回程度を目安として発行している。内容としては、本校の工業教育（現場見学、インターンシップ、デュアルシステム、各種講演や実技指導）への取組、小・中学生対象のロボット工作教室や競技大会、公開講座（ものづくり教室）等のイベント、出前授業の様子を写真を中心として掲載している。また、ホームページの閲覧を進めるために、各行事に対応した素早い更新を心がけ、各種たよりには毎月必ずホームページアドレスを掲載するようにした。その結果、今年度は保護者3.0、地域住民3.2に向上した。

生徒たちはものづくりに対して、授業や課題研究での製作、また部活動では各種大会に出場し活躍するなど積極的に取り組んでいる。また、各種行事では生徒が主体的に活動し、各種発表会についても校内・地域・研究会等において実施している。その成果は新聞や地元ケーブルテレビ等において数多く報道されており、保護者や地域の方々への周知にとっても有益であり、地域の方からも期待されていることが伺える。

その結果として、その他のアンケートからも、生徒の85%が「資格・検定取得の指導体制が充実している」、88%が「ものづくりに積極的に活動している」とし、保護者の80%が「子どもが資格取得や検定合格のために意欲をもって取り組んでいる」、89%が「本校のキャリア教育が充実している」としている。また、評議員・地域の方の95%から「ものづくりに熱心に取り組んでいる」との評価を得ている。



生徒、保護者や地域の方々が望む工業高校としては、各種資格検定の取得、ものづくりを通した人間教育の実践、望ましい勤労観・職業観の育成等、一つに偏ることなくバランスよく取り組むことが大切である。そして、それが保護者や地域の方々の期待に応えることになると確信している。これらを一つ一つ着実に実践していくことにより、本校のキャリア教育やものづくり活動が地域に浸透し、根づいていくことになると考えている。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

学校関係者評価委員会を組織して2年目に入った。学校評価の組織体制を強化したことで、各組織が有機的に機能してきた。学校関係者評価委員に対しより詳細な情報提供を行うことにより、学校への関心も高まり、学校運営全般に対する理解が深まった。また、学校関係者評価委員会で教職員・保護者・地域住民が意見交換することにより、互いに信頼関係を深めることができ、三位一体となった教育活動が推進された。さらに、学校関係者評価委員の提言を各担当の教職員が検討することで、指導の充実に向けての教職員の意識改革にもつながった。

これまでは、評価結果の集計や分析に主眼が置かれがちであったが、学校関係者評価委員の客観的な視点から得られる提言によって改善点が明確になり、その具体的な解決方法を探る手がかりにもなった。前述の(5)ア、イのように、提言を受け実際に改善できた事例も多くあり、学校関係者評価が、「地域に支えられた実践的技術者の養成」に貢献していると考えられることができる。このように、学校関係者評価委員の提言を踏まえた改善策を実践するPDCAサイクルが定着してきた。

(2) 課題

本校では、各評価項目の担当主幹を決めて責任の明確化を図ってきたが、担当主幹だけに負担のかかることのないよう、教職員一人一人が各教科・分掌で目標を持ち、全教職員で取り組む体制を、今後さらに進めていかなければならない。

また、昨年度との比較検討のため、アンケート項目の見直しは最小限にとどめていたが、学校関係者評価委員会での提言により、特に地域住民へのアンケート項目の精選を図っていきたい。「八工だより」等を地域の回覧板で回覧してもらうなど地域住民への情報提供も併せて行っていききたいと考えている。

学校評価に関する各種資料についても、ただ配布・送付するのではなく、いかに読みやすい紙面にしていくかが今後の課題である。そのためには、結果のグラフ化や表現方法等を工夫していききたい。

また、学校評価アンケートを年2回実施しているが、2回目のアンケートまでの改善策の実践期間が短く、十分な検証をすることができにくい。今後は、短期・中期・重点的に取り組むものをそれぞれ検証し、PDCAサイクルのさらなる効率化を図り、組織的・継続的な学校評価を進めていききたい。

学校関係者評価の実施に係わる研究

愛媛県立宇和島東高等学校

1 学校の概要

所 在 地	〒798- 0066 宇和島市文京町 1 番 1 号				
設置する課程	全日制・定時制		教員数	6 4 名・ 8 名	
生徒数 (H21.5.1 現在)					
学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	計
全日制普通科 (1 年は理数・普通科)	1 8 5	1 6 0	1 5 5		5 0 0
理数科		3 7	3 7		7 4
商業科	8 0	7 9	7 8		2 3 7
情報ビジネス科	4 0	3 9	4 0		1 1 9
定時制普通科	1 7	2 2			3 9

2 取組の概要

本校の学校評価の取組は、平成15年度に文部科学省から学校評価システムの確立に関する調査研究委嘱を受けた「学校教育改善に関する調査研究」の研究協力校に指定されたことから始まる。運営委員を構成員とする学校評価委員会を組織し、学校評価システムづくり、学校評価アンケートの質問項目等について研究を行った。

学校関係者評価の本格的な取組は昨年度からである。1年間の取組を基に、今回実践校として次の三つの課題を設定した。

- (1) 昨年度の学校関係者評価委員会の提言を踏まえた今年度の学校評価に対する改善の取組と検証
- (2) 学校関係者評価委員会の構成、連携、活用の在り方
- (3) 学校の情報提供の充実

3 研究の中心となる組織と実施方法

- (1) 学校評価委員会（各課長・主任からなる運営委員会で構成）
 - ア 自己評価の実施
 - (ア) 内部アンケート・外部アンケートの実施
 - (イ) アンケートの分析と改善の取りまとめ
 - イ 取組の概要(1)、(2)、(3)の研究
- (2) 学校関係者評価委員会（委員8名）
 - ア 年間5回の委員会開催
 - イ 教育活動の参観、施設設備の視察、校長・教職員との対話
 - ウ 学校関係者評価の実施

4 取組の内容

- (1) 昨年度の学校関係者評価委員会の提言を踏まえた今年度の学校評価に対する改善の取組と検証について

本校の2009年度マニフェストは次の通りである。

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生き抜く心身共に健康な生徒の育成に努めます。
重点目標	伝統・創造そして飛翔 確かな学力、豊かな心、健やかな体づくりを通して

- 1 確かな学力をつけます
 - (1) 分かる授業の確立（生徒の授業満足度100%）
 - (2) 学習習慣の確立（一日3時間以上の家庭学習）
 - (3) 希望進路の実現（就職内定100%、進学合格100%）
 - (4) 各種検定試験への挑戦（日本漢字能力検定2級合格
実用英語技能検定2級合格
全商検定3種目以上1級合格）
 - (5) 自己研さん力の伸張（研究授業年間3回以上参加）
- 2 豊かな心をはぐくみます
 - (1) 人権意識の高揚（いじめ・差別なし）
 - (2) あいさつの励行（宇東ふれあいタイムの実践）
 - (3) 読書の勧め（一人年間20冊以上）
 - (4) ボランティア活動への参加（一人年間1回以上）
 - (5) カウンセリングマインドのかん養（声掛け1日5人以上）
- 3 健やかな体をつくりまします
 - (1) 部活動の振興（県レベル以上への出場）
 - (2) 皆勤者の増加（1か年皆勤50%以上）
 - (3) 安全かつ規律ある行動の体得（不安全行動による事故ゼロ）
 - (4) 食生活充実の勧め（朝食の摂取100%）

このマニフェストを本校における自己評価の項目としており、5段階で評価している。

ア 学校関係者評価委員会の提言を参考に、2009年宇東マニフェスト等を改善した事項

- (ア) マニフェストの領域「確かな学力」を育成するための評価項目に「自己研さん力の伸張」を、具体的目標に「研究授業年間3回以上参加」を加えた。
- (イ) マニフェストの領域「豊かな心」をかん養するための評価項目に「カウンセリングマインドのかん養」を、具体的目標に「声掛け1日5人以上」を加えた。
- (ウ) マニフェストに加えることはしなかったが、職員会議等で積極的な取組を促した事項
 - a 図書館活動の活性化
 - b 自己表現力を高める一つとして、就職試験、大学受験の面接指導の充実

イ 取組に対する評価

- ・上記(ア)・(イ)の取組に対する学校関係者評価委員会の評価

「『自己研さん力の伸張』『カウンセリングマインドのかん養』の自己評価がともに評価Bになっているが、Aの評価で良いのではないかと思います。」(第4回学校関係者評価委員会)

この意見は臨床心理士の委員からの意見であった。スクールライフアドバイザーとして週2回本校に来ていただいている。本校職員の教育活動に直接触れられて、Aの評価であると判断されたようである。

- ・(ウ)のaに対する評価

「自己評価で『読書の勧め』のみ評価Cである。学校評価アンケートにおいても図書館の評価が生徒、教員、ともに最も低い。双方向的でイベント的な工夫があっても良いのではないか。感受性の強い時に、読書によって人の生き様を知るとは、その後の生き方に大きな影響がある。勉強も大切だが、もう少し読書に力を入れて欲しい。」(第4回学校関係者評価委員会)

「図書館を見せてもらった。図書室と自習室がオープン構造になっているので、集中できるのか気になり、生徒に聞いてみた。部活動まで自習する

という1年生は、机の上に仕切があって勉強しやすいといていた。室内は大変静かで、勉強の邪魔にならないようであった。3年生の生徒、よく来るといていた。図書館が活用されていると思われた。」(第3回学校関係者評価委員会)

第3回学校関係者評価委員会の意見のように図書館の利用状況を視察しての温かい意見もあった。しかし、学校評価アンケートでは生徒、教職員ともに厳しい評価となっている。図書課では、「新着図書案内」(随時)や「おすすめぶんがくかん」(月に3回)の発行や家庭クラブと連携した手芸展の開催等工夫をしてきたが、評価には数値として表れていない。ホームルーム活動の時間等を活用しながら魅力ある図書館運営をしていくことが課題である。

・(ウ)のbに対する評価

自己評価に対する学校関係者評価をしていただいた段階では、就職内定率は学校幹旋 94.4 %、縁故・公務員を含めると 87%であった。学校関係者評価委員会では、今年度の厳しい就職状況のなかでよく実績を上げているとの評価であったが、平成21年末に内定 100%を達成することができた。

(2) 学校関係者評価委員会の構成、連携、活用の在り方について

ア 学校関係者評価委員会の構成について

昨年度の学校関係者評価委員会は5名で構成し、年間3回委員会を開催した。出席率は平均約60%であった。委員会出席者の人数が確保できなければ、活発な意見交換は困難であり、意見に偏りが生じることも考えられる。適正な委員数は学校の状況によって異なるであろうが、意見交換のためには常時5名の出席人数を確保したい。そのためには、昨年度の出席状況を勘案して、今年度は委員数を8名に増員した。

学校関係者評価委員8名と学校評議委員5名を確保するためには13名の委員が必要である。委員を必要としているのは本校だけではない。今後委員確保の困難さが予想されることから、両委員の兼務が合理的であると判断した。そのことによって事務処理も軽減することができる。

今年度の学校関係者評価委員会の出席者(学校関係者評価委員)は、第1回6名、第2回5名、第3回7名、第4回7名である。平均出席率は78%であり、昨年度と比較して当初の目的は達成されている。

委員会の開催回数は昨年度の3回から5回に増やしたが、出席者が減少することはなかった。意見交換が活発で、委員数、回数に対する委員の意見は肯定的であった。ただ、3回の公開授業の参観については、参観の時間と委員会の時間で最低2時間は必要であり、負担が大きいと思われる。

第1回から第4回までの委員会の内容は次の通りである。

- 第1回 ① 教育方針の説明(学校長)
② 教務課、進学課、特活課の説明
③ 「自己評価」「学校関係者評価」の説明 ④ 意見交換
- 第2回 ① 教育活動の現況説明(学校長)
② 授業参観の感想・意見
③ 昨年度の学校関係者評価を参考にした取組の説明 ④ 意見交換
- 第3回 ① 教育活動の現況説明(学校長)



- ② 授業参観の感想・意見

- ③ 文化祭・体育祭等学校行事についての感想・意見 ④ 意見交換
 第4回 ① 教育活動の現況説明(学校長) ② 授業参観の感想・意見
 ③ 学校評価アンケートについての感想・意見(事前にアンケート集計結果資料を送付) ④ 学校関係者評価のまとめ(追加の意見は調査用紙に記入して後で送付も可)

- 第5回 ① 教育活動の現況説明(学校長) ② 学校関係者評価に対しての改善策の提示 ③ 意見交換

イ 連携、活用の在り方について

- (7) 学校関係者評価委員の人数を増やしたことにより、委員会の出席者が5名以上確保でき、委員会での意見、感想が出やすくなった。委員会が活発になることによって、委員の本校にたいする姿勢がより能動的になり、本校の教育活動への理解が深まったものとする。また、学校関係者評価委員と参加教職員との信頼感の醸成に繋がっている。

- (イ) 平成21年11月27日、新聞部の部員が学校関係者評価委員代表者にインタビューを実施した。12月18日発行「宇東高新聞」に「宇東を見つめる『学校関係者評価』」として記事が掲載され、学校関係者評価に対する生徒、保護者の関心が高められた。



- (ウ) 第4回学校関係者評価委員会で次の意見が出た。

「教職員対象学校評価アンケート項目4の『日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができていくか。』について、モンスターペアレントが話題になった際、警察に対してものすごい剣幕でこられる人がいる。警察に対してそうなのだから、学校に対してもすごいのだろうと思う。先生方も皆で相談できる雰囲気をつくり、応対するようにしてもらいたい。」

本校ではまだそのような事例は発生していないが、事態が発生した場合には複数の教員で対応するようにしている。学校で諸問題が発生した時、学校関係者評価委員が第三者的立場から関与し、問題解決に寄与していくことも考えられる。

(3) 学校の情報提供の充実について

ア P T A活動と連携した情報提供

- (7) P T A各種委員会活動を活用した情報提供と協力関係の構築

本校のP T Aには理事で構成される三つの委員会がある。生徒補導委員会、保健厚生委員会、環境改善委員会である。

環境改善委員会(委員11名)では、6月頃に校内教育環境視察を実施している。ここ数年の間に委員会の提言により環境整備を実施した事例は、「生徒の歯磨きのための手洗い場設置」、「空調設備の導入」、「自転車置き場の設置」、「体育館靴箱の修理」、「中庭ビオトープの改善」、「ふるさとの森の剪定」等である。保護者の目で本校の教育環境を見てもらうことによって、よりよい教育環境の整備に貢献してもらっている。

委員会の活動状況については、東高ホームページの「P T Aページ」に委員長の記事が掲載され、P T A会員にも情報が提供されている。

(イ) P T A研修会を活用した情報提供

P T A主催の研修会は昨年度に引き続き今年度も進学課と連携して、1学期保護者懇談会の日に約90分間実施した。

平成20年度テーマ「本校の進学状況」「大学入試制度・進学にかかる費用」

平成21年度テーマ「親子で考える大学・学部選び」「親世代とどう違う入試の仕組み」

(ウ) P T A新聞の活用(年2回発行)

7月発行のP T A新聞に、学校関係者評価についての記事を掲載し理解を促すとともに、保護者対象学校評価アンケートへの協力をお願いした。平成21年11月下旬に実施した保護者対象学校評価アンケートでは92.9%の高回収率であった。

イ 保護者の積極的な情報受け取り態勢づくり

学校が情報を発信しても保護者に積極的に受け取る姿勢がなければ、情報は届かない。学校への関心を高めるためには、まず何よりも保護者懇談会の出席率向上を図らなければならない。担任と保護者の関係は、保護者の学校への信頼関係形成の基底になる。信頼関係がないところで関心は高まらないし、学校からの情報を積極的に受け取ろうとする気持ちも生まれない。本校では懇談会を年間2回実施している。

1学期の懇談会は97%の出席率であった。2学期は87%の出席率に低下した。出席率が落ち込んだ主な原因は男子全国高校駅伝との日程重複である。陸上部顧問、特活課員が担任であった場合に懇談会の日程調整が困難であった。今年度は、進路が決定した3年生の保護者の懇談率が低下していることにも特徴があった。世相の影響も少なからず考えられる。懇談期間中の懇談率は低下したが、懇談期間が過ぎていても懇談はいつでも可能である。100%の懇談を目標に保護者とのコミュニケーションを密にしていく必要がある。

ウ 学校行事の案内等保護者あて文書の工夫

学校の情報発信が確実に保護者に届くことが肝要である。生徒を通して保護者あてに出す文書については、今年度から色付き用紙に印刷して注意を喚起することにした。保護者、教員、生徒ともに気が付きやすく、渡し忘れ防止に大変役に立っている。

エ 学校関係者評価委員への情報提供

(7) 毎回(年間5回)学校関係者評価委員会で「本校の教育活動の現況」を説明(学校長)

(イ) 年間3回の公開授業参観と意見交換

公開授業の参観は予想以上に熱心に取り組んでいただいた。参観後の委員会で伺った感想・意見は、学校長が職員朝礼で教職員に伝え、授業力向上の指導に資した。

(ウ) 学校行事の案内と参観

① 案内した主な行事 ポートレース大会、文化祭、体育祭、卒業式

② 第3回学校関係者評価委員会の議題で学校行事を取り上げた。

学校関係者評価委員の主な意見

・ 文化祭について、生物部・化学部など理数系の部がよい展示をしていた。楽しいイベントやクラス展示もよいが、文化部の、力を入れた展示を見たい。文化祭開催時期については工夫があればよい。

・ 体育祭の日曜日開催はよかったと思う。多くの見学者があったが、見

学席が足りなかった。席取りで空いている席もあった。物が置いてあれば声をかけることが難しい。何らかの対策をお願いしたい。

- ・ 私の同期生も東高校に子どもはいないのに見学に来ていた。生徒の活動を多くの方に見ていただくことも大事だ。今年から体育祭を日曜日に開催したことは大変よかった。

(エ) 各種発行物の送付

「PTAだより」(毎月)、「PTA会報」(年2回)、「宇東高新聞」(年2回)「ほけんだより」(毎月)、「図書館報」(年2回)、「図書館通信」(毎月)等の送付

オ ホームページによる情報提供

(ア) 「学校評価アンケート結果」、「自己評価」、「学校関係者評価」の公表

(イ) PTAページの開設

PTA役員で運営している。各種委員会がそれぞれの委員会の活動状況を掲載し、保護者の関心を高める契機となっている。

5 事業による成果の概要

- (1) 研修等を通して教職員の学校関係者評価に対する理解が深まった。学校関係者評価委員による3回の公開授業の参観は、教員の授業力向上に寄与した。
- (2) 学校関係者評価委員会の提言により、マニフェストを改善することができた。明確な課題設定と教職員の真摯な取組が、第4回学校関係者評価委員会での高い評価に繋がった。また、厳しい就職状況のなかで内定100%を達成することができたことも、提言を踏まえた指導が結実したものとする。
- (3) 学校関係者評価委員会の構成、連携、活用について今回の実践で次の結論を得た。
 - ア 構成人数は8名程度が妥当と思われる。地域の幅広い分野から委員を選び、学校関係者評価がより透明性の高い広がりを持つことができた。常時5人以上の出席者を確保することができ、活発な意見交換が可能になり、信頼感の醸成に繋がった。
 - イ 学校評議員全員に学校関係者評価委員の兼務をお願いした。学校評議員と学校関係者委員の委員確保や事務処理の軽減から考えて合理的であった。
 - ウ 委員会の開催回数は3回から4回程度が妥当である。3回の公開授業参観と5回の委員会は委員への負担が大きい。
 - エ 学校関係者評価委員会との連携・活用は、新聞部による取材が効果的であった。生徒と学校関係者評価委員との相互理解が深まるとともに、学校新聞を通して生徒や保護者の学校関係者評価に対する理解を促すことができた。
- (4) 学校の情報提供の充実については、フェイス・トゥ・フェイスの信頼関係を築きつつ情報発信の工夫が必要である。今回の事業でPTA活動を活用した情報提供は大きな可能性を持っていることが認識できた。PTAとの信頼関係に基づき、活用の仕方について役員とともに工夫していくことが必要である。

多くの保護者がホームページ(「PTAページ」等)に関心を持つことは、延いては地域住民へと関心が広がっていく端緒になる。ホームページの充実はまだ十分とはいえない。ホームページを通じた情報提供は今後の課題である。
- (5) 保護者・地域住民から信頼を得る何より大切なものは日常の目に見える生徒・教職員の態度であり、活動である。信頼できる東高生を育成することが保護者や地域住民から学校運営の協力を得る根幹である。学校評価を活用し、生徒の思い、保護者や地域の要望に応えることのできる開かれた特色ある「文武両道」を理念とした学校づくりに邁進したい。

学校関係者評価の実施に係る研究
～地域社会と一体となった特色ある学校づくりを目指して～
愛媛県立津島高等学校

1 学校の概要

所在地	〒798- 3302 宇和島市津島町高田甲 2469- 1			
設置する課程	全日制	教員数	2 8 名	
生徒数（H21.5.1 現在）				
学科名	1 年	2 年	3 年	計
普通科	9 0	1 1 2	8 6	2 8 8

2 事業の実績の説明

（1）取組の概要

- ア 平成20年度の学校関係者評価委員並びに学校評議員による評価や提言をもとに、外部評価の在り方を再構築するとともに、学校関係者評価システムを確立させる。
- イ 地域の行事に積極的に参加し、地域住民と触れ合う場面を増やすことにより、学校の存在をアピールする。
- ウ 地域社会と一体となった学校づくりを目指しながら、学校評価を適切に行い、改善すべきところを改善し、情報を的確に発信する。そのことにより、二次的評価を受け、その結果を今後の学校運営に反映させていく。

（2）取組の内容及び取組方法

- ア 学校関係者評価委員会や学校評議委員会に対しては、事前に教育活動の公開や情報提供を積極的に行う。予備知識を持って委員会に参加していただくことが、会のスムーズな進行や、より深く掘り下げた意見・要望につながるよう配慮する。
- イ 昨年度の学校評価（学校関係者評価委員会、学校評議員会、生徒による授業評価、生徒・教職員・保護者による学校評価、公開授業等に来校された方による学校評価、PTA理事会や総会において出された意見要望、各種学校行事に来校していただいた方からの言葉）等を踏まえて、学校マニフェストと自己評価表を作成する。
- ウ 生徒による授業評価、生徒・保護者・教職員による学校評価に関するアンケート調査の項目については、過去の結果と比較検討できるよう、内容の変更は行わないこととした。
- エ 他校の公開授業、愛媛県学校評価事業運営委員会、学校評価先進校への学校訪問等を実施する。それらを全教職員に周知徹底し、より広い視野を持って自校の学校評価に取り組むことができるよう、校内学校評価委員会を実施する。
- オ 学校評価の公表については、刊行物の活用やホームページへの掲載を行うとともに、学校評価に関する成果物の作成をし、地域に発信する。

3 実施日程

実施 時期	実 践 事 項	備 考
4 月	・ 第1回校内学校評価委員会（昨年度の反省と今年度への課題の公表） ・ 学校関係者評価委員と学校評議員の選出	
5 月	・ 学校関係者評価委員と学校評議員の委嘱 ・ 平成21年度学校マニフェスト及び自己評価表の作成 ・ 平成21年度マニフェスト、自己評価表、学校関係者評価についてホームページ上にアップロード	
6 月	・ 第1回学校関係者評価委員会・学校評議員会の合同開催	
7 月	・ 第1回愛媛県学校評価事業運営委員会に参加 ・ 第1回生徒による授業評価の実施と分析 ・ 平成21年度学校評価推進協議会（京都会場）に参加	
8 月	・ 県外先進校視察（山口県立山口高等学校）の実施 ・ 第2回校内学校評価委員会の実施（各種委員会、研修会、先進校視察の報告） ・ 第1回校内学校評価研修会の実施（各種委員会、研修会、先進校視察の報告）	
9 月	・ 体育祭への同窓生の招待 ・ 公開授業の実施（3日間）（うち1日は、金融教育公開授業in 愛媛とのコラボレーション）	
10月	・ 文化祭実行委員会PTA役員会の実施 ・ 文化祭実行委員会PTA理事会の実施 ・ 第2回愛媛県学校評価事業運営委員会に参加	
11月	・ 第3回校内学校評価委員会 ・ 第2回生徒による授業評価の実施と分析 ・ 生徒、保護者、教職員による学校評価アンケートの実施と分析 ・ 第1回自己評価表による学校評価の実施と分析	
12月	・ 第2回生徒による授業評価の分析結果、教職員、生徒、保護者による学校評価アンケートの分析結果、自己評価表による学校評価の分析結果の報告と、学校関係者評価委員、学校評議員への公表	
1 月	・ 第2回学校関係者評価委員会と学校評議員会の合同開催（研究成果報告書の原案の提示と協議） ・ 実施報告書の作成と提出 ・ 報告会発表原稿の作成と提出 ・ 愛媛県学校評価事業研究成果発表会に参加 ・ 研究成果報告書の発注	
2 月	・ 第4回校内学校評価委員会の実施 ・ 第2回校内学校評価研修会の実施 ・ 研究成果報告書の完成と提出	
3 月	・ 第2回自己評価表による学校評価の実施と分析 ・ 学校関係者評価報告書の作成 ・ 平成21年度の実践と平成22年度への提言の作成 ・ 平成21年度学校評価成果物の配付（地域小中学校、保護者、生徒）	

4 事業による成果の概要

学校関係者評価委員や学校評議員だけでなく、広くPTA・同窓生・地域住民・近隣の学校への積極的な教育活動の公開や、情報提供、地元地域での行事等への積極的な参加により、より具体的な評価を頂く事を目的として活動してきた。ここでは、本校教職員・生徒が、学校関係者評価委員や学校評議員・PTA・同窓生・地域住民等と関わってきた中で、特に地域社会との連携に効果があったと思われる行事の紹介と、本校の学校評価について述べてみたい。

(1) 第1回学校関係者評価委員会・学校評議員会の合同開催

6月29日(月)に本校校長室において、学校評議委員4名、学校関係者評価委員3名本校教員7名(校長・教頭・事務長・総務課長・生徒指導課長・教務課長・進路課長、計14名の参加で開催した。会議は、開会行事の後、本校教員による本校の現状と課題について報告した後、事前に配付していた平成20年度の自己評価表・学校関係者評価報告書、平成21年度のマニフェスト・自己評価表及び平成20年度各部活動の成績一覧表等についての感想や本校の現状についての御意見・御指導を頂いた。その中の一部を掲載する。

《金融教育について》

・金融教育は社会人として最も大切なことの一つ。この取組はありがたい。

《学力向上について》

・昔は公務員模試対策で2年次より1グループを編成し、その中を大学進学希望者と公務員希望者に分けていた。目標を持って頑張ることが大切。

《社会人としての資質について》

・今年度新規採用の生徒については、コミュニケーション能力、基本的な生活習慣などで苦戦しているが、何か光るものが見え始めるまで、遅い者で約1年はかかる。現在本人の適性・能力を見極めている段階である。(本校生徒を採用していただいた会社の社長さんより)

・今年度、郵便局に採用された者(弓道全国大会出場者)はとても表情がよい。今後が楽しみである。何か得意なことがあると就職してからも有利である。(地域の郵便局長さんより)

《学校評価、今後の津島高校の在り方について》

・自己評価表を見ても特色が見えてこない。ABCDEの5段階評価で、評価BCの項目ばかりである。オールBで平均的なところに落ち着くのか。DEもあるがAもあるという、ある程度突出したものを求めるのか。(社会はこういう人材を求めている)津島高校は何を求めていくのか。学校の特色をどこで出すかが、課題である。

・活力ある学校づくりのためには、いいところを引き出す指導が必要である。

・自己評価の前提として、他人のいいところを評価する姿勢が大切で、この視点があってこそ自己評価につながるのではないか。

《その他》

・津島高校がいかに生き残っていくか。多様な生徒の存在に対して、学校の体制を広げていく必要がある。進学を目指す生徒、学力の低い生徒が混在するため、学年3クラスを習熟度別で3クラスに編成することも必要かもしれない。部活動もどこを残して、どこを広げていくかを考える必要がある。家庭学習の定着化も必要である。

・声が出るということは自分に自信がついたとき。どうやって自信をつけさせてやるか。その努力の成果を見つめることが大切である。

例年個別に実施している二つの会議を合同で行うことにより、双方の委員の共通理解を深めるとともに、それぞれの立場から、本校の教育活動について様々

な御意見を頂いた。早速、これらの中ですぐにでも始められることについては、全教職員に報告し実行に移せるようお願いした。また、中長期的な展望のもと、実行していかなければならないことについては、今後の課題として慎重に対応していくこととした。

(2) 第1回生徒による授業評価の実施

昨年度と同様の質問紙法により実施した。授業に対する八つの質問事項に対しては、各教科別の評価数値の平均は、わずか 0.1 ポイントではあるが、昨年度より向上した。しかしながら、生徒自身の授業に対する意識は、昨年度と同じ数値を示した。生徒たちの意識の変革を見ることができるようになる授業の実施に努めなくてはならない。

(3) 体育祭への同窓生の招待

昨年創立 60 周年を迎えた本校では、平成 19 年度より、その年に還暦を迎えられる同窓生を体育祭に招待し、特別種目を設定し競技にも参加していただいている。今年で 3 年目になるが、例年 10 名を超える同窓生の参加があり、現在の津島高校生の姿を見ていただいている。本部席テント内に設けた同窓生専用席では、ほとんどの方が最初から最後まで体育祭を観戦され、昔話に花を咲かせておられた。中には、現在の本校生の姿を見て、厳しい御指導を頂いたりすることもあり、我々にとっては何よりの「学校評価」であったように思う。この企画は大変好評で、早速来年度還暦を迎える方からの問い合わせもきているところである。



平成 21 年度体育祭 同窓生・PTA 役員との競技



平成 21 年度文化祭 PTA 役員の協力

(4) 文化祭の開催について

昨年度は、創立 60 周年記念の文化祭であった。本年度は、かなり縮小して実施する予定であったが、結果的に昨年度に勝るとも劣らない素晴らしい文化祭となった。この大成功は、本校の教職員・生徒の頑張りだけではとうてい考えられない。文化祭実行委員会 PTA 役員会（10 月上旬、出席率 90% 以上）、文化祭実行委員会 PTA 理事会（10 月中旬、出席率 80% 以上）、の活発な活動に加え、地域の方々の御協力によるところが大きい。本校を支えてくれているこういった方々の期待も我々の活動の原動力になっている。

(5) 刊行物の配付について

本校が発行している PTA 会報・保護者向け学校通信「こもれび」・学校新聞・図書館だより・人権だより等を、来校してくださった方々にお配りし、本校の生の情報をお届けしている。

(6) 生徒の足跡について

《部活動関係》

男子ソフトテニス 愛媛県高等学校総合体育大会ダブルス 5 位 インターハイ 出場
相撲部 愛媛県高等学校総合体育大会 団体優勝 インターハイ 出場
愛媛県高等学校総合体育大会 個人優勝 インターハイ 出場

	四国高等学校総合体育大会	団体2位	(創部以来初)
	全日本ジュニア体重別選手権大会県予選	個人6名	四国予選出場
	全日本ジュニア体重別選手権大会四国予選	個人1名	全国大会出場
女子 弓道部	愛媛県高等学校総合体育大会	個人3位	四国大会出場



平成 21 年度 県総体 全国大会出場決定戦



平成 21 年度 県総体 団体優勝表彰式



平成 21 年度 弓道女子 個人戦決勝



平成 2 1 年度 全国大会 応援懸垂幕

《進路関係》 国立大学合格 2 年連続

学校斡旋就職合格率 (12 月末日現在) 95.8 %

《生徒指導関係》 問題行動発生数 (12 月末現在昨年度比) 40.0 % 減少

上記のように、生徒たちは今年度も素晴らしい実績を残してくれた。先生方の熱心な指導と、保護者の協力、地域の応援、そしてそれに応える生徒たちのひたむきさが、このような結果につながったものと思う。

(7) 第 2 回生徒による授業評価の実施

第 1 回目のアンケート調査より、さらに平均で 0.1 ポイントのアップが見られた (昨年度比では 0.2 P アップ)。ただし、生徒自身の授業に対する意識については、ほとんど同じ数値であった。教職員の、授業を実践するに当たっての創意工夫や、地道な努力は、生徒たちから認められてきている。ただし、それに伴う生徒自身の授業に対する意識の変容は、まだ見られてはいない。しかし、このような教職員の地道な努力は、必ず生徒たちの意識の変容につながるものと信じて、今後の教育活動に臨みたい。

(8) 生徒による学校評価の実施

「良くてきている」という割合が前年比 10 ポイント以上向上した項目は、32 項目中、9 項目あった。

(9) 保護者による学校評価の実施

「良くてきている」という割合が前年比 10 ポイント以上向上した項目は、32 項目中 10 項目あった。

(10) 教職員による学校評価の実施

「良くてきている」という割合が前年比 10 ポイント以上向上した項目は、32 項目中 13 項目あった。

(11) 第 2 回学校関係者評価委員会の開催

1 月 8 日（金）に本校校長室において、学校関係者評価委員 3 名、本校教員 7 名（校長・教頭・事務長・総務課長・生徒指導課長・教務課長・進路課長）、計 10 名の参加で開催した。当初学校評議員との合同開催を計画していたが、第 2 回目については、学校関係者評価委員のみの会合とした。会議は、開会行事の後、本校教員による本校の現状と課題について報告した後、事前に配付していた平成 21 年度の自己評価表・マニフェスト・学校評価アンケートの結果等についての感想や、本校の現状についての御意見・御指導を頂いた。自己評価・アンケート調査の結果をもとに、様々な角度から本校を分析し、概ね良好であるとの評価を得たが、1 年次からの意識付け、しつけ指導の一層の必要性を求められた。これらは全て、来年度への提言として改善計画を立てていく際の貴重な指標としたい。引き続き、第 3 回の校内学校評価委員会、第 2 回の学校評議員会を開催していく予定である。

(12) まとめと今後の課題

「地域との連携を目指す学校の在り方」については、この 2 年間でかなりの成果が上がってきたと言えるのではないだろうか。また、「生徒の進路保障」という高等学校教育の一番重要と思われる部分においても、生徒の満足度、教職員の自覚、双方共に良い評価を得ることができた。これら全ての項目において、「あまりできていない」「できていない」の割合が減少し、「よくできている」と回答した割合がアップしている。これは、教職員の創意工夫・努力に対して、生徒・保護者が良い評価をしてくれたことに他ならない。今後は、生徒・保護者の期待はもっと高まってくると思われるので、生徒の意識の高揚を求め、粘り強く創意工夫をこらし、生徒と向き合っていかなければならない。即効性のあることではないので、生徒・保護者の期待を裏切ることがないよう時間をかけて地道に努力していきたい。

今回紹介した事例以外にも、至る所で生徒たちが活躍する機会があり、それぞれの場面で成長した生徒の姿を頻繁に見ることができるようになってきた。外部からの評価や自己評価を生徒のために生かしていくと共に、常に自分自身も成長していく教員であり続けたい。そのためにも、今回の研究によって得た貴重な経験やその実績・評価等を、HP に掲載するとともに、研究成果物としてパンフレットを作成し、地域の小中学校や関係機関、保護者・生徒に向けて積極的に発信し、地元にとってなくてはならない学校づくりに励んでいきたい。

なお、研究成果物については、従来本校が作成している学校概要をもとに、より詳しい津島高等学校の魅力を紹介できるものにしたいと考えている。

学習・生活習慣向上プロジェクト *AG* プラン

愛媛県立今治東中等教育学校

1 学校の概要

所在地	〒799- 1596 今治市桜井 2 丁目 9 番 1 号						
設置する課程	全 日 制				教員数	8 5 名	
生徒数（H21.5.1 現在）							
学科名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
普通科	1 3 8	1 2 7	1 5 4	1 6 0	1 4 0	1 4 5	8 6 4

2 実践研究の概要

(1) 研究テーマ

「中等教育学校における学校関係者評価の実施に係る研究」

(2) 研究テーマ設定のねらい

- ア 学校関係者評価の有効な在り方を研究し、その成果を学校評価の適切な実施や学校運営の一層の改善に役立てる。
- イ 情報公開の在り方を研究し、本校の教育活動について適切な理解を得るとともに、学校と家庭・地域との連携の強化を目指す。

(3) 研究計画

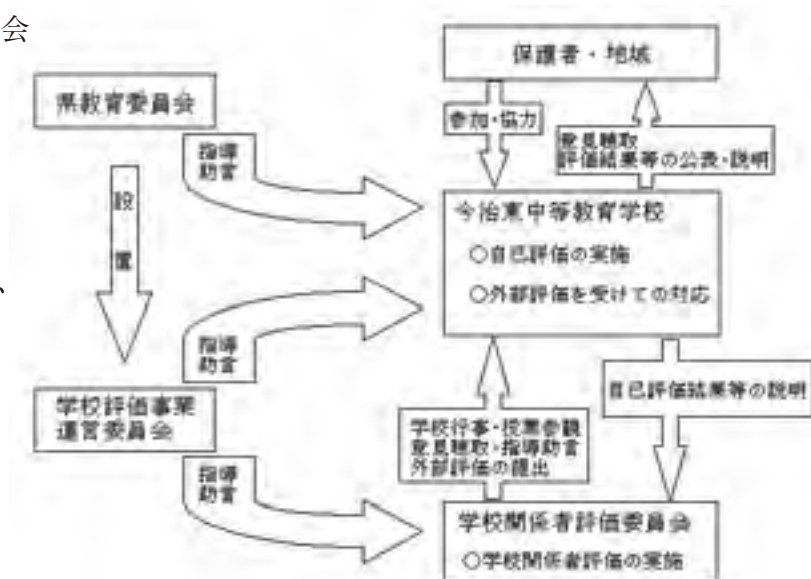
ア 運営組織

(7) 学校関係者評価委員会

学校評議員5名、地域住民(郵便局長・前PTA会長)、PTA会長、PTA副会長1名、校長、教頭、事務長、情報管理課長の13名で構成する。

(4) 校内学校評価委員会

校長、教頭、
事務長、総務・
教務・図書研修・
特活・進路・
生徒・情報管理
各課長、学年主任、
情報管理課員
で構成する。



② 研究計画

月	研究計画	学校関係者計画委員会	校内評価委員会	教職員
4月	PLAN 研究計画の立案 DO		第1回委員会 目標の設定 課題等の確認 アンケート調査実施	第1回校内研修会 目標・課題の確認
5月	実施・評価・改善	第1回関係者（他委員会） 学校行事・授業の参観		
6月	実施・評価・改善 CHECK	学校行事・授業の参観	第2回委員会 アンケート調査実施	
7月	実施・評価・改善 ACTION	第2回アンケート調査	第3回委員会 アンケート調査結果 の分析・統計	アンケート調査実施 自己評価と分析
8月	実施・評価・改善 PLAN	第2回関係者（他委員会） 改善策の決定		第2回校内研修会 中間結果の確認 研究経過の報告 今後の取組の確認
9月	実施・評価・改善 DO	学校行事・授業の参観		
10月	実施・評価・改善 CHECK	学校行事・授業の参観		
11月	実施・評価・改善 ACTION	学校行事・授業の参観		
12月	実施・評価・改善 CHECK	第2回アンケート調査	第4回委員会 アンケート調査結果 の分析・統計	アンケート調査実施 自己評価と分析
1月	実施・評価・改善 PLAN	第3回関係者計画委員会 研究発表会 学校行事・授業の参観		第3回校内研修会 アンケート調査結果の 報告
2月	実施・評価・改善 DO	学校行事・授業の参観		
3月	実施・評価・改善 CHECK	第3回アンケート調査	第5回委員会 アンケート調査結果 の分析・統計	アンケート調査実施 自己評価と分析
3月	実施・評価・改善 ACTION	第4回関係者計画委員会 学校評価の公表	第4回校内研修会 今年度の反省・次年度へつなぐための改善策研究	

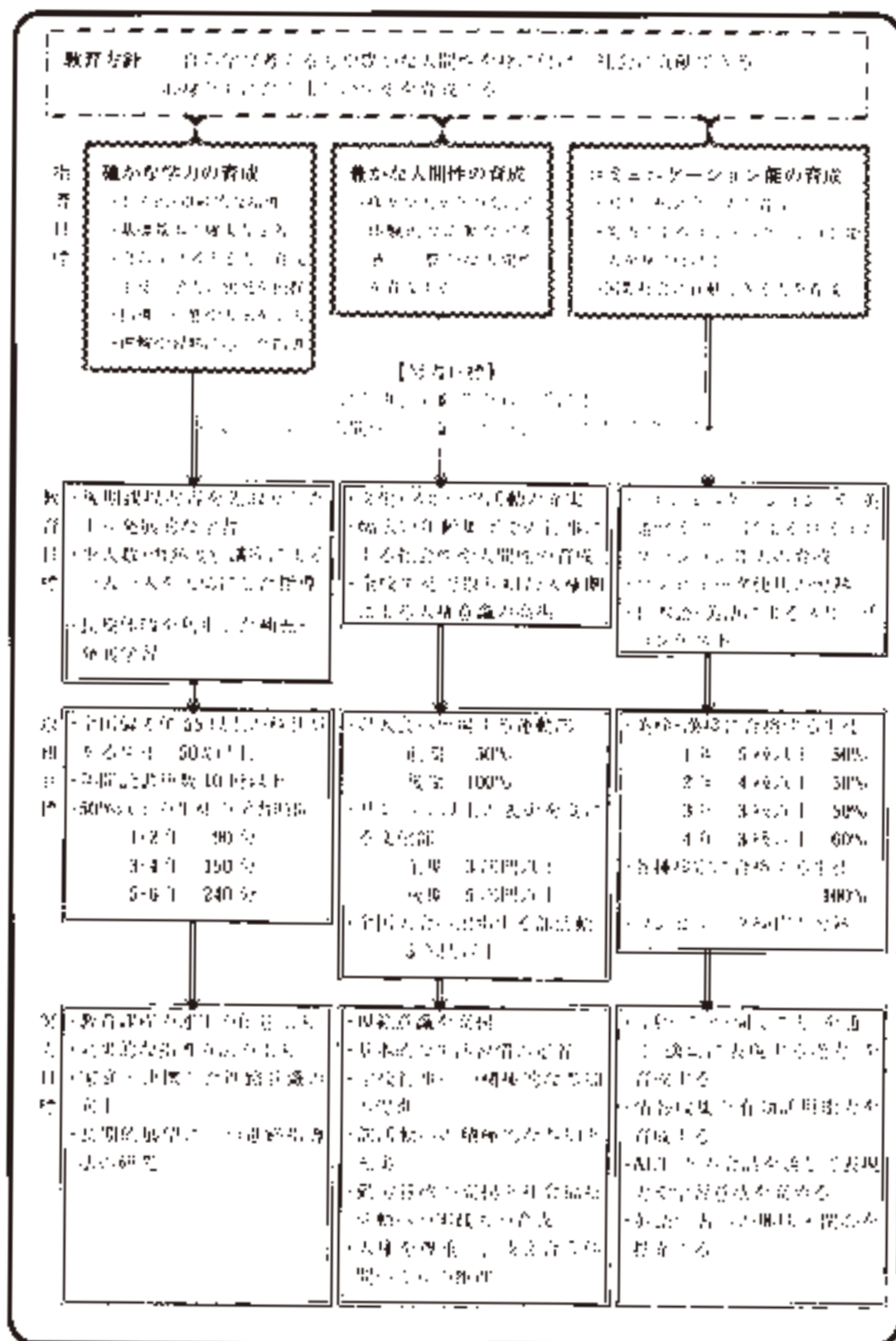
（4）研究実践テーマ

研究実践テーマを「学習・生活習慣向上プロジェクト *AB* プラン」と設定した。このテーマのもと「家庭学習の充実」「あいさつの励行」「清掃の徹底」を図った。

(5) 研究過程

ア 教育方針から具体的目標へ

教育方針・指導目標・教育目標・取組目標・努力目標の関連を明らかにし、整理した。



イ 校内学校評価委員会と学校関係者評価委員会

4月6日(月)	第1回校内学校評価委員会 前年度の成果と課題等の確認・研究の方向性の検討
5月20日(水)	第1回学校関係者評価委員会 委員の委嘱、学校現状報告
6月29日(月)	第2回校内学校評価委員会 学校評価アンケート調査項目等の検討・作成
7月24日(金)	第3回校内学校評価委員会 アンケート集計結果の分析と検討（改善策を各課に依頼）
8月5日(水)	第2回学校関係者評価委員会 アンケート調査結果報告
1月6日(水)	第4回校内学校評価委員会 アンケート調査結果報告・今後の課題取組の確認
1月13日(水)	第3回学校関係者評価委員会 アンケート調査結果報告・関係者評価委員による評価の実施
3月に第5回校内委員会と第4回学校関係者評価委員会を予定している	

(ウ) 授業参観等でいただいた意見

本校では、授業参観と講演会などと同じ日に行い参加者の増加を図っている。その際にいただいた自由表記のアンケートから一部を紹介する。

【授業参観を通して】

- 授業中の生徒と先生の様子に信頼関係が見られるように思いました。
- どの教室も明るい雰囲気での授業がなされており、生徒がのびのびしていたように思います。
- 少人数での授業が行われており、生徒一人一人が大切にされていると思いました。
- 少し落ち着きのない生徒もいたが、先生の対応がよく、その後はまじめに取り組んでいた。
- 生徒の多くが自ら手を挙げて、積極的に発言しており、日頃の生徒と先生の関係や授業がうまくいっているのがよくわかりました。

【人権・同和教育講演会に参加して】 6月19日(金)

- 歌と話を通しての命の大切さがよくわかった。
- 本当の豊かさ、幸せを考えさせられました。

【人権劇を観劇して】 9月28日(月)

- 生徒たちが非常に熱心に真剣に取り組んでいる姿に感激しました。人権劇中の「部落はどこにもない、人の心のなかにあるんだ」という言葉が印象に残りました。潜在意識としての「差別」について考えさせられ、日頃漫然と生活している自分自身を省みるよい機会となりました。ありがとうございました。

- 朗読劇、人権劇共に生徒さんの真剣な演技に心を打たれました。内容もとてもよかったし、一番心に残っているのは、差別に背を向けて生きていたら差別はなくなる、ということと、差別をしていたら自分のところへ返ってくるということです。本当に今日は自分を見つめなおすよい機会を与えていただきありがとうございました。
- 大変すばらしい人権劇でした。出演者、スタッフともに大きな達成感を得られたことと思います。この達成感、充実感はきっと彼らの生きる力となると思いました。
- 普段生徒たちが思っている「同和教育はしなくてもよい」「教えるから知るんだ」といった「寝た子を起こすな」論を支持する生徒も少数ながらいる中、今回の劇はそういうセリフも入っており、生徒たちに「同和教育の必要性」を訴えるとてもよい人権劇でした。

【合唱コンクールについて】 10月28日（水）

- 大変よい試みである。全員がステージで歌うという経験は、必ず将来大きなプラスになると思う。
- 3年生の頑張りに拍手を送りたいです。生徒の聴く態度等もとてもよかったと思います。先生方の思いが生徒たちに伝わっていたのでしょう。

【人権集会に参加して】 11月25日（水）

- 生徒達の発表を聴いて、日頃から人権を大切にする教育がなされていることをたいへんうれしく思いました。
- 人権作文、人権メッセージともに立派な内容で、感動した。周りの人たちを大切にしようとする気持ちが伝わってきた。今のその心を大切にしてほしい。

【公開研究授業を参観して】 12月11日（水）

- 小学校の「総合的な学習の時間」にもバリアフリーの問題等、同じような学習をしているが、小学校→中学校→高校と、同じものを見たり体験したりしても、学年の進行につれて深まりのある気付きや考えがあるものだと感心した。
- 司会や板書、プレゼンテーションなどを生徒自身が行っており、高校生の学びの高さや成長の大きさに驚いた。
- 「体験したこと」、「市で聞き取り調査したこと」、「それらを通して思ったこと」等を伝えることはできているが、「ここが問題だ」とか「私たちにできることを何かしていこう」というような熱意や意欲が若干乏しいかなと思った。
- 生徒の生の声や思い、特に心の問題についてもっと聞きたかった。車椅子に乗って体験学習をする際、「周囲の目が気になった」という発言があったが、もう一歩進んだ考えや行動がほしかった。

【生徒や教職員について】

- 気持ちのよいあいさつを生徒からしてもらいました。
- あいさつが気持ちいいです。
- 男女生徒ともあいさつが大変よくできている。

○ 生徒からのあいさつが少なかったように思います。

(エ) 学校関係者評価委員会を通して

下記は、第2回関係者評価委員会に提出した資料の一部であるが、このデータからは、あいさつと清掃に関しては評価基準に照らして、「ほぼ満足できる」値にはなっている。しかし、日々の清掃活動状況を見るとまだまだ良好とは言えない状態だと学校は判断していた。

(1学期末)

○豊かな人間性	前期生徒	後期生徒
さわやかなあいさつのできる生徒100%	77%	72%
清掃に意欲的に取り組む生徒100 %	77%	79%
○確かな学力	前期生徒	後期生徒
家庭学習時間が確保できている。	43%	42%
授業が楽しくわかりやすい。	75%	63%

委員からは、「校内の整理や清掃も行き届いている。生徒全体を見ているわけではないので、不十分な生徒もいるのかもしれないが、生徒からはいつも大きな声で気持ちよくあいさつがあり、生徒や学校の雰囲気を変え好ましく感じている。」「満足できる結果が出ていると思うが、生徒にわかりやすいスローガンをつくって意識の更なる向上を図ればどうか。」との提案をいただいた。

生徒会活動の一環として「あいさつの励行」や「清掃の徹底」運動を実施し、その充実を図ってきたところではあるが、さらに「家庭学習時間が少ない」、「自分に自信がない」生徒の割合が比較的高い状況にあることから、「生徒一人一人に自分のよさに気付かせ、自信や目標を持たせながら生き生きとした学校生活を」を合い言葉に、「JASMiN運動」と名付けた運動を展開することとした。2学期に入ってからポスターも作成・掲示し、同運動の積極的な展開を図ってきた。

「JASMiN運動」とは、次に挙げる項目の先頭の文字を並べたものである。

「J」… 授業を真剣に。授業や家庭学習を大切にし、学力の充実を図る。

「A」… あいさつの励行を。自ら進んでさわやかなあいさつを行い、望ましい人間関係を構築する。

「S」… 清掃の徹底を。自分たちが使用している学校内外の施設・設備の清掃を行い、心身共に磨き高めていこう。

「Mi」… 身だしなみを整える。心の乱れは外見・服装に表れる。清楚できちんとした、生徒らしい身だしなみで、身を律していく。

「N」… No遅刻、No欠席。遅刻や欠席をなくし、基本的な生活習慣を確立していく。

この運動のねらいは次の通りである。

① 生徒一人一人に夢や目標を持たせ、その実現のために主体的に学校生活に取り組み、努力する生徒の育成を目指す。

② 基礎・基本を大切にしたい反復学習によって学力の定着を図るとともに、日々



＜生徒制作のポスター＞

の生活を律し、学校や家庭における学習習慣と生活習慣の向上を目指す。

- ③ 地域の諸行事やボランティア活動への積極的な参加を通して、地域社会の一員としての帰属意識と社会に貢献する態度を育成する。

3 研究実践の総括

ア 「PDCA」の基本サイクルを基に調査結果や改善策を組織的・計画的に実践することで、教職員にとっては、職務や学校経営についての意識の高揚、授業の改善や教科指導力の向上等につながった。また、生徒にとっては、一人一人が日頃の学習や生活の在り方について見つめ直す絶好の機会となり、学校生活の質の向上や今東生としての自覚と責任に対する意識の高揚に結び付いた。また、保護者等の本校への理解・協力が深まり、生徒の健全育成への共通認識・実践が一步前進した。

イ 中間評価結果の指導・助言を受けて設定し、学校を挙げて実践を重ねてきた「JASMIN運動」により、生徒の学校生活に落ち着きや自信が見られ、日々の生活・学習習慣の向上が見られるようになった。

ウ 「学年通信」、「人権だより」、「ほけんだより」等学校行事や諸活動を積極的に周知することにより、「具体的な活動状況を知ること、学校への興味関心が一層高まる」との好評を得た。

エ 保護者、評価委員、近隣の小学校等に授業や学校行事への参観を依頼した結果、適度な緊張感の中で生徒や教職員が参観者と気軽に意見交換するなど、相互理解の促進につながった。

学校評価や授業評価の実施によって、生徒や保護者からは様々な意見・要望を、また、学校関係者評価委員や授業参観者からは適切な指導・助言、温かい励ましの言葉をいただくことができた。

地域に根ざした特色ある学校教育を推し進めるため、保護者や地域の方々から客観的かつ望ましい学校評価がいただけるよう、引き続き学校評価や情報提供の充実・改善の研究に創意工夫を重ねながら取り組んでいかねばならない。

聴覚障害特別支援学校における学校評価の充実
～聴覚障害特別支援学校としてのPDCAサイクルの構築を目指して～
 愛媛県立松山聾学校

1 学校の概要

所 在 地	〒799- 2655 松山市馬木町 2325 番地				
設置する課程	全日制			教員数	5 9 名
生徒数（H21.5.1 現在）					
学科名	幼稚部	小学部	中学部	高等部	計
高等部 （普通科・産業工芸科・理容科・被服科）	3	1 3	1 4	1 4	4 4

2 実践研究の概要

（1）はじめに

ア 学校概要

本校は、松山市北部にある、今年度で創立 102 周年を迎えた聴覚障害特別支援学校である。幼稚部、小学部、中学部、高等部を設置しており、46名の幼児児童生徒（以下、生徒とする。）が在籍している。（H22.1.1 現在）主に中・東予地域の聴覚障害のある生徒が在籍するが、通学範囲は広く、南は西予市から東は四国中央市に及ぶ。また、最近は聴覚障害以外の障害を併せ有する生徒が増えつつある。

イ 重点努力目標

「幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、特別支援教育を推進する。」を重点努力目標として教育活動を行っている。この目標を達成するため、特に次の3点に取り組んでいる。

- （ア）基礎学力の定着及び個に応じた指導を推進し、コミュニケーション力の向上を目指す。
- （イ）読書活動を推進し、「読む」「書く」「話す」力と豊かな表現力の育成を図る。
- （ウ）関係機関との連携や教職員の専門性の向上により、特別支援教育のセンター的機能が果たせる学校作りを目指す。

（2）学校評価概要

今年度は、聴覚障害特別支援学校が持つ広域性、専門性及び多様性に着目・特化した学校評価過程の構築を目指して、これまでの評価システムの改善に取り組んだ。

ア 実践内容

（ア）マニフェストの設定

重点努力目標を見直し、それにのっとったマニフェストを策定した。学校評価項目についてもマニフェスト項目と対応するよう設定した。

（イ）自己評価アンケートの実施

アンケートを年2回（7月、12月）実施した。様式は四択マークシート方式に変更して、集計に要する時間を短縮した。また、各評価項目について、教職員、保護者・児童生徒用アンケートの質問項目を対応させ、教職員と、保護者・児童

生徒の評価が比較できるように改めた。なお、自己評価結果については、詳細な見方ができるように結果を数値化して併記した。

(ウ) 学校関係者評価の実施

学校評議会・学校関係者評価委員会を1回増やし、6月、9月、1月の3回実施した。評価委員も8名（昨年度6名）として、多様な立場、観点から評価していただけるようにした。

(エ) 文書、ホームページによる学校評価結果の公表

アンケート集計結果や学校評価委員会による評価結果、改善方策等を速やかに保護者あて文書やホームページを利用して情報提供した。

(オ) 学校評価結果を受けての改善策の検討及び教職員への周知、改善策に基づく教育活動の実施

各評価項目に担当課を割り当て、その課を中心に分析・考察を実施した後、各部会や職員会議等でその結果や改善方策を全教職員へ周知・徹底した。

イ 本校のPDCAサイクル（平成21年度）

実施時期	PDCAサイクル	実践事項
4月	P l a n	・平成21年度教育方針及び重点努力目標、マニフェスト策定 ・重点実施項目の策定 ・平成21年度評価計画の策定
5月	D o	・保護者に対する教育方針等の周知 ・計画に基づく教育活動の実施
6月		・保護者・学校関係者評価委員への情報提供（参観日、運動会等） ・第1回学校評議会・学校関係者評価委員会 （平成21年度学校教育方針及び重点努力目標、マニフェストについての助言・指導・提言、評価計画等の理解）
7月	C h e c k	・アンケートの項目・内容の再検討 ・前期アンケートの実施・考察（保護者・児童生徒・教職員） ・前期アンケート結果の公表（文書、ホームページ等）
8月		・前期自己評価の実施
9月		・第2回学校評議会・学校関係者評価委員会 （前期自己評価結果の説明、学校関係者評価の実施）
10月	A c t i o n	・前期学校関係者評価を受けての改善策の検討、教職員への周知、前期学校評価結果・改善策の公表（文書・ホームページ等）
11月	P l a n	・改善策に基づく教育活動の実施
12月	D o	・保護者・学校関係者評価委員への情報提供（参観日、文化祭等） ・後期アンケートの実施・考察（保護者・児童生徒・教職員） ・後期アンケート結果の公表（文書、ホームページ等）
1月		・後期自己評価の実施 ・第3回学校評議会・学校関係者評価委員会 （後期自己評価結果の説明、学校関係者評価の実施）
2月	C h e c k	・後期学校関係者評価を受けての来年度への改善策の検討、教職員への周知、後期学校評価結果・改善策の公表（文書・ホームページ等）
3月	A c t i o n	
	P l a n	

3 重点研究内容

(1) 教育目標の設定

よりよい学校作りのためには、「計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）」という考え方を学校経営に取り入れ、継続的に改善を図ることができるシ

システムを構築することが必要である。そして、このシステムを有効に機能させるためには、評価する確かな具体的目標を設定しなければならない。そこで、まず本校の教育方針を再確認し、それにのっとった重点努力目標を設定することとした。昨年度までと大幅な変更はないが、先に述べた重点努力目標の(イ)について、『「読む」「書く」「話す」力の育成』としていたものを、基礎・基本となる「読む・書く・話す力」を身に付け、それによって聴覚障害のある幼児児童生徒に「幅広く豊かに表現する力」が育つよう、教職員一人ひとりが様々な教育活動を通して努力する必要があることから、『「読む」「書く」「話す」力と豊かな表現力の育成』と改めた。

また、マニフェストも見直しを行った。「分かる教育の実践をします。」、「特別支援教育を推進します。」、「健康で安全・安心に学べる学校作りを目指します。」を大項目として、そのそれぞれに小項目を設定した。評価の際の大切な資料となるため、小項目については、保護者や外部の方にも理解していただきやすいように、昨年度より具体的に平易な表現とした。以下、今年度のマニフェストである。

【平成21年度 マニフェスト】

- 1 分かる教育の実践をします。
 - ・ 個に応じた指導の充実を図り、一人ひとりの学習状況及び特性を考慮して、創意工夫のある取組を行い、基礎学力の定着並びに向上を図ります。
 - ・ 読書指導の充実を図り、読書感想文・感想画の作成、読書会等の活動を推進し、「読む」「書く」「話す」力の育成を図ります。
 - ・ 情報交換や研修の機会をもち、教職員の専門性及び資質向上を図り、授業力・指導力を高めます。
- 2 特別支援教育を推進します。
 - ・ 適性に応じた進路指導を行い、現場実習、補習指導等の充実を図り、福祉的就労、就職、大学進学等、希望に応じた進路指導を実現します。
 - ・ 自立活動の充実を図り、一人ひとりの実態やニーズを把握して保護者との連携を図りながら個別の教育支援計画を作成し、必要に応じて、ケース会議を開催するなど指導の充実を図ります。
 - ・ ネットワーク会議など関係機関との連携を密にし、聴覚障害教育のセンター的機能が果たせるよう努力します。
 - ・ 教育相談の充実を図るとともに、サマースクール・学校公開・幼児体験学習等の行事を企画し、広く参加を呼び掛けます。
- 3 健康で安全・安心に学べる学校作りを目指します。
 - ・ 安全教育の充実に務め、交通安全教室、防災教育及び、不審者に対する緊急避難訓練等を実施し、安全への理解を深めるとともに、保護者との連携も図ります。
 - ・ 人権・同和教育の充実を図り、年間3回以上の人権学習を実施するとともに、人権・同和教育だよりを発行し、幼児児童生徒、教職員並びに保護者への啓発を行います。

(2) 自己評価の充実

「自己評価」は、学校評価の最も基本となるもので、設定した目標や具体的計画に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。本校では以前から自己評価アンケートを実施してきた。今年度はこのアンケート調査についても大幅な改善を試みた。

まず、実施回数・時期であるが、昨年度の年1回、12月実施から年2回、7月・12月実施へと変更した。7月に前期評価を実施することで、年度途中に目標の再確認やそれまでの教育活動における問題点の把握ができ、軌道修正や改善のための方策の検討・実施が可能となった。また、学校評価項目をマニフェストの小項目と対応させ、自己評価アンケートを作成した。これによってマニフェストの達成状況を数値化して客観的に確認することができるようになった。自己評価の一部として保護者、児童生徒対象のアンケートも以前から実施しているが、質問項目を教職員対象アンケートと対応させた結果を比較することで、教職員と、保護者・児童生徒の評価のずれがよく分かり、正確な自己評価の実施に有効であった。

マニフェスト小項目	学校評価項目	アンケート質問項目	
・個に応じた指導の充実を図り、一人ひとりの学習状況及び特性を考慮して、創意工夫のある取組を行い、基礎学力の定着並びに向上を図ります。	個に応じた指導の充実（一人ひとりの学習状況及び特性を考慮して、創意・工夫のある取組を行い、基礎学力の定着並びに向上を図る。）	保護者	1 子どもに応じて授業内容や指導方法を工夫している。 2 子どもが基礎学力をつけるための取組をしている。
		児童生徒	1 授業ではいろいろな方法で分かるまで教えてくれる。 2 授業は分かりやすい。
		教職員	1 私は、幼児児童生徒に応じて授業内容や指導方法を工夫している。 2 学校は、幼児児童生徒に学力をつけるため、個に応じた取組をしている。

【自己評価アンケート質問項目例】

【学校についてのアンケート（児童生使用）】

このアンケートは、学校をよりよくするためのものです。
1から12の質問について、あてはまるものをマークしてください。

自分の部にマークしてください。
小学部 中学部 高等部

① どちらでもない
② はいというつもりで
③ あまりそうでもない
④ まったくはいわない

1 授業では、いろいろな方法で教えてくれる。
2 授業は、分かりやすい。
3 図書館は明るく、たくさんの本があるので本を借りやすい。
4 読んだり、書いたり、話したりする方が好き。
5 手紙、指文字など、私に合ったコミュニケーション方法を使ってくれる。
6 教材を工夫して、分かりやすく教えてくれる。
7 進路（卒業後のこと）について、相談に乗ってくれる。
8 仕事や大学、専門学校（専門学校等）などについて、教えてくれる。
9 働きや福祉に関することなどについて、いろいろ教えてくれる。
10 自立活動の時間に、言葉やコミュニケーションの方法などについて、教えてくれる。
11 火事や地震、不審者に対する訓練をしてくれる。
12 道徳や学級会（ホームルーム活動）などの時間に、命を大切にすることや優しい心を持つことについて、教えてくれる。
☆先生や学校にお願いしたいことを書いてください。

【学校における教育活動についてのアンケート（保護者用）】

毎朝に送迎する送迎活動について、1から18の項目に
対する学校の取組をマークしてください。また、下の
内容には学校をより良くするためのご意見を記入ください。

お子さんの活動する部にマークしてください。
幼稚園 小学部 中学部 高等部

① どちらでもない
② はいというつもりで
③ あまりそうでもない
④ まったくはいわない

1 子どもに応じて授業内容や指導方法を工夫している。
2 子どもが基礎学力をつけるための取組をしている。
3 子どもが読書の習慣を身に付けるための取組をしている。
4 子どもの日本語力の育成に努めている。
5 子どもに応じたコミュニケーション手段がとられている。
6 聴覚障害教育について、保護者に必要な知識・情報を提供してくれる。
7 子どもの発達段階に応じた進路指導をしている。
8 進路についての情報が保護者に適切に伝えられている。
9 授業のねらいや目標を設定して、子どもに応じた指導をしている。
10 子どもの学校生活における目標や課題について、保護者とともに考える機会を作っている。
11 関係機関と連携して、幼児児童生徒に対して必要な支援をしている。
12 聴覚障害教育についての情報を外部へ適切に提供している。
13 教育相談を通して、積極的に外部の聴覚障害のある子どもたちの支援をしている。
14 習字を知ってもらうための行事を多く設けている。
15 子どもの発達段階に応じた安全教育に努めている。
16 事件・事故や災害から身を守る方法を身に付けるための取組をしている。
17 生命の尊さや他人を思いやる心を育てる取組をしている。
18 人権教育についての情報が保護者に適切に伝えられている。
☆学校をより良くするためのご意見がありましたらご記入ください。
（小学部児童は、学級で対応します。）
ご協力ありがとうございました。

平成21年度自己評価表アンケート項目対応表

愛媛県立松山聾学校

領域	評価項目	具体的目標 【 】は今年度の重点実施項目	アンケート項目番号	
			教員・保護者用	児童生使用
学習指導・言語指導	個に応じた指導の充実	一人ひとりの学習状況及び特性を考慮して、創意・工夫のある取組を行い、基礎学力の定着並びに向上を図る。 【個別指導（習熟度別学習）の実施】	1. 2	1. 2
	読書指導の充実	学校の図書を充実し、年間利用数の向上を目指す。 読書感想文・感想画の作成、読書会等の活動を推進し、「読む」「書く」「話す」力の育成を図る。 【図書委員による啓発活動の充実】	3. 4	3. 4
	専門性及び資質の向上	情報交換や研修の機会をもち、聴覚障害教育における授業力・指導力の向上を図る。 特別支援学校教諭免許状（聴覚障害領域）の取得率向上を目指す。 【各種研修会、研究授業等の充実】	5. 6	5. 6
特別支援教育体制	適性に応じた進路指導	現場実習、補習指導等の充実を図り、福祉的就労、就職、大学進学等、希望に応じた進路指導を実現する。 【現場実習評価会の実施】	7. 8	7. 8
	自立活動の充実	一人ひとりの実態やニーズの把握に努め、保護者との連携を図りながら、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、指導の充実を図る。 【ケース会議の充実】	9. 10	9. 10
	聴覚障害教育のセンター機能の充実	ネットワーク会議を開催し、関係諸機関との連携を深めるとともに、地域の相談窓口を開設し、広報に努める。 【関係諸機関との連携強化】 教育相談の充実を図るとともに、サマースクール・学校公開・幼児体験学習等の行事を企画し、広く参加を呼び掛ける。 【サマースクールの拡大実施】	11. 12 13. 14	設問なし 設問なし
生徒指導	安全教育の充実	交通安全教室、防災教育及び、不審者に対する緊急避難訓練等を実施し、安全への理解を深めるとともに、保護者との連携も図り、安全教育の充実を図る。 【個々の障害に配慮した情報取得や判断方法の指導】	15. 16	11
	人権・同和教育の充実	年間3回以上の人権学習を実施するとともに、人権・同和教育だよりを発行し、幼児児童生徒、教職員並びに保護者への啓発を行う。 【幼児児童生徒、教職員並びに保護者への啓発の促進】	17. 18	12

【評価項目－アンケート項目対応表】



【第3回学校関係者評価委員会の様子】

【アンケート用紙（上：児童生徒用、下：保護者用）】

（3）学校関係者評価委員会の充実

今年度は、学校関係者評価委員会を6月、9月、1月の3回実施した。評価委員も8名（昨年度6名）として、多様な立場、観点から評価いただけるようにした。6月の第1回評価委員会において、今年度の学校

教育方針、重点努力目標、マニフェスト及び評価計画を説明し、それについての指導・助言をいただいた。前期自己評価実施後の9月には第2回評価委員会を実施し、アンケート結果やそれに対する考察等を説明した。評価委員の方からはこれまでの学校経営に対する指導・助言、また今後の改善方策についての提言をいただいた。事前に自己評価結果を送付し、検討・分析していただくことで自己評価結果に対する議論も深まり、現在の本校の状況や特別支援学校ならではの課題・問題点などについても理解していただくことができた。活発な協議の中で、学校をより良くするための多くの貴重な意見をいただいた。1月の第3回評価委員会においても同様の方法で実施し、今年度の学校経営に対する指導・助言、また来年度に向けての提言をいただいた。学校関係者評価が充実したことで学校評価の客観性を一層高めることができた。

【第2回学校関係者評価及び改善策（抜粋）】

学校関係者評価委員会からの評価・提言等	提言等に対する改善方策等
・様々なニーズの根底にはコミュニケーションの問題があると思われる。ニーズの内容など、数値の先にあるものを知りたいが、そのためには、児童生徒と教職員とのコミュニケーションが鍵を握っているのではないかと。 ・卒業後の進路については、ほとんどの生徒が、希望する仕事に就き、また、希望する学校へ進学できており、一定の成果が上がっている。保護者へ進路情報がうまく伝わっていないようである。情報提供の方法について改善を検討してもらいたい。 ・外部の聴覚障害者に対する支援体制も整っており、センター的機能がよく果たされている。	・聴覚障害教育に対する専門的な知識を身に付けるため、今年度は多くの教員が聴覚障害領域の特別支援学校教諭免許状取得のための講座を受講した。今後も、全教職員が専門性の維持・向上を図れるよう、また幼児児童生徒の気持ち理解できるよう、各種校内研修の工夫を行いたい。また、職員朝礼時の「手話講座」等を通して、教職員のコミュニケーション能力の向上にも取り組みたい。 ・現在、卒業後の進路については、ほぼ本人の希望に沿うことができています。今年度から普通科が新設されたため、さらに幅広く就職先、進学先を開拓していく必要がある。主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を身に付け、社会人・職業人として自立できる生徒を育てるために「キャリア教育」という観点から、現場実習を含めた進路指導の一層の充実を図っていききたい。進路情報の保護者への提供については、「進路だより」の発行回数を増やし、改善を試みてきたが、今後は、幼児児童生徒の発達段階に応じた内容とすることで、一層の充実を図りたい。 ・関係諸機関との連携を深める機会や体制作り、教育相談の充実や各行事等の企画運営については一定の成果が上がっている。今後は、サマースクール、学校公開、幼児体験学習について、一層充実させ、拡大実施できるよう努めるとともに、これらの行事が校内の幼児児童生徒、保護者にとっても有用な行事になるよう改善を図りたい。また、ネットワーク会議の内容等について、保護者の理解が得られるよう「自立活動だより」やPTA集会等を通して情報提供を行っていききたい。

（４）評価結果の活用

4月以降、マニフェストの達成に向けて、全教職員が教育活動に取り組んできた。前期学校評価では、現在の教育活動に対して保護者、児童生徒ともおおむね満足しており、昨年度同様ほとんどの評価項目において肯定的評価が約8割、項目によっては9割超と、非常に高い評価であった。しかし、これに満足することなくより良い学校作りを目指すため、昨年度の学校評価結果や今年度前期アンケート結果、学校関係者評価を綿密に分析して、改善のための取組を実践した。そのいくつかを紹介する。

一つ目は、聴覚障害特別支援学校としての専門性及び資質の向上のための取組である。本校では以前から職員朝礼時に『手話講座』と題して手話の勉強会を続けている。担当教



【ワンポイント手話の様子】

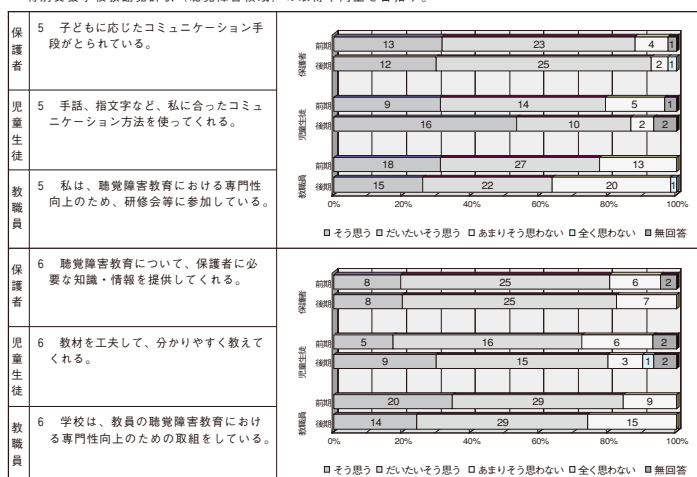
職員2名が5個の単語を紹介し、その単語を使った会話劇や寸劇などを行う。これを今年度は原則毎日実施、担当も全教職員で交代制とした。教職員一人ひとりが積極的に取り組むことで、学校全体のコミュニケーション能力の向上につながようという改善策である。先に紹介した前期学校関係者評価にもあるように聴覚障害特別支援学校である本校にとって教職員の手話能力は生徒とのコミュニケーションを図る上で必要不可欠なもの

である。新任の教員にとってこの『手話講座』は赴任後半年間行われる新任者研修とともに手話を身に付けるのに大いに役立っている。

また、専門性・資質を向上させるためには手話の習得だけでは不十分で、聴覚障害に対する専門的な知識も身に付ける必要がある。そこで、今年度はこの『手話講座』とは別に自立・連携課が担当して、週1回の『ワンポイント手話』を職員朝礼時に実施することとした。「発音・発語の指導」、「補聴器の調整」、「手話表現の工夫」など内容は多岐にわたるが、どれも聴覚障害教育に携わる我々にとって必要な内容である。これらの取組によって一步一步ではあるが、コミュニケーション能力や専門性は着実に向上していると思われる。このような取組の成果もあり、前期アンケートでは昨年

専門性及び資質の向上

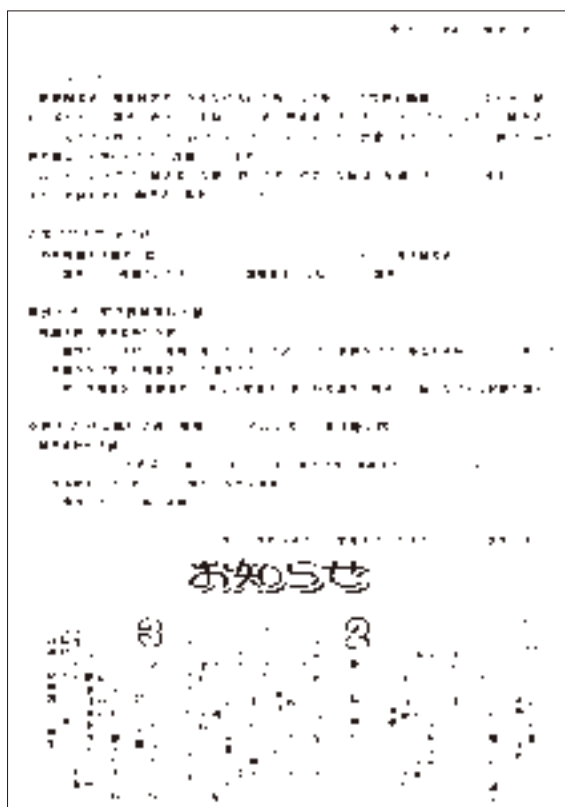
- ・情報交換や研修の機会をもち、聴覚障害教育における授業力・指導力の向上を図る。
- ・特別支援学校教諭免許状（聴覚障害領域）の取得率向上を目指す。



【アンケート結果（前期・後期比較）抜粋】

度と比べ評価が向上し、後期アンケートでは前期以上に保護者、生徒から肯定的評価をされ、否定的評価が減少した。教職員の評価は低下がみられたが、この項目についてはここまでできれば十分ということがなく、1年間の教育活動の実践で、「まだ自分には足りないものがあり、今後も研さんを積むことが必要だ」という一層の向上を目指す気持ちの現れではないかと考える。この課題を解決するためには長期にわたる継続した取組が必要であり、今後も特別支援学校（聴覚障害領域）教諭免許状取得への取組、学校内外の各種研修会への参加と併せてこのような取組を継続していくことで、更なるコミュニケーション能力、専門性・資質の向上に努めていきたいと考えている。

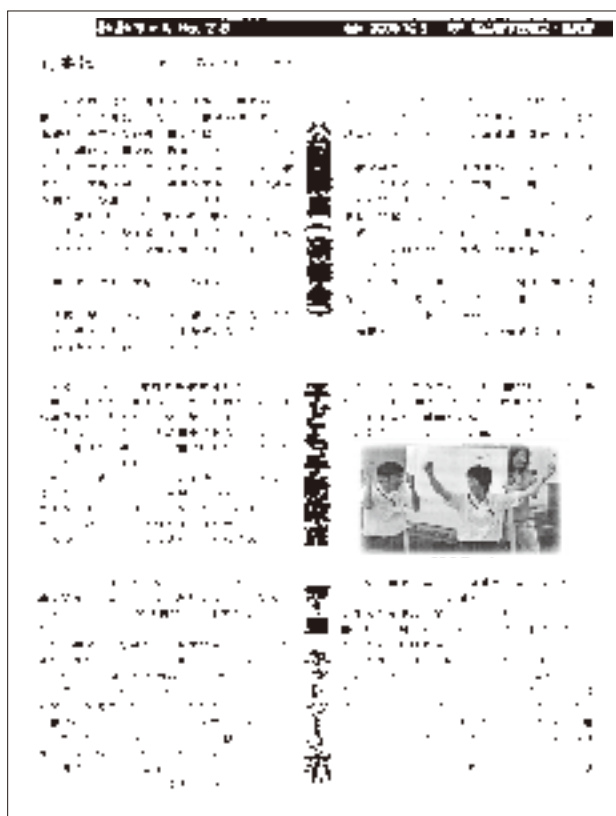
二つめは、保護者に対する教育活動についての情報提供の改善である。進路指導に関して、第2回学校関係者評価委員会においても委員の方々から「卒業後の



【進路・人権だより（抜粋）】

進路については、ほとんどの生徒が希望する仕事に就き、また希望する学校へ進学できており、一定の成果が上がっている」と評価いただいた。しかし、「保護者へ進路情報がうまく伝わっておらず、進路について不安を抱えている保護者もいるのではないか、情報の内容、提供の方法について改善が必要である」との指摘も受けた。そこで進路・人権課では、高等部のみならず、幼稚部から高等部まで、それぞれの発達段階において生徒やその保護者が必要としている情報は何かを分析して適切に提供するように心掛けた。同課が発行する『進路・人権だより』を増刊し、進路にかかわる学校行事案内・報告、卒業生からの近況報告や大学入試情報など、進路について多くの話題や情報を見守る生徒・保護者に投げ掛けた。年間3回以上の発行を目標としていた『進路・人権だより』は2学期末ですでに第5号を発行している。

現在の特別支援学校には、関係機関との連携を密にして特別支援教育のセンター的機能を充実させることが要求されている。本校でも不定期を加えると30名を超える教育相談、関係機関との連携を深めるためのネットワーク会議、本校の教育活動を外部の方に知っていただくための学校公開、サマースクールなど多くの行事を実施している。外部への地道な広報活動の成果もあって教育相談者数、各種行事参加者も年々増加して、聴覚障害児の早期発見・早期教育にもつながっている。ただ、これらの活動が外部に対する支援のため、本校保護者に、十分には理解されていないことが前期学校評価で明らかになった。そこで、自立・連携課が定期的に発行している『みみちゃん～自立活動だより～』を利用して活動の紹介を試みた。これは保護者に



【自立活動だより（抜粋）】

配布するとともに本校ホームページにも掲載している補聴器や人工内耳、その他、聴覚障害に関する情報の提供を目的とするものであるが、保護者への外部支援に関する情報提供の手段として活用した。紙面の都合上、すべての活動を掲載することはできなかったが、本校保護者にはなじみの薄いネットワーク会議の様子など活動の一端を紹介することができた。

保護者への情報提供の改善としてこのような取組を実施してきた。後期学校評価では、残念ながらいづれも十分な成果を上げることができなかったが、改善策の実施期間も短く十分な検証ができていないこともあり、来年度も継続して実施するとともに情報の提示機会の増加、他の提示方法の検討にも取り組んでいきたい。センター的機能充実のための取組については今後一層の拡大・充実を図り、併せて外部支援の充実が内部（校内）支援の充実につながることを保護者に理解していただけるような具体的な説明や啓発を含めた情報提供のあり方を考えていきたい。また、「センター的機能（外部支援）の充実」に対する評価方法についてはアンケート対象者、学校関係者評価委員会構成メンバーなど今後さらに検討を進め、改善する必要があると思われる。

4 研究の成果と課題

【成果】

- 学校評価項目をマニフェストと対応させたことで、マニフェストの達成状況を数値的に客観的な視点で確認することができるようになった。これまで保護者や児童生徒がマニフェストに対する学校の取組についてどう感じているかについて知ることは難しかったが、これによって理解しやすくなった。
- PDCAサイクルを確立させたことで、教育活動における課題が明確に見えるようになった。その結果、各教職員が個々の課題と向き合い、それぞれの立場で今後何をすべきかという具体的な改善策を考え、実践していこうとする意識が高まった。
- 全教職員で自己評価を行い、結果を分析して改善策を考え、実施した改善策が有効であったかどうかについて後期学校評価で検証し、その方策を継続すべきか、修正が必要か、それとも新たな方策を考えるべきかなどについて検討した結果を全員が共有することで、今後の教育活動の方向性や、来年度へ向けての具体的な取組についての共通理解を図ることができた。
- 保護者に学校評価に参加していただき、また評価結果として学校の良い面だけでなく、課題や問題点及びその改善策についてありのままに伝えることで、本校の教育活動に対する関心が一層高くなり、聴覚特別支援学校としてのあり方についてもより真剣に考えていただけるようになった。そのことが確かな評価資料の収集や正確な自己評価につながった。
- 本実践研究に取り組むことで、本校の課題・問題点だけではなく、良い面や自慢できる取組も保護者や評価委員の方、そして外部の多くの人たちに知っていただくことができた。障害のある生徒たちが社会自立という目標に向かってがんばっていること、そしてそこに勤務する教職員も生徒たちのために日々努力していることを多くの方々知っていただけたことが最大の収穫である。

【課題】

- 各評価項目に対して今年度の重点実施項目を設定したが、9項目と数が多く、内容が多岐にわたるため、十分な実践成果をあげることができなかった。来年度は、今年度の学校評価結果を参考に重点実施項目を精選し、その実施に向けて全教職員が取り組める体制作りに努めたい。
- 学校評価を2回実施したが、前期自己評価アンケート集計から学校関係者評価委員会を経て前期学校評価書の作成までかなりの時間を要したため、前期学校評価結果を踏まえた改善策の実施期間が2か月程度であった。そのため十分な検証ができたとはいえないのが現状である。今後、作業の一層の効率化を図るとともに、自己評価アンケートや学校関係者評価委員会等の実施時期を検討する必要がある。
- 「聴覚障害教育のセンター的機能の充実」については、対象が本校の児童生徒ではなく、地域の学校等に在籍している児童生徒やその保護者に対する取組のため、マニフェストの項目ではあるが、本校の保護者に評価していただくことには無理があるように思われる。学校がどのような活動をしているのかという情報を本校保護者にも積極的に発信し、理解していただくことは大切であるが、今後、この取組の対象である外部の生徒やその保護者にも評価していただく方法を検討する必要がある。
- 学校評価によって明らかとなった課題の解決のためには、今、児童生徒や保護者が何を必要としているのかなど、結果として表れた数値の先にあるものを知ることが大切である。そのためには、聴覚特別支援学校としての専門性の向上が不可欠であり、今後、全教職員が、授業力、指導力、そしてコミュニケーション力の向上に努めていくことが必要である。

学校評価事業運営委員会委員及び実践校一覧

1 学校評価事業運営委員会委員

所 属 機 関	職 名	氏 名
愛媛大学教育学部	准教授	露口 健司
愛媛県高等学校長協会	元会長	栗田 正己※1
愛媛県高等学校PTA連合会	会 長	成川 献次※2
愛媛県高等学校PTA連合会	副会長	菅野 光子
大洲肱北公民館	館 長	久保 史朗
富士火災海上保険（株） ITオペレーション本部人事総務グループ	グループ長	新尾 智子
伊予市立港南中学校	校 長	松尾多美子

※1 運営委員会委員長 ※2 運営委員会副委員長

2 学校評価事業実践校

学 校 名	学校住所及び URL
愛媛県立三島高等学校	四国中央市三島中央5丁目11-30 http://ehm-mishima-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立新居浜南高等学校	新居浜市篠場町1-32 http://niihamaminami-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立松山東高等学校	松山市持田町2丁目2-12 http://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立大洲高等学校	大洲市大洲737 http://ehm-ohzu-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立大洲農業高等学校	大洲市東大洲15-1 http://ohzu-ah.esnet.ed.jp/
愛媛県立八幡浜工業高等学校	八幡浜市古町2丁目3-1 http://yawatahama-th.esnet.ed.jp/
愛媛県立宇和島東高等学校	宇和島市文京町1-1 http://uwajimahigashi-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立津島高等学校	宇和島市津島町高田甲2469-1 http://ehm-tsushima-h.esnet.ed.jp/
愛媛県立今治東中等教育学校	今治市桜井2丁目9-1 http://imabarihigashi-s.esnet.ed.jp/
愛媛県立松山聾学校	松山市馬木町2325 http://matsuyama-sd.esnet.ed.jp/

3 愛媛県

愛媛県教育委員会	住所及び URL
高校教育課	松山市一番町四丁目4-2 http://ehime-c.esnet.ed.jp/koukou/index.htm

県立学校における学校評価の実施状況等調査（平成20年度間）

1 県立学校における学校評価の実施状況（％）

	年度	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	県立学校計		
					0	50	100
自己評価の実施率	20	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	19	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	18	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
自己評価の結果の公表率	20	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	19	62.3	100.0	75.0	65.8	*****	*****
	18	52.5	66.7	66.7	55.3	*****	*****
外部アンケートの実施率	20	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	19	96.7	100.0	100.0	97.4	*****	*****
	18	95.1	100.0	100.0	96.1	*****	*****
学校関係者評価の実施率	20	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	19	72.1	100.0	100.0	77.6	*****	*****
	18	68.9	66.7	33.3	63.2	*****	*****
学校関係者評価の公表率	20	100.0	100.0	100.0	100.0	*****	*****
	19	25.0	33.3	50.0	30.5	*****	*****
	18	16.7	0.0	0.0	14.6	*****	*****

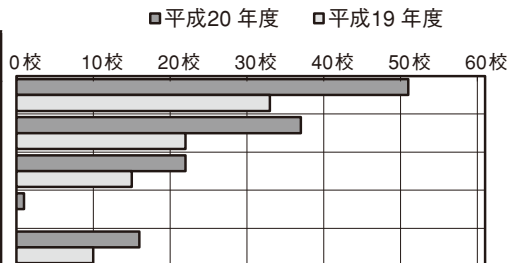
*「自己評価」・校長のリーダーシップのもと、全教職員が参加し、設定した目標等に照らして、自ら評価を行うこと。

*「学校関係者評価」・保護者、PTA役員、学校評議員、地域住民、学識経験者、地域の中学校教員等によって構成された委員会が、学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価すること。

2 県立高等学校等における自己評価及び学校関係者評価の公表方法

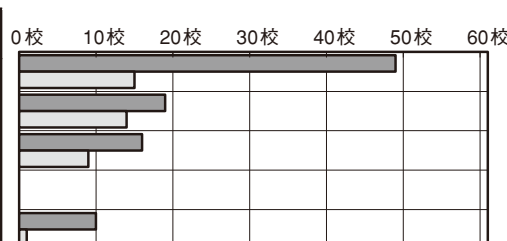
【自己評価】

	19年度		20年度	
	41校中	%	61校中	%
ホームページ	33	80.5%	51	83.6%
学校便りを配付	22	53.7%	37	60.7%
保護者への説明会	15	36.6%	22	36.1%
地域の広報誌に掲載	0	0.0%	1	1.6%
地域住民や関係機関等への説明会	10	24.4%	16	26.2%



【学校関係者評価】

	19年度		20年度	
	15校中	%	61校中	%
ホームページ	15	100.0%	49	80.3%
学校便りを配付	14	93.3%	19	31.1%
保護者への説明会	9	60.0%	16	26.2%
地域の広報誌に掲載	0	0.0%	0	0.0%
地域住民や関係機関等への説明会	1	6.7%	10	16.4%



※平成20年度学校数61：高等学校58（分校4、独立分校3含む）、中等教育学校3校

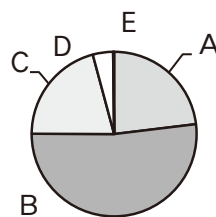
3 県立高等学校等における自己評価の評価項目

	19年度		20年度	
	63校中	%	61校中	%
授業(方法・形態)	63	100.0%	61	100.0%
進路指導	63	100.0%	61	100.0%
教育活動への満足度	60	95.2%	60	98.4%
生徒指導	63	100.0%	60	98.4%
学校行事	62	98.4%	59	96.7%
教育目標	60	95.2%	57	93.4%
部活動	59	93.7%	57	93.4%
生徒の基本的な生活習慣	60	95.2%	55	90.2%
安全管理 (学校安全・危機管理・学校防災等)	60	95.2%	53	86.9%
情報の公開・発信	48	76.2%	52	85.2%
保健管理(学校保健・衛生等)	58	92.1%	50	82.0%
保護者・地域住民等との連携	52	82.5%	49	80.3%
施設・設備	56	88.9%	48	78.7%
教育課程	46	73.0%	44	72.1%
諸計画(評価計画を含む。)	23	36.5%	25	41.0%



4 県立高等学校等の自己評価項目数及び評価結果(平成20年度)

	項目数	A評価の数	B評価の数	C評価の数	D評価の数	E評価の数
全日制(57校)	1,247	277	666	253	48	3
定時制・通信制(17校)	261	71	118	60	12	0
合 計	1,508	348	784	313	60	3
1校当たり	20.4	4.7	10.6	4.2	0.8	0.04
割合(%)		23.1%	52.0%	20.8%	4.0%	0.2%



(A:十分な成果があった B:成果があった C:ふつう D:少しの成果があった E:成果がなかった)

A評価を受けた 具体的な項目	選択科目を多く設定した教育課程を編成できた。生徒の授業評価がいずれの項目も前年度に比べ上昇した。就職希望者全員の就職が実現した。シラバスをホームページでも公開した。えひめ教育の日に合わせて授業公開を行うなど研究授業の回数が増えた。年8回の学校だより等を発行するとともに、町の広報誌に記事掲載を依頼するなど積極的に広報を行った。
C・D評価を受けた 具体的な項目	検定合格率の目標が達成できなかった。学習時間調査では、目標の家庭学習時間を確保できなかった。生徒一人当たりの図書貸し出し冊数が目標より少なかった。公開授業週間の保護者の参加が少なかった。

5 県立高等学校等における学校関係者評価委員会

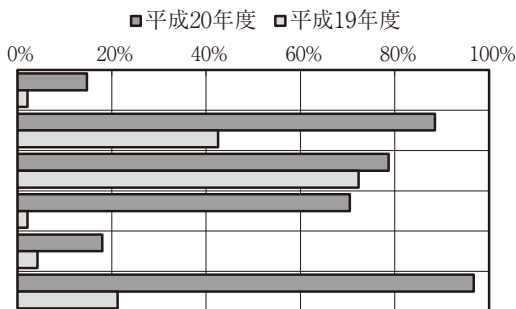
(1)学校関係者評価委員会の実施回数・実施月(平成20年度)

実施回数	校数	実施月()内は校数
1回	38	5月(2) 6月(5) 7月(7)
2回	19	8月(2) 9月(1) 10月(3)
3回	4	11月(5) 12月(4) 1月(1)
	61	2月(34) 3月(24)

(2)学校関係者評価委員会の構成人数(平成20年度) : 65人

(3)学校関係者評価委員会の構成員

	19年度		20年度	
	47校中	%	61校中	%
保護者	1	2.1%	9	14.8%
地域住民や関係機関職員等	20	42.6%	54	88.5%
学校評議員	34	72.3%	48	78.7%
中学校等の教職員	1	2.1%	43	70.5%
その他	2	4.3%	11	18.0%
P T A 役員	10	21.3%	59	96.7%



※学校評議員のうち、保護者・P T A役員・地域住民等の立場で委員会の構成メンバーになっている場合は、それぞれ保護者・P T A役員・地域住民に入れている。

6 県立高等学校等における平成21年度の学校評価の取組について

(平成20年度の評価を踏まえて今年度に改正した点:数字は校数)

- 学校マニフェストの具体的な数値目標の見直し(10)
- 重点努力目標の見直し(6)
- 組織体制の充実(6)
- 自己評価項目、評価回数、調査方法、公表内容等の検討(5)
- 教育目標の変更(3)
- 特色ある学校づくりの推進(3)

7 県立高等学校等の学校評価に関する校長ヒアリング(平成21年3月実施:数字は校数)

評価が高かった項目	評価が低く、今後の課題と考えている項目
部活動(13)、進路指導(13)、学習指導(8) 地域に根ざした活動・地域貢献(11) 学校行事(5)、生徒指導(4)、特別活動(4)	家庭学習(18)、学習指導(14)、進路指導(11) 交通安全(5)、生徒指導(4)、資格取得(3)、 ボランティア活動(2)

8 県立特別支援学校における自己評価項目及び評価結果(12校中)(平成20年度)

	学校数	項目数	A評価の数	B評価の数	C評価の数	D評価の数	E評価の数
学習指導	11	27	7 (25.9%)	18 (66.7%)	2 (7.4%)	0	0
			(92.6%)				
生徒指導・特別活動	8	20	9 (45.0%)	11 (55.0%)	0	0	0
			(100.0%)				
センター的機能	9	12	5 (41.7%)	6 (50.0%)	1 (8.3%)	0	0
			(91.7%)				
進路指導	11	18	3 (16.7%)	8 (44.4%)	7 (38.9%)	0	0
			(61.1%)				

県立学校における学校評価実施要領

1 趣旨

この要領は、愛媛県県立学校管理規則（昭和31年愛媛県教育委員会規則第21号。以下「学校管理規則」という。）の第49条の4第4項の規定に基づき、県立学校における学校評価の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

2 学校評価の目的

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、学校、地域の特色及び生徒の実態に応じた目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組等について評価することにより、各学校の特色ある学校づくりを推進するとともに、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 各学校が、評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

3 学校評価の内容

- (1) 自己評価 学校管理規則第49条の4第1項（同規則57条第1項において準用する場合を含む。）に規定する県立学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら行う評価をいう。
- (2) 学校関係者評価 学校管理規則第49条の4第2項（同規則57条第1項において準用する場合を含む。）に規定する自己評価の結果を踏まえて保護者その他の当該学校の関係者により行う評価をいう。

4 自己評価

(1) 学校評価委員会の設置

県立学校においては、次の(2)・(3)の自己評価及び学校運営の改善方策の策定を円滑に実施するため、校長を委員長とし、関係教職員によって構成する学校評価委員会を設置する。

(2) 自己評価の実施

ア 校長は、各学校の教育方針に基づき重点目標を定めるとともに、教育活動その他の学校運営に係る評価項目を設定する。

イ 校長は、評価項目ごとに中長期及び単年度の達成すべき具体的目標を設定する。

ウ 具体的目標は、達成したい目標とその達成状況を明確にするため、可能な限り数値化を行う。

エ 校長は、ア～ウをまとめた「自己評価表」（計画：様式1）を定める。

オ 校長は、ア～ウで定めた目標の達成状況の把握及びその評価を実施し、その結果を「自己評価表」にまとめる。

カ 自己評価に当たっては、生徒による授業評価を含む、生徒、保護者、地域住民に対するアンケート等の結果を活用する。

(3) 学校運営の改善方策の策定

校長は、自己評価の結果を踏まえ、学校運営の次年度の改善方策を策定するものとし、「自己評価表」（最終）にまとめる。

5 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の設置

ア 校長は、当該学校の教職員以外の者で、保護者、PTA役員、学校評議員、地域住民、学識経験者、地域の中学校の教職員等によって構成する委員会（以下「学校関係者評価委員会」という。）を設置する。

イ 学校関係者評価委員会の委員は、校長が委嘱する。

(2) 学校関係者評価委員会への説明

校長は、次に掲げる事項を学校関係者評価委員会の委員に対して説明する。

ア 各学校の重点目標と中長期及び単年度の具体的目標及び計画

イ 自己評価結果及び学校運営の改善方策

ウ その他必要と認める事項

(3) 学校関係者評価の実施

学校関係者評価は、学校関係者評価委員会において次に掲げる事項を処理することにより実施する。

ア 上記ア～ウに定める事項の内容が適切かどうかの検討

イ 教育活動その他の学校運営の改善に関する提言

(4) 校長への報告

学校の自己評価に対する所見及び学校運営の改善に向けた提言等を学校関係者評価報告書（様式2）に取りまとめ、校長に提出する。

(5) 学校関係者評価委員会に対する情報提供

校長は、学校関係者評価委員会からの求めに応じ、学校訪問及び教職員、生徒、保護者に対するアンケート等、学校関係者評価の実施に関し必要な情報を提供するものとする。

6 公表

(1) 校長は、学校評価の結果を保護者・地域住民に対し、各学校のホームページ、保護者説明会、学校だより、地域広報誌等の方法により広く公表するものとする。

(2) 公表に当たっては、個人情報の保護について十分に留意すること。

7 県教育委員会への報告

学校管理規則第49条の4第3項の規定による報告は、次の書類によりそれぞれ定める期限までに行うものとする。

(1) 自己評価表（計画） 5月末日

(2) 自己評価表（最終） 3月末日

(3) 学校関係者評価報告書 3月末日

附 則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

(様式1)

自己評価表

(学校名)
(学校番号)

教育方針		重点目標			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

(学 校 名)

(学 校 番 号)

評 価 実 施 日		平成 年 月 日 ()		
委員	氏 名	所 属 等		備 考

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等

平成 2 1 年度
学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究事業
県立学校における学校評価実践事例集
発行日 平成 2 2 年 2 月
発行者 愛媛県教育委員会高校教育課
住 所 愛媛県松山市一番町四丁目 4 - 2